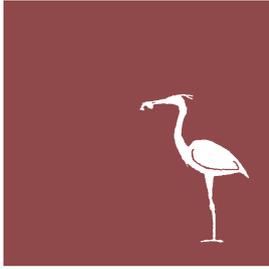


浦幌町立博物館

# 年報

第16号



Historical Museum of Urahoro

---

**2015**

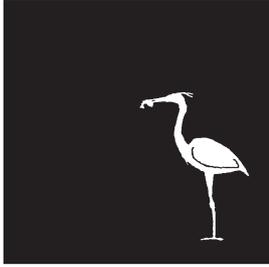
**11**

---

浦幌町立博物館

# 年報

第16号



Historical Museum of Urahoro

---

**2015**

**11**

---

## 序

『浦幌町立博物館年報』第16号をお届けします。これは、2014（平成26）年度における本館の活動状況を取りまとめたものです。

平成26年度は、豊北海岸で保護された稀少鳥類エトピリカの本剥製が新たに収蔵され、即日、常設展示室で公開されています。エトピリカは北太平洋沿岸に見られるウミスズメ類の海鳥ですが、日本では浜中町、厚岸町、根室市の離島にのみ繁殖している、珍しい鳥です。このため、環境省のレッドリストで絶滅危惧IAというきわめて高いランクの絶滅危惧種に指定されているほか、種の保存法の「国内希少野生動植物種」に指定され、保護を受けています。

種の保存法指定種の標本の所有には国の許可が必要ですが、本館は博物館法上の登録博物館ではないため、元来所有は認められません。しかし、当町域の海岸で保護された後、関係機関へ搬送され、町民をはじめ多くの人達の協力によって救命の措置がとられたものの衰弱死した経緯もあり、当館での保存・公開が認められるに至りました。関係者のご努力にあらためて深く感謝申し上げる次第です。

本年度からの新たな取り組みとして、個人のコレクションを小さく紹介するコーナー「ぷちミュージアム」を開始いたしました。資料収集や調査研究にもとづく通常の博物館展示とは性質が異なりますが、さまざまな方に博物館へ足を運んで頂く機会として、また「モノを集める」ことの楽しさを知って頂く機会として、ぜひ多くの方々に御活用いただければと考えております。

なお、これまで館長として永く本館の博物館活動を牽引してきた佐藤芳雄が、平成26年度末をもって勇退となりました。平成27年度からは学芸員1名を配置して、新たなスタートを切っているところです。

町民の皆様はじめ、日頃からご支援、ご協力頂いております皆様方に感謝申し上げますと共に、引き続き変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

2015年11月

浦幌町立博物館 学芸員 持田 誠

## ● 本文目次

序	次	i
I.	施設の概要	1
II.	常設展示構成	2
III.	資料の受け入れ	13
	(1) 受贈資料	13
	(2) 採集資料	14
	(3) 受贈図書資料	15
IV.	資料の提供	21
V.	博物館の事業	23
VI.	レファレンス業務	42
VII.	博物館ボランティア	42
VIII.	博物館日誌(抄)	43
IX.	博物館の利用状況	51
X.	博物館の組織	52
XI.	博物館活動のマスコミ報道	53
XII.	条例、教育委員会規則、教育委員会規程	97
XIII.	平成26年度予算	109

## ● 写真目次

PL. 1	H6.4.26	移動博物館教室「春の草花観察会：ウラボロイチゲ」	28
PL. 2	H6.5.10	うらほろスタイルゼミナール「知つとこ浦幌」	28
PL. 3	H26.7.6	博物館移動講座「野鳥編」	28
PL. 4	H26.7.19	博物館講座「蝶の標本づくりに挑戦しよう」	29
PL. 5	H26.7.20	博物館講座「子ども考古学教室」	29
PL. 6	H26.7.26	うらほろスタイルゼミナール「過去の津波痕跡から防災を考えよう！」	29
PL. 7	H26.7.27	移動博物館教室「新第三紀の浦幌を探る・夏休み自由研究企画」	30
PL. 8	H26.8.11	博物館講座「語り部 子どもたちに戦争を伝える『むかし戦争がありました』」	30
PL. 9	H26.8.13	うらほろスタイルゼミナール「浦幌周辺で発見された貴重な化石」	30
PL.10	H26.8.19	博物館講座「子どもヒグマの学校」	31
PL.11	H26.9.4	移動博物館教室「秋の草花たちは元気かな？」	31
PL.12	H26.9.6	博物館講座「開拓時代の食べ物試食会」	31
PL.13	H26.9.21	移動博物館教室「町内史跡見学会」	32
PL.14	H26.10.3	博物館講座「皆既月食を観察しよう！」	32
PL.15	H26.11.1	収蔵資料レコードコンサート	32
PL.16	H26.11.8	移動博物館教室「ハクガンたちは元気かな？」	33
PL.17	H26.11.23	うらほろスタイルゼミナール「メディカル・アロマ」香りの歴史	33
PL.18	H26.12.13	ブックトーク&レコードコンサート	33
PL.19	H26.12.6	北海道開拓記念館リニューアル予告展示会講座「北の土偶」	34
PL.20	H26.12.13	うらほろスタイルゼミナール「社会教育施設ボランティア養成連続講座『博物館って楽しいよ』」	34
PL.21	H26.12.15	博物館講座「初心者アイヌ伝承料理教室」	34
PL.22	H26.12.18	クリスマスロビーコンサート	35
PL.23	H27.1.9	うらほろスタイルゼミナール「社会教育施設ボランティア養成連続講座『十勝に映画館がたくさんあった頃』」	35
PL.24	H27.1.13	博物館講座「化石レプリカづくり教室」	35
PL.25	H27.1.16	博物館講座「エゾリスBOX」	36
PL.26	H27.1.20	浦幌アイヌ協会共催「初心者アイヌ文様刺繍講座」	36
PL.27	H27.2.1	移動博物館教室「移動自然(厳寒)体験講座『厳寒の豊北氷原を走破!』」	36
PL.28	H27.2.22	浦幌の自然を楽しむ会共催「植物標本をつくろう!」	37
PL.29		博物館講座「大地が語る 十勝浦幌の自然史・十勝浦幌の化石と古環境」	37
PL.30	H27.3.16	うらほろスタイルゼミナール「豊北の大地の記録:明らかになった5千年間の巨大津波像」	37
PL.31	H27.3.2	博物館ボランティア養成月曜講座「第2講 恐竜から哺乳類へ」	38
PL.32	H26.4.15~5.5	収蔵資料展「端午の節句展」	38
PL.33	H26.5.10~6.10	懐かしの昭和生活展	38
PL.34	H26.6.18~8.28	浦幌炭礦閉山60年回顧展	39
PL.35	H26.8.6~28	真夏の残像...あの夏の暑き想い...戦争体験を伝える	39
PL.36	H26.9.2~28	収蔵資料展「みのりの秋:開拓時代の農具展示会」	39
PL.37	H26.10.7~22	紙に記された昭和史	40
PL.38	H26.11.7~21	開拓当時の測量図面展	40
PL.39	H26.12.6~19	北海道開拓記念館巡回展リニューアル予告展示会	40
PL.40	H26.12.22~H27.1.13	帯広百年記念館移動展「十勝に映画館がたくさんあった頃」	41
PL.41	H27.2.4~12	2015年孔版画年賀状展	41
PL.42	H27.3.4~30	昭和27年十勝沖大震災回顧展&メガ津波標本展	41

## ● 図版目次

Fig. 1	常設展示ゾーニング図	5
Fig. 2	ヒグマシンボル図	5
Fig. 3	K-Pg境界	6
Fig. 4	十勝川下流域の地質時代史	6
Fig. 5	北海道の初期の土器文化	7
Fig. 6	シベリアから来た石刃鎌文化	7
Fig. 7	十勝太若月遺跡土坑墓配置図	8
Fig. 8	縄文文化と墓	8
Fig. 9	擦文ムラと住居	9
Fig. 10	擦文文化の鉄と農耕	9
Fig. 11	いろいろな土器	10
Fig. 12	いろいろな石器	10
Fig. 13	チャシ	11
Fig. 14	送り場	11
Fig. 15	トカチの成立とトカチ場所	12
Fig. 16	オヘチコカシ村の成立と初期の開墾	12

## I. 施設の概要

名 称 浦幌町立博物館 (英文表記 Historical Museum of Urahoro)

所在地 〒089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町16番地1

電 話 015-576-2009 (直通) 015-576-2111 (代) 内線542

ファックス 015-576-2452

ホームページアドレス

<http://www.urahoro-kyouiku.jp>

メールアドレス

[museum@urahoro.jp](mailto:museum@urahoro.jp)

建物構造 鉄筋コンクリート造・地上2階建 最高の高さ 10.45m (最高軒高 9.70m)

総工費 983,514千円 (備品購入費を含む)

敷地面積 4,575.907㎡

建築面積 1,804.34㎡

延床面積 2,542.17㎡ (1階:1,518.48㎡ 2階:1,023.69㎡)

### 博物館単独スペース

常設展示室	378.56㎡
学芸員室	45.50㎡
整理室	78.40㎡
写真室	19.50㎡
収蔵庫	71.50㎡
計	593.46㎡

### 博物館・図書館・教育委員会事務局共有スペース

視聴覚室	172.90㎡
調整室	19.98㎡
キッズルーム	7.29㎡
1階ホール	182.17㎡
2階ホール	166.50㎡
会議室	63.00㎡
書庫	29.75㎡
機械室	31.08㎡
休憩室	11.55㎡
計	684.22㎡

駐 車 場 正面 普通乗用車用 23台分 (うち身体障害者用 2台分)

裏面 普通乗用車用 19台分

計 42台分

開館時間 午前10時～午後5時

休 館 日 月曜日 (月曜日が国民の休日の場合は翌日)・国民の休日の翌日。ただし、土曜日、日曜日及び国民の休日に当たるときを除く・年末年始・その他館長が認めた日

入 館 料 無料

交 通 ・JR根室線浦幌駅下車 徒歩5分

・とち帯広空港から車で約60分 ・釧路空港から車で約80分

施設設備 エレベーター 1基

車 椅 子 2台

常設展示室設備

プロローグ音響システム

## I. 施設の概要

アオサギ営巣地ジオラマ音響システム  
 DVDによる100インチ映像システム  
 浦幌町の概要紹介（町の概要・町の花鳥木・産業・イベント・文化・歴史）  
 5つのエリア（上浦幌・中浦幌・市街地・下浦幌・東部地区）  
 施設紹介メインマップ  
 映像情報メニュー（遺跡探検・浦幌川河口から源流まで・野鳥観察・浦幌の四季）  
 ポイント情報メニュー（自然観察・先史遺跡・チャシ跡観察ポイント）  
 DVD映像システム（うらほろの歴史・十勝ゆかりの人々・地図でたどるうらほろ）  
 開拓獅子舞音響システム

## II. 常設展示構成

博物館の常設展示は、次の6コーナーで構成されている。

- I. 自然からのメッセージ（プロローグ）
- II. アオサギの世界
- III. 十勝・浦幌の自然誌
- IV. 石器と土器の文化
- V. アイヌの暮らし
- VI. 十勝・浦幌のあゆみ

これらのコーナーはそれぞれ、次のような展示から構成される。

I	1	魚	ヤマメ、イワナ、フクドジョウ、イバラトミヨ、ハナカジカ、イトウ、チョウザメ
	2	昆虫	
	3	鳥	オオヒシクイ、ノスリタカ、クマゲラ、キレンジャク、ヤマセミ、オオルリ、アマサギ、カワアイサ②、エトピリカ
	4	花	ウラボロイチゲ
II	1	アオサギの世界	アオサギジオラマ展示、採捕中のアオサギ、飛行中のアオサギ
	2	浦幌町の自然	月別平均気温と雨量、浦幌の四季
	3	鳥類個体展示	エゾフクロウ、オオコノハズク、コノハズク、クマタカ、カケス、アカショウビン、コルリ、メジロ、センダイムシクイ、ツミタカ、チゴハヤブサ、エゾライチョウ♂、エゾライチョウ♀、マガモ、コガモ、オシドリ、オオワシ②
III	1	デジタルマップ100インチ映像システム	(1) 浦幌町の概要紹介〔町の概要、町の花・鳥・木、町の産業、祭り、文化など〕 (2) 5つのエリア〔上浦幌地区・中浦幌地区・市街地・下浦幌地区・東部地区〕 (3) 施設紹介メインマップ〔メインマップ、マップのズームアップ、市街地マップ、施設情報〕

III	1	デジタルマップ100インチ映像システム	(4) 映像情報メニュー〔遺跡探検、浦幌川-河口から源流まで、野鳥観察、浦幌の四季〕 (5) ポイント情報メニュー〔自然観察ポイント、先史遺跡ポイント、チャシ跡観察ポイント〕
	2	十勝川下流域の地質時代史	十勝川下流域の河岸段丘
	3	十勝川下流域の地質時代史	K-Pg境界、デスモスチルス想像図、デスモスチルス白歯化石③、シンカイヒバリガイ化石、アロデスミス化石（レプリカ）
IV	1	発掘の様子	発掘前、測量、表土の剥ぎ取り、発掘、住居跡覆土採取用メッシュ、住居跡の発掘、地層の図面づくり、出土した土器、固形剤塗り、住居床面の土の採取、住居跡全景、実測、土の天日乾燥、極小品の選別②、ラジコンヘリコプターによる空中撮影・整理・水洗い、図面づくり、報告書の完成
	2	十勝太若月遺跡土坑墓	土坑墓ジオラマ展示
	3	北海道の先史文化のうつりかわり	図入り年表
	4	北海道の初期の土器文化	研究のはじめ、尖底土器と平底土器、河野広道、澤四郎、テンネル・暁式土器群、下頃辺式土器
	5	シベリアから来た石刃鏃文化	研究のはじめ、北海道の石刃鏃文化遺跡、シベリアの石刃鏃文化遺跡、斎藤米太郎、名取武光、浦幌式土器、石刃鏃、石核、石錐、搔器、削器、石刃槍、彫器、石錘、砥石、敲石、石斧
	6	縄文文化と墓	縄文文化と十勝太若月遺跡、墓の大きさ比べ、土坑墓52の配置図、十勝太若月遺跡の土坑墓、縄文時代前期の土器、後北C1式土器、コハク製玉類、ガラス小玉、砥石、銚先
	7	擦文ムラと住居	住居と生活用具、十勝の擦文文化遺跡、擦文文化の遺跡分布、十勝太若月遺跡、十勝太地区の擦文住居跡分布、擦文住居の復元図、擦文土器、柱、木器、紡錘車
	8	擦文文化の鉄と農耕	鉄と農耕の普及、全道各地出土の轡の羽口、擦文時代の植物栽培図、鉄斧、刀子、鉄滓、オオムギ・キビ・シソの炭化種子、オニグルミ堅果
	9	いろいろな土器	縄文文化と土器、作り方、形、文様、変遷
	10	いろいろな石器	石器の材料、作り方、黒曜石原材産地、使い方
	11	十勝の著名遺跡	八千代A遺跡、下大樹遺跡、十勝ホロカヤントー堅穴群、ユクエピラチャシ跡、広尾仙台藩陣屋跡
	12	土器の個体展示	縄文土器⑥、縄文土器⑥、擦文土器⑥
V	1	アイヌの暮らし	アイヌ酒宴の図、マレク漁の図、蝦夷島奇観
	2	チャシ	史跡オタフンベチャシ跡、礼文内神社チャシ跡、アツナイチャシ跡、チプネオコッペチャシ跡、十勝川口チャシ跡、十勝太Dチャシ跡、旅来チャシ跡、安骨チャシ跡、霧止山チャシ跡、帯富チャシ跡、稲穂チャシ跡
	3	伝製品	シントコ③、イタ、ニンカリ、イクパスイ③、タマサイ③、ツキ、バッチ、エムシ
	4	送り場	十勝太海岸段丘遺跡出土品

II. 常設展示構成

VI	1	トカチの成立とトカチ場所	正保日本図、トカチ場所の主な産物、松浦武四郎、最上徳内、近藤重蔵、トカチ御場所山川沼地名里数粗絵図扣
	2	オヘチコカシ村の成立と初期の開墾	7郡51ヶ村のうつりかわり、殖民地区画作業、河合牧場、岐阜農場、開墾風景、サケ漁、斎藤漁場
	3	新しいムラづくり	下浦幌市街都市計画図、明治43年主要市街地戸数人口、戸長役場、浦幌駅開業、第一浦幌尋常小学校と養老尋常小学校との連合運動会、黒岩農場、斎藤牧場
	4	新しいマチづくり	昭和27年十勝沖大震災で震度7を記録、昭和24年ころの市街大通り、開村50年記念乳牛共進会、校内マラソン、昭和35年チリ地震による津波の被害、森永乳業、ロランC局、市街商店街、開町70年記念パレード、十勝バス運行風景
	5	着る	蓑、くけ台、ミシン、火のし、ハンドバッグ、開墾たび、アイロン、バスケット、深わら靴
	6	食べる	膳、櫃、食器、木鉢、砂糖入れ、重ね鉢、弁当箱、石臼、壺、鉄びん、カツオ削り器、野菜削りカンナ
	7	住む	ローソク立て、自在鍵、石油ランプ、柱時計、手下げランプ、ネズミ捕り、電気アンカ、薬箱
	8	農	亜麻播種器、一斗枺、からさお、風呂鍬、窓鍬、平鍬、豆播種器
	9	林	トビ、村田銃、ガンタ、サッティ、刃広、くさび、杙打ち用具、窓鋸、天王寺鋸
	10	鋳	キャップランプ、革手袋、ベルト、ガス自動警報器、測風器微風計、工類表入れ、工類表、安全靴、携帯用ガス警報器、風測計、携帯用坑内誘導無線機、カンテラ、一酸化炭素検知管、救命器
	11	浦幌開拓獅子舞	住吉神社と加賀団体開拓記念碑、浦幌開拓獅子舞、浦幌開拓獅子舞の獅子頭、稲穂獅子舞の獅子頭、初期の浦幌開拓獅子舞の姿、浦幌開拓獅子舞おはやしの音響
	12	生活資料ディスプレイ	ラジオ、選択バサミ、算盤、下駄、かんじき、ノンコ、SPレコード盤、藁靴の型、提灯用箱、湯たんぽ、壁付け式電話
	13	37インチ映像コーナー	うらほろの歴史、十勝ゆかりの人々、地図でたどるうらほろ

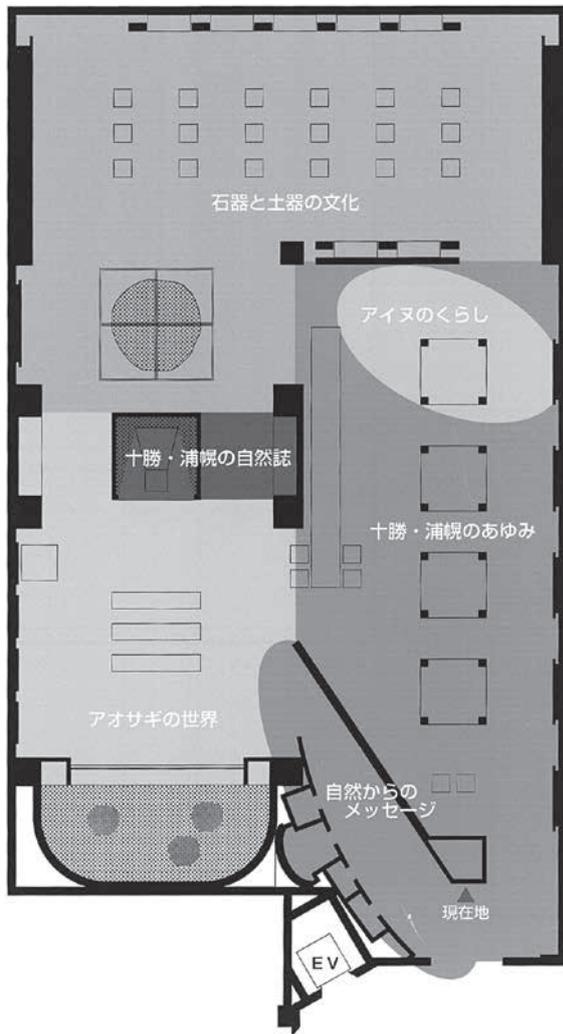


Fig.1 常設展示ゾーニング図



Fig.2 ヒグマ シンボル図

# K-Pg境界

Discoveries of anomalously high Ir concentrations K-Pg boundary sediments

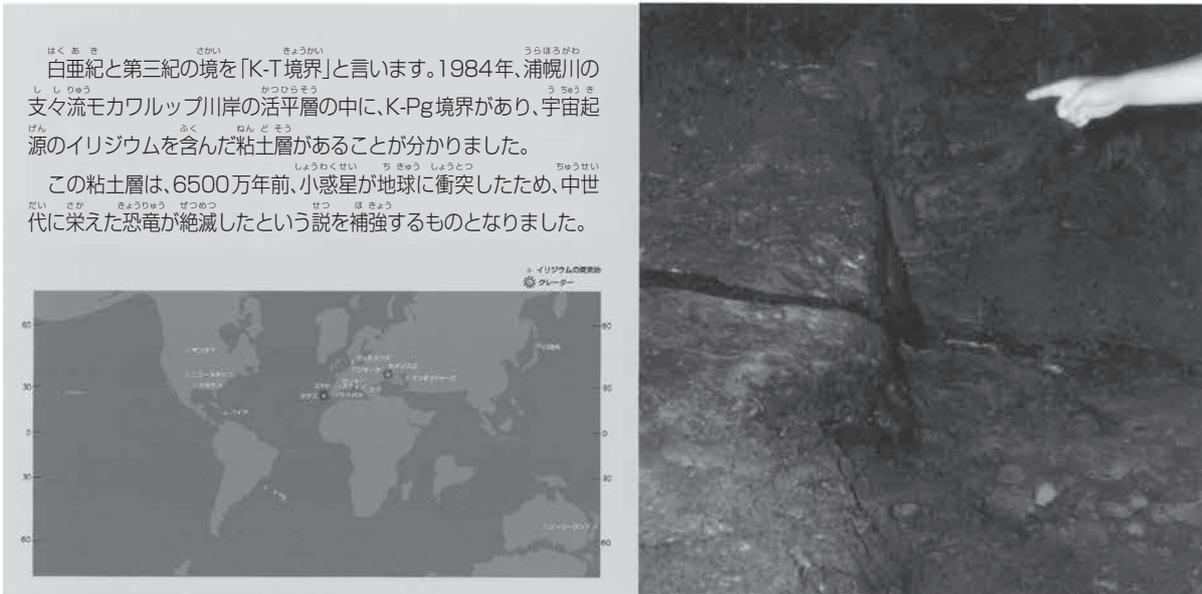


Fig.3 K -Pg 境界

## 十勝川下流域の地質時代史 Geologic age in the region of the lower course of the Tokachi River



Fig.4 十勝川下流域の地質時代史

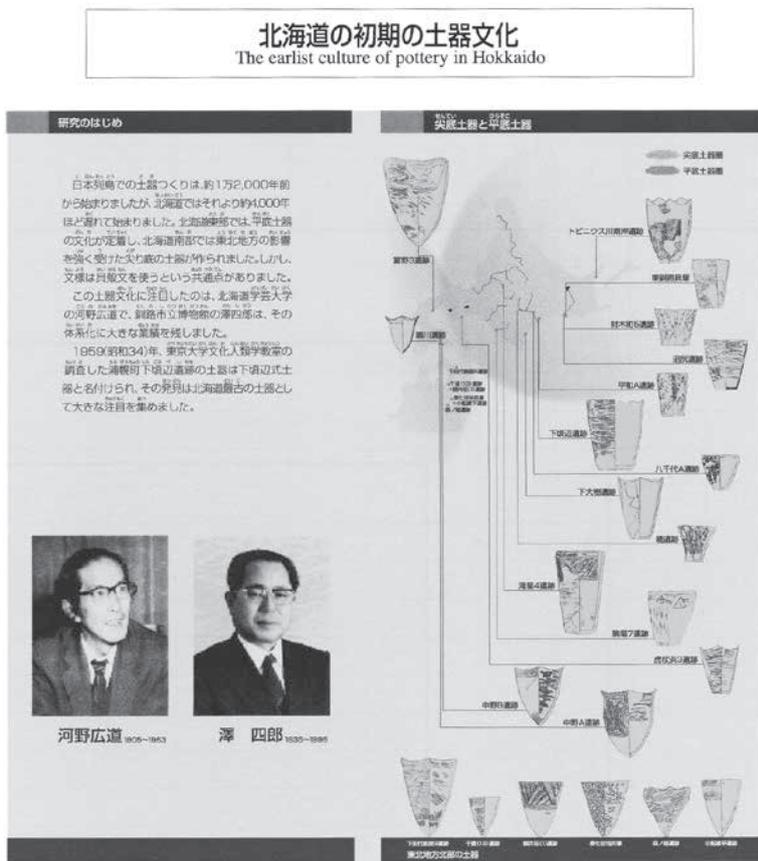


Fig.5 北海道の初期の土器文化



Fig.6 シベリアから来た石刃鎌文化

II. 常設展示構成

十勝太若月遺跡土坑墓配置図  
Grave No.36, Tokachibuto-Wakatsuki site Epi-Johmon period.



Fig.7 十勝太若月遺跡土坑墓配置図

続縄文文化と墓  
The epi-johmon culture and Grave

**続縄文文化と十勝太若月遺跡**

続縄文文化は、縄文文化の印紋を残しながら、鉄などを取り入れた文化で、本州の弥生文化に相当します。この文化の遺跡からは墓が発見されることが多く、十勝太若月遺跡は大規模な墓遺跡としてよく知られています。

墓は、楕円形に土を掘って墓穴としますが、十勝太若月遺跡には高さ7m以上の横穴の墓や深さ1m50cmの円形の墓も見つかっています。これらは、2体以上を埋葬した多体墓の可能性があり、副葬品は、土器の埴輪やヤシリなどの石製、ガラス製の小玉、碧玉製の管玉、コハク製の平玉などの装身飾があり、季節性も考えられています。

**墓の大きさを比べ**

- 十勝太若月遺跡 土坑墓24
- 十勝太若月遺跡 土坑墓34
- 十勝太若月遺跡 土坑墓38
- 江別市沢村遺跡 第4号横墓
- 十勝太若月遺跡 土坑墓35
- 江別市沢村遺跡 第1号横墓
- 江別市沢村遺跡 第5号横墓

**土坑墓B2の副葬品**

十勝太若月遺跡の土坑墓

Fig.8 続縄文文化と墓



II. 常設展示構成

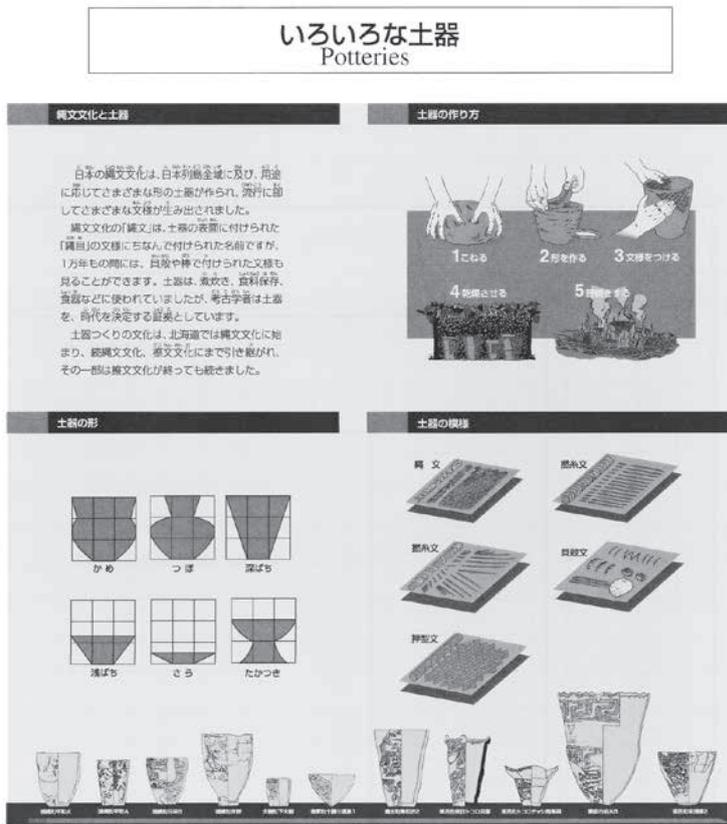


Fig.11 いろいろな土器



Fig.12 いろいろな石器

チャシ  
Cast

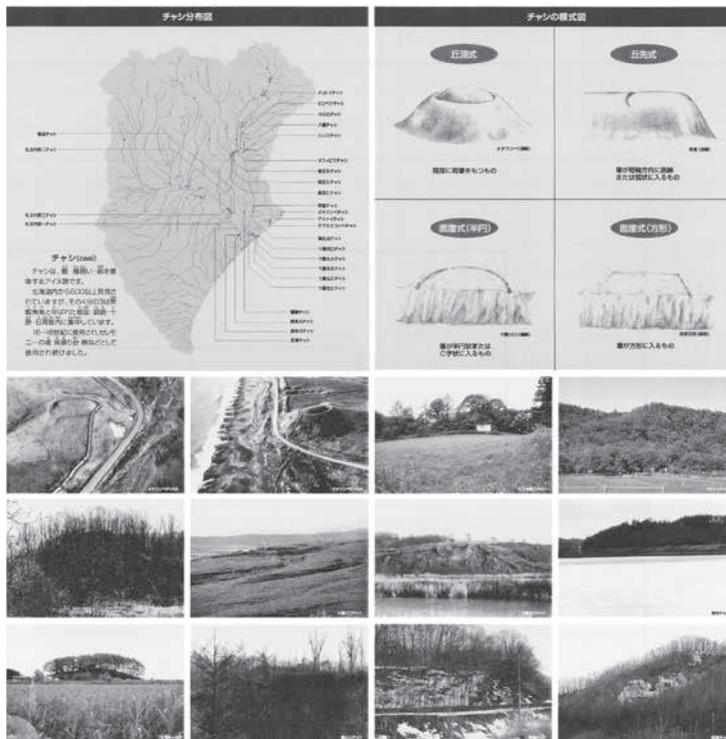


Fig.13 チャシ

送り場  
Kamui site and that surroundings

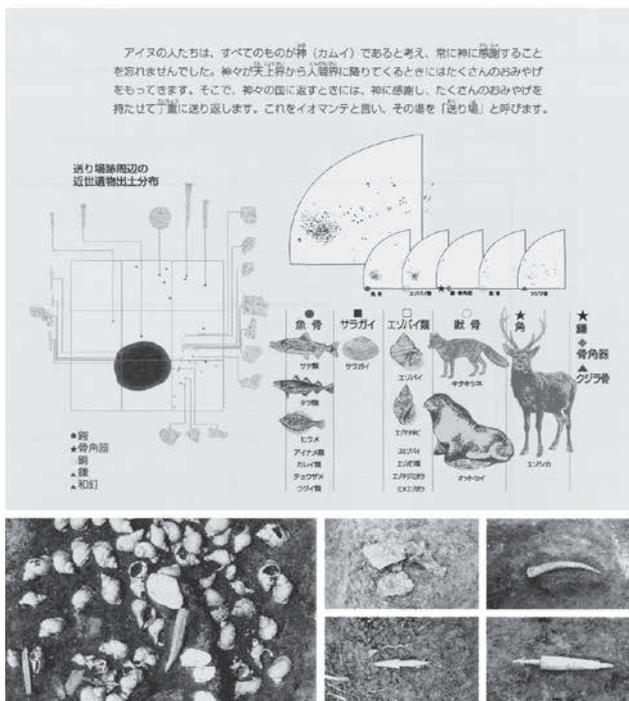


Fig.14 送り場

II. 常設展示構成



Fig.15 トカチの成立とトカチ場所

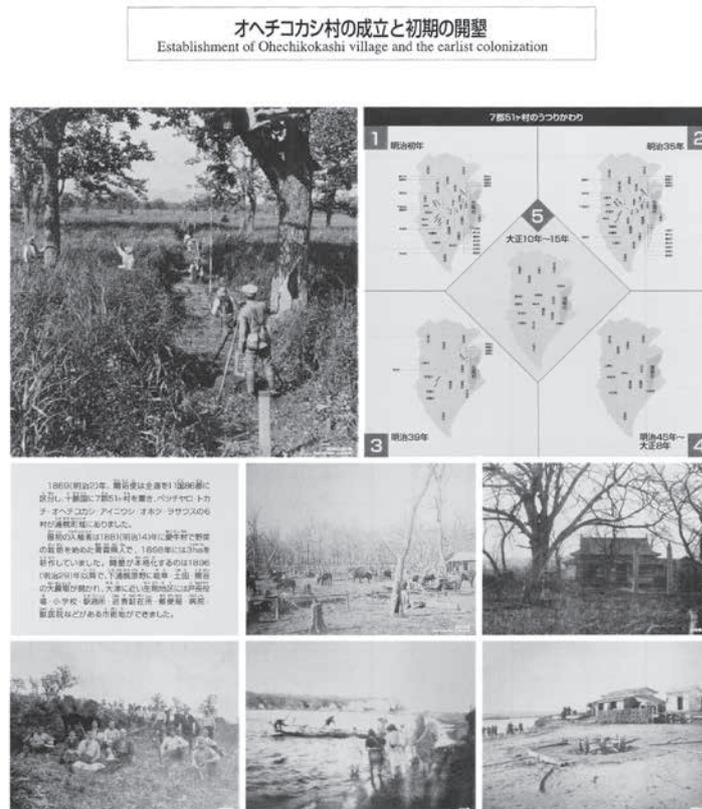


Fig.16 オヘチコカシ村の成立と初期の開墾

## III. 資料の受け入れ

### (1) 受贈資料

月 日	氏 名	住 所	品 名	数量
2・17	西 垣 隆 夫	帯 富	水筒	1
3・19	持 田 誠	帯 広 市	煉瓦、ネクタイピン、パンフレット、絵葉書、記念切符	5
3・27	神 谷 孝 志	帯 広 市	ノート、絵葉書、証書、炭碇資料	9
4・2	千 歳 市 埋 蔵 文化財センター	千 歳 市	ちとせの遺跡	5
4・5	宮 崎 一 市	共 栄	音盤	3
4・21	( 匿 名 )		屏風1双、日本画	2
5・9	石 森 與 吉	常 室	棹秤	4
5・18	松 井 孝 子	西 町	産着、子ども着物	3
5・19	郷 雅 子	緑 町	感謝状、褒状、卒業証書、辞令	52
5・23	田 中 博 子	東 京 都	卒業論文	8
5・29	田 中 敏 彦	神 奈 川 県	尺別鋳業所浦幌炭鋳・尺別炭碇昭和史	1
6・19	田 中 敏 彦	神 奈 川 県	音盤	86
7・12	富 田 さた子	北 町	音盤、蓄針再生機、レコード針、火鉢、コンロ、ふるい、写真、蓄音機、レコードプレーヤー、ラジオ、かつら、アンカ、図書	199
7・15	円 子 紳 一	帯 富	ロマンの会縄文・弥生式住居建設過程写真	1
7・16	川 畑 透	幕 別 町	窓鋸、ダイナマイト箱、枝払い、つるはし、斧	14
8・16	杉 本 年 明	札 幌 市	浦幌炭碇模型	4
8・23	宮 崎 一 市	共 栄	音盤	13
9・6	宮 崎 一 市	共 栄	音盤	13
9・21	持 田 誠	帯 広 市	図書	1
10・6	高 山 まゆみ	札 幌 市	音盤	26
10・11	宮 崎 一 市	共 栄	音盤	14
10・15	菊 野 雅 之	音 更 町	音盤、賞状、冊子、浦幌町資料、薬箱、音盤ケース	115
10・30	安 田 弘	帯 広 市	郷土資料	1
10・31	新 海 光 子	東 山 町	足踏みミシン、レコードクリーナー、音盤、冊子、パンフレット	166
10・31	富 田 さた子	北 町	音盤	8
11・5	郷 栄	緑 町	切手収集帳	4
11・7	菅 野 イソ子	新 町	債券	7
12・16	大 山 みどり	帯 富	値段の歴史	1
12・24	持 田 誠	帯 広 市	浦幌村教育研究会記録	1

III. 資料の受け入れ

(2) 採集資料

月 日	資 料 名	数量	摘 要
6・6	タウンページ 十勝地方版	1	NTT東日本電話帳
6・6	ハローページ 池田地方版	1	NTT東日本電話帳
7・15	調印式・記念祝賀会パンフレット	1	浦幌町・洋野町友好の町絆協定
10・16	浦幌町少年道外交流事業資料	1	平成26年度 浦幌町道外交流事業
12・17	ひがし十勝	1	東十勝消防事務組合
12・17	平成24年度 十勝の高等学校	1	北海道高等学校長協会十勝支部
12・21	チラシ	101	町内商店、行政、団体等発行の各種チラシ
12・21	プログラム	2	町民文化祭など
1・10	チョウ標本	95	エゾシロチョウなど30種
1・14	アンモナイト化石標本	1	平成25年度採集
1・14	カレンダー	1	北海道炭鉱遺産ファンクラブ
1・14	カレンダー	1	浦幌町商工会
1・14	パンフレット 成人式	1	浦幌町
2・20	エトピリカ本剥製	1	生体を保護したが衰弱死し剥製を製作。環境省届出済。
2・26	広報 Urahoro No.744～755	12	浦幌町まちづくり政策課広報広聴係
2・26	うらほろ議会だより	4	浦幌町議会広報編集特別委員会

(3) 受贈図書資料

【北海道】

(公財) アイヌ文化振興・研究推進機構

平成26年度アイヌ語ラジオ講座テキスト  
Vol.2～4

平成27年度アイヌ語ラジオ講座テキストVol.1  
第18回アイヌ語弁論大会報告書 イタカンロー  
アイヌ関連総合研究等助成事業研究報告  
第14号 (上巻・下巻)

助成事業案内 平成27年度版

いしかりがわのアイヌご

さるのアイヌ語

からふとのアイヌ語

初級アイヌ語 -石狩川-

初級アイヌ語 -沙流-

初級アイヌ語 -カラフト-

中級アイヌ語 -石狩川-

中級アイヌ語 -沙流-

中級アイヌ語 -カラフト-

単語リスト (アイヌ語・日本語) 石狩川

単語リスト (アイヌ語・日本語) 沙流

単語リスト (アイヌ語・日本語) カラフト

アイヌ語教材テキスト入門編 補助教材

アイヌ工芸 -東北コレクションを中心に-

アイヌ生活文化再現マニュアル 踊り

「リムセ・ホリツパ」帯広・様似・白糠編

「リムセ・ホリツパ」阿寒・平取編

オルシペスウォップ3 DVD

イソイタッ1 アイヌ昔話

フキノトウになった女の子

北海道立アイヌ民族文化研究センター

研究紀要 第20～21号

アイヌ民族文化研究センターだより No.42

旭川市博物科学館

旭川市博物科学館研究報告 第6号

北海道立旭川美術館

氷華 No.56～57

厚岸町海事記念館

厚岸町海事記念館だより No.41～45

いしかり砂丘の風資料館

いしかり砂丘の風資料館紀要 第4巻

エスチュアリ 047

恵庭市郷土資料館

恵庭市郷土資料館年報 18

ユカンボシE1遺跡II

ユカンボシE2遺跡IV

西島松10遺跡

えりも町郷土資料館ほろいずみ

えりも町漁業振興センター水産の館

えりも町郷土資料館ほろいずみ

えりも町漁業振興センター水産の館

平成25年度 活動報告書

えりも研究 第11号

海から来た少女

小樽市総合博物館

小樽市総合博物館紀要 第28号

君尹彦氏文書調査団

君尹彦氏文書目録 I

雪解け 第5号最終号

釧路市動物園

阿寒国際ツルセンター紀要 第9～11巻

釧路湿原自然再生協議会普及行動計画オフィス

鶴居村釧路湿原流域ガイドマップ

釧路市立博物館

釧路のあゆみと産業

釧路の植物

札幌市教育委員会

市内遺跡発掘調査報告書6

札幌市文化財調査報告書101

H532遺跡、H542遺跡

札幌市文化財調査報告書102

K466遺跡第2次調査

札幌市豊平川さけ科学館

札幌市豊平川さけ科学館 研究報告2013年度

札幌市豊平川さけ科学館 開館30周年記念誌

沙流川歴史館

沙流川歴史館年報 第15号

沙流川歴史館だより No.52～55

平取町文化財調査報告書 豊糠10遺跡

平成25年度 沙流川歴史館

特別展 遺跡出土のガラス玉

標茶町郷土館

標茶町郷土館報告 第26号

下川町教育委員会

III. 資料の受け入れ

下川町上名寄チャシ跡  
**斜里町教育委員会**  
斜里町文化財調査報告XXXVII  
チャシコツ岬上遺跡  
斜里町文化財調査報告XXXVIII 来運1遺跡  
川上1遺跡  
**伊達市噴火湾文化研究所**  
噴火湾文化 No.8  
**千歳市教育委員会**  
千歳市文化財調査報告書 オサツ8遺跡  
**津別町教育委員会**  
津別町町内遺跡発掘調査等事業報告書 (2)  
**苫小牧市教育委員会**  
北海道苫小牧市市内遺跡発掘調査事業報告書  
**苫小牧市博物館**  
館報 第10号  
**苫小牧市美術博物館**  
美術博物館だより No.1  
**根室市歴史と自然の資料館**  
根室市歴史と自然の資料館紀要 第26号  
くるまいし No.29  
**市立函館博物館**  
市立函館博物館研究紀要 第25号  
SARANIP 号外  
平成26年度特別展 五稜郭構造と箱館戦争展  
**特定非営利活動法人 函館市埋蔵文化財事業団**  
函館市東山B遺跡 亀田中野2遺跡 (2)  
函館市桔梗2遺跡 (2)  
函館市サイベ遺跡  
**浜頓別町教育委員会**  
浜頓別町ブタウス遺跡 (II)  
**日高町教育委員会**  
マウタサツ遺跡 ケノマイ2遺跡 第2分冊  
**美幌博物館**  
美幌博物館報 2012  
美幌博物館研究報告 第21号  
2013年度 博物館自然講座  
月刊情報誌 グリーンレター 第202～211号  
ボクたちの町にくらす野鳥平成26年度特別展  
手作り魚道から始まる地域の自然再生  
**平取町立二風谷アイヌ文化博物館**  
2012年度

平取町立二風谷アイヌ文化博物館年報  
**深川市教育委員会**  
深川市文化財調査報告書 25 CD-R  
**別海町教育委員会**  
史跡旧奥行白駅通所保存管理計画書  
旧奥行白駅通所所蔵資料  
大正時代の地方新聞 DVD  
**別海町郷土資料館**  
別海町郷土資料館だより No.175  
加賀家文書 二  
加賀家文書等資料目録II  
床丹1チャシ跡  
**北翔大学北方圏学術情報センター**  
北翔大学北方圏学術情報センター年報 Vol.6  
**北海学園大学**  
学園論集 第159～161号  
**北海道教育大学**  
北海道大学紀要 自然科学編 第64巻 2号  
北海道大学紀要 自然科学編 第65巻 1号  
北海道大学紀要 人文科学・社会科学編  
第64巻 2号  
北海道大学教育大学紀要 人文科学・社会科学  
編 第65巻 1号  
**北海道大学大学院理学研究院**  
根室沖等の地震に関する調査研究  
**北海道大学**  
リテラポプリ No.54  
**北海道大学総合博物館**  
北海道大学総合博物館ニュース 第29～30号  
Biodiversity Biogeography of the Kuril  
Islands and Sakhalin Volume4  
千島列島のサハリンにおける  
生物多様性と地理学  
美術の北大展  
**北海道地区自然災害科学資料センター**  
北海道地区自然災害科学資料センター報告  
vol.6  
**北海道博物館協会**  
道博協ニュース 第111～113号  
**(公財) 北海道埋蔵文化財センター**  
北海道埋蔵文化財センター 調査年報 27  
北海道立埋蔵文化財センター年報 15

斜里町斜里朱円周堤墓  
重要遺跡確認調査 第8集  
芦別市野花南周堤墓群  
重要遺跡確認調査 第9集

**北海道立文学館**  
北海道立文学館報 第97号 99号

**北海道立文書館**  
赤れんが 北海道立文書館報 No.49

**北海道立近代美術館**  
北海道立近代美術館芸術館紀要 第25号  
ミュシャ展 パリの夢モラヴィアの祈り  
冬のワンダー★ミュージアム2015  
どうぶつたち大集合  
もうひとつの眺め 北海道発:8人の写真と映像

**北海道立北方民族博物館**  
北海道立北方民族博物館研究紀要 第23号  
北海道立北方民族博物館年報 平成25年度  
北方民族博物館だより No.92~95  
北海道立北方民族博物館 資料目録10  
池上文庫目録  
第28回 北方民族文化シンポジウム網走報告  
環境変化と先住民の生業文化  
船・橇・スキー・かんじき  
北方の移動手段と道具

**三笠市立博物館**  
三笠市立博物館年報 第31号  
三笠市立博物館紀要 17号

**むかわ町教育委員会**  
ニサナイチャシ跡・ノットカチャシ跡  
発掘調査報告書

**むかわ町立穂別博物館**  
むかわ町立穂別博物館館報 第30号

**余市町教育委員会**  
余市町登町4遺跡 登町13遺跡

**利尻町立博物館**  
利尻研究 利尻町立博物館年報 第34号

**大津・十勝川学会**  
大津十勝川研究 第12号

**帯広大谷短期大学**  
帯広大谷短期大学紀要 第51号

**帯広大谷短期大学附属図書館**  
帯広大谷短期大学図書館だより 第26号

**帯広しんぎん**  
十勝人心の旅

**帯広百年記念館**  
帯広百年記念館紀要 第32号

**神田日勝記念美術館**  
神田日勝記念美術館だより 31

**神田日勝記念美術館友の会**  
画室 Vol.44~45

**ソーゴ印刷(株)クナウマガジン (スロウ編集部)**  
Northern style スロウ十勝 vol.3

**ひがし大雪自然館**  
ひがし大雪自然館研究報告 第1号

**りくべつ宇宙地球科学館**  
天文台だより Vol.65

**斎藤省三**  
郷土研究 陸別町郷土研究会 会報 第2号  
陸別町文芸誌「あかえぞ」 第30号  
陸別町文芸誌「あかえぞ」 第28~30号  
関寛斎関係発表文献集 第三巻 関寛斎

**川上会アルバム企画委員会 村中哲太郎**  
浦幌町・栄穂・川上の77年間の記録写真集

**谷岡 隆**  
静内二十間道路物語

**浦幌町女性団体連絡協議会**  
浦幌町女性連設立60周年記念 華甲

**【青 森 県】**

**青森県教育庁文化財保護課**  
特別史跡 三内丸山遺跡年報 18  
三内丸山遺跡 42  
三内丸山通信 第60~61号

**青森県立郷土館**  
青森県立郷土館 第41号

**八戸市博物館**  
八戸市博物館年報 第31号  
八戸市博物館研究紀要 第28号  
八戸市博物館 収蔵資料目録 歴史編 (8)  
博物館だより No.46

**【岩 手 県】**

**一関市博物館**  
一関市博物館研究報告 第17号  
テーマ展② 異国の香り~江戸の好奇心~

**岩手県立博物館**

III. 資料の受け入れ

岩手県立博物館だより No.141～144  
**岩手県洋野町役場 防災推進室**  
洋野町 東日本大震災大津波の記録DVD付  
**岩手県北上市立博物館**  
北上市立博物館 博物館だより No.35  
**北上市立鬼の館**  
北上市立鬼の館だより No.40～41  
**宮沢賢治記念館**  
平成25年度 宮沢賢治記念館年報  
宮沢賢治記念館通信 第111号  
**【宮 城 県】**  
**仙台市富沢遺跡保存館 地底の森ミュージアム**  
THE HUNTER ザ・ハンター  
狩人の石器  
**仙台市富沢遺跡保存館 仙台市縄文の森広場**  
地底の森ミュージアム・縄文の森広場年報  
2014  
地底の森ミュージアム・縄文の森広場  
研究報告 2013  
THE HUNTER ザ・ハンター  
狩人の石器  
**東北福祉大学 芹沢銈介美術工芸館**  
芹沢銈介美術工芸館年報 5  
**【山 形 県】**  
**山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館**  
2013 年報 No.21  
第22回企画展「弥生時代の山形」  
うきたむ 第42～44号  
**【新 潟 県】**  
**新潟県立歴史博物館**  
新潟県立歴史博物館研究紀要 第15号  
収蔵資料目録 考古資料II 神林昭一コレクション  
**【茨 城 県】**  
**天野和孝**  
A new genus of Baccinoidea (Gastropoda)  
from Paleocene deposits in eastern  
Hokkaido, Japan  
**【千 葉 県】**  
**国立歴史民俗博物館**  
企画展示解説図録「弥生ってなに?!」  
企画展示 大ニセモノ博覧会  
- 贗造と模倣の文化史 -

文字がつなぐ -古代の日本列島と朝鮮半島-  
**野田市郷土博物館・市民会館**  
野田市郷土博物館・市民会館年報・紀要第6号  
野田で生まれた漫画たち  
**千葉大学文学部考古学研究室**  
礼文町 浜中2遺跡 第4次発掘調査概報  
中標津町 当幌川遺跡 第3次発掘調査概報  
**【埼 玉 県】**  
**春日部市郷土資料館**  
春日部市郷土資料館  
夏季展示 第49回 江戸川!  
**【東 京 都】**  
**青山学院大学史学科研究室**  
青山史学 第32号  
**出光美術館**  
出光美術館報 第166～169号  
**江戸東京博物館**  
江戸東京博物館NEWS vol.85～88  
**お茶の水女子大学博物館学研究室**  
博物館実習報告 第30号  
**國學院大學 学術資料センター**  
國學院大學学術資料センター  
(旧考古学資料館紀要) 研究報告 第30輯  
**昭和女子大学 国際文化研究所**  
国際文化研究所紀要 vol.19～20  
**駿台史学会**  
駿台史学 第150～154号  
**世田谷区立郷土資料館**  
世田谷叢書第八集  
旧太子堂村森家文書 御用留  
世田谷区立郷土資料館  
開館50周年特別展 大館蔵品展  
資料館だより No.60～61  
**豊島区立郷土資料館**  
生活と文化研究紀要 第23号  
かたりべ 110～114  
**地方史研究協議会**  
地方史研究 第368号  
**東京家政学院生活文化博物館**  
東京家政学院生活文化博物館年報 第22号  
東京家政学院生活文化博物館 移管資料展 (1)  
40年ぶりに目覚めたオートクチュール

**東京家政大学博物館**

東京家政大学博物館館報 第62号

**東京大学大学院人文社会系研究科考古学研究室**

環日本海北回廊における完新世初頭の様相解明  
- 「石刃鍬文化」に関する新たな調査研究-

**東京大学総合研究博物館**

東京大学総合研究博物館ニュース  
Ouroboros Volume19 Number1~3

**法政大学史学会**

法政史学 第81~82号

**法政大学国際日本学研究所**

国際日本学研究所 研究成果報告集 第11号  
2012年アルザス・シンポジウム報告  
国家アイデンティティと宗教  
HOSEI I. J. S. The Newsletter No.19~20

**文化庁文化財部記念物課**

「記念物・文化的景観」マネジメント支援事業  
史跡・名勝・天然記念物及び重要文化景観の  
保存・活用に関する調査報告書

**(株)文化環境研究所**

Cultivat No.42~43  
文環研レポート No.33~34

**明治大学 学芸員養成課程**

MUSEUM STUDY  
明治大学学芸員養成課程紀要 25号  
MUSEOLOGIST  
明治大学学芸員養成課程年報 29号

**明治大学博物館**

2013年度 明治大学博物館年報  
明治大学博物館研究報告 第19号

**立正大学史学会**

立正史學 第115~116号

**【神奈川県】**

**神奈川大学日本常民文化研究所**

2014年度 神奈川大学日本常民文化研究所  
民具マンスリー 第47巻1~12号

**川崎市市民ミュージアム**

川崎市市民ミュージアム紀要 第26集

**日本大学 生物資源科学部**

人間科学研究 第12号

**日本大学 生物資源科学部博物館**

日本大学生物資源科学部博物館 博物館報No.23

**平塚市博物館**

平塚市博物館年報 第37号

自然と文化 第37号

**横浜市歴史博物館**

横浜市歴史博物館資料目録 第22集  
横浜市歴史博物館調査研究報告 vol.10  
横浜市歴史博物館紀要 第18号  
横浜市歴史博物館NEWS 36~37  
絵巻で見る事件 百姓一揆/火事図巻  
水へのいのり  
横浜市立大学コレクション  
古地図の世界 地球のかたちと万国の大地  
昔のくらしの年中行事  
子供向け 春夏秋冬  
くらしの行事を調べてみよう

ハマの東海道

保土ヶ谷宿脇本陣藤屋資料集

佐々門象山と横浜

-海防、開国、そして人間・象山

平成25年度 学校内歴史資料室を活用した  
博物館デビュー支援事業 年報

**【長野県】**

**飯田市美術博物館**

飯田市美術博物館研究紀要 第24号  
飯田市美術博物館年報 第23号  
伊那谷自然史論集 vol.15  
飯田市美術博物館企画展  
地震と地盤災害 その時何が起こるか  
飯田市美術博物館自然資料目録第2集  
長野県産陸生・淡水性貝類

飯田國昭コレクション

南信州の煙火 -火の芸術に魅せられた男たち-

**【富山県】**

**魚津市教育委員会**

富山県魚津市立埋蔵文化財分布調査報告書1

仏田遺跡発掘調査報告書

市内遺跡発掘調査報告書

**富山県埋蔵文化財センター**

富山県埋蔵文化財センター年報 平成25年度

埋文とやま VOL 127~129

**氷見市立博物館**

氷見市立博物館年報 第32号

III. 資料の受け入れ

富山湾の漁撈用具 和船建造技術を  
後世に伝える会 調査報告書IV  
特別展 写真に見る氷見の昔と今II  
特別展 氷見の縄文人 ―その足跡をたどる―

【愛知県】

南山大学人類学博物館

南山大学人類学博物館紀要 第32～33号

【滋賀県】

滋賀県立琵琶湖博物館

魚米之郷

―太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし―

【京都府】

同志社大学歴史資料館

同志社大学歴史資料館報 第17号

京都大学院文学研究科 考古学研究室

一乗寺向畑町遺跡跡出土

縄文時代資料 ―考察編―

(公財) 古代学協会

初音 公益財団法人 古代学協会

平成25年度年報

【三重県】

皇學館大学佐川記念神道博物館

皇學館大学佐川記念神道博物館館報 第24号

【奈良県】

(公財) 奈良人権文化財団 水平社博物館

水平社博物館研究紀要 第十六号

LUCIFER 第17号

天理大学附属天理参考館

天理参考館報 第27号

(独) 奈良文化財研究所

奈良文化財研究所紀要 2014

奈良文化財研究所概要 2014

埋蔵文化財ニュース 154～157

奈良大学文学部文化財学科

文化財學報 第三十二集

三宅久雄先生退職記念論集

(独) 奈良文化財研究所 飛鳥資料館

飛鳥の考古学2014

縄文・弥生・古墳から飛鳥へ

【大阪府】

大阪市立自然史博物館

大阪市自然史博物館報 39

大阪大谷大学博物館

博物館だより No.115～116

大阪大谷大学博物館報告書第61冊

古墳出土品がうつし出す工房の風景

大阪大谷大学文化財学科

大阪大谷大学文化財研究 第14号

志学台考古 第14号

関西大学博物館

関西大学博物館紀要 第20号

阡陵 No.68～69

関西大学図書館・博物館連携企画展図録

関西大学名品万華鏡

実施報告 大学の扉を開く

菅楯彦作品における大阪祭礼行事の調査報告書

【兵庫県】

姫路市立城郭研究室

姫路市立城郭研究室年報 vol.24

(公財) 竹中大工道具館

竹中大工道具館NEWS No.31～32

【広島県】

(株)熊平製作所

抜萃のつゞり その七十四

【山口県】

下関市立考古博物館

下関市立考古博物館研究紀要 第18号

下関市立考古博物館年報 第19号

青銅器と弥生人のまつり

土井ヶ浜遺跡人類学ミュージアム

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム

研究紀要 第9号

【愛媛県】

愛媛県歴史文化博物館

研究紀要 第19号

歴博だより No.77

特別展「三瀬諸淵 シーボルト最後の門人」

四国遍路ぐるり今昔

愛媛県内民俗関係新聞記事目録 第22集

【福岡県】

福岡市経済観光文化局埋蔵文化財センター

福岡市埋蔵文化財センター年報 第33号

## IV. 資料の提供

貸出先	プロダクション・ブレインズ
資料名	博物館常設展示室写真 1点
目的	「北海道ウォーカー」掲載
期間	平成26年4月30日

貸出先	株式会社ディライツ
資料名	ウラホロシンカイヒバリガイ 博物館外観画像データ 2点
目的	「十勝ウォーカー」掲載
期間	平成26年5月9日

貸出先	三笠市立博物館
資料名	K/Pg境界層直下産出アンモナイト 境界層剥ぎ取り標本 2点
目的	特別展「オウムガイの謎」にて展示
期間	平成26年6月12日～10月31日

貸出先	帯広百年記念館 持田誠
資料名	荒木家文書「囑託状」複製 1点
目的	北海道博物館協会学芸職員部会コラムリレー「秘蔵品のモノ語り」掲載
期間	平成26年6月22日

貸出先	標津町ポー川史跡自然公園 小野哲也
資料名	十勝太若月遺跡出土鉄製品 6点
目的	鉄成分の調査解析
期間	平成26年7月9日～平成26年11月30日

貸出先	仙台藩白老元陣屋資料館
資料名	享保の鰐口 1点
目的	特別展「北海道の絵馬～東蝦夷地編」にて展示
期間	平成26年7月17日～平成26年9月4日

V. 博物館の事業

貸出先	関 厚
資料名	浦幌町立博物館紀要14号 1点
目的	SGEC森林認証の審査資料
期 間	平成26年8月21日

貸出先	森川昌明
資料名	浦幌町内チャシ配置図複製 3点
目的	チャシ調査
期 間	平成26年9月5日

貸出先	大川公平
資料名	旧第二尋常小学校 厚内地区牧場 生剛村戸長役場 昭和14年頃の浦幌村全景写真 4点
目的	古建築物調査
期 間	平成26年10月17日

貸出先	帯広百年記念館 大和田務
資料名	丸大劇場（現浦幌印刷）協和会館写真 2点
目的	特別企画展「十勝に映画館がたくさんあった頃」展示のため複写
期 間	平成26年10月17日

貸出先	標津町ポー川史跡自然公園 小野哲也
資料名	十勝太若月遺跡出土鉄製品 3点
目的	成分分析調査
期 間	平成26年11月15日～平成27年3月10日

## V. 博物館の事業

### 平成27年度浦幌町立博物館運営方針

浦幌町教育の日・小中一貫教育・コミュニティ・スクール・学校支援を地域全体で具現化するために生涯学習の観点から浦幌町立博物館は次のような活動を展開します。

- 学校との連携を強化し、展示資料等や町内の教育的資源をもとに総合学習や理科・社会・歴史などの教科指導に深く関わり博物館の教育機能を最大限に活用・発揮します。小中一環教育・コミュニティ・スクール導入を見据え、学校支援ボランティア派遣・育成にも応えていきます。(総合学習・理科・社会・歴史等)
- 本町全体を総合的ミュージアムと位置付け、内外の研究者や町民を巻き込みながら新たな発見を求めて調査・研究活動や博物館講座を開催します。また、貴重な収蔵資料をもとに定期的に小企画展を開催します。(化石・昆虫・植物研究)
- 町民の貴重な財産である歴史・産業遺産、地質、恵まれた自然等を教育的資源として活用し、「うらほろスタイルゼミナール」や「博物館ミニ移動講座」「各種博物館講座」を実施します。(考古学・産業遺産・戦争遺産・第四紀・第三紀・白亜紀・ヒグマ・四季の植物等)
- 管内外の博物館、研究機関、福祉団体や産業・観光団体と連携し、浦幌の魅力を探り発信します。(各大学等の研究機関との合同研究、ロングトレイル協議会・高齢者団体等との連携)
- 博物館を人々の生涯学習の場として魅力あるものに育て、それを支えていくために、展示資料説明・古文書解説・アイヌ文化伝承等の気軽に参加できるボランティア活動の人材育成と実践の場を設けます。
- 個人のジャンルや興味に関係なく博物館に気軽に集えるよう、各種企画展やプチミュージアム、ロビーコンサート、ナイトミュージアム等を図書館・公民館と連携し、開催します。
- アイヌ協会浦幌支部と連携し、アイヌの食や工芸などのアイヌ文化伝承を図り、合わせて体験・発表・鑑賞の機会を設定します。  
自然とともに生きる知恵を、暮らしに活かしてきたアイヌ文化を伝承するため広く町民に呼びかけ、アイヌ文化に触れる機会をつくります。  
(アイヌ文様刺繍・木彫・アイヌ文化伝承展等)

V. 博物館の事業

分類	事業名	事業内容	場所	期日	備考	
収集	旧資料の登録化	郷土博物館からの資料引継ぎ	博物館	通年		
	新資料の登録化	新資料・寄贈資料の整理登録化	博物館	通年	寄贈 187点 収集 767点	
	図書資料の収集	図書資料の収集	博物館	通年	受贈 277点	
	新聞資料の収集	新聞資料の整理	博物館	通年	カード化	
保存	昆虫標本の作成・保存	チョウの採集・標本化	博物館	夏季	採集 95頭	
展示	巡回展 (帯広百年記念館共催)	帯広百年記念館運営連絡協議会移動展 「十勝に映画館がたくさんあった頃」	博物館	12/22～1/13	記帳者：85名	
	小企画展	収蔵資料展「端午の節句展」	博物館	4/15～5/5	記帳者：108名 記念撮影：38名	
		懐かしの昭和展	博物館	5/10～6/10	記帳者：134名	
		浦幌炭礦閉山60年回顧展	博物館	6/18～8/28	記帳者：500名	
		真夏の残像・・・あの夏の熱き思い ・・・戦争体験を伝える	博物館	8/6～28	記帳者：130名	
		収蔵資料展「みのりの秋」 開拓時代の農具展示会	博物館	9/2～28	記帳者：72名	
		紙に記された昭和史	博物館	10/7～22	記帳者：37名	
		うらほろ孔版画サークル 結成20周年記念展	博物館	10/24～11/3	記帳者：96名	
		開拓当時の測量図画展	博物館	11/7～21	記帳者：37名	
		北海道開拓記念館巡回展 リニューアル予告展示会	博物館	12/6～19	記帳者：92名	
		2015年 全国孔版画賀状展	博物館	2/4～12	記帳者：77名	
		収蔵資料展「ひな人形展」	博物館	2/17～3/3	記帳者：161名 写真撮影：30名	
		アイヌ文化伝承事業(アイヌ協会共催) 「アイヌ文様刺繍展示会」	博物館	3/29～31 ～4/14	記帳者：19名 記帳者：117名	
		昭和27年十勝沖大震災回顧展& メガ津波標本展	博物館	3/4～30	記帳者：152名	
		ぶちミュージアム	動物切手コレクション	博物館	12/28～2/13	郷 栄
			ストラップコレクション	博物館	1/26～2/13	高田雅行
			ひつじコレクション	博物館	1/26～2/13	中川菜都紀
			スヌーピーコレクション	博物館	2/13～3/10	藤井陸香
			コカ・コーラコレクション	博物館	2/13～3/30	藤井陸香
			有名人切手コレクション	博物館	3/13～4/14	土本伸重
調査	古文書解説	十勝郡生剛村役場公文書 十勝郡生剛村駐在所調書	博物館	通年	博物館ボランティア	
	浦幌町植物・野生動物・化石調査	大学・研究者と連携して調査研究を行う	町内	通年	ヒグマ・アンモナイト・K-T境界層	
教育普及	博物館講座等の開設	蝶の標本づくりに挑戦しよう！	森林公園他	7/19・8/6	講師 円子紳一 参加者 2名	
		子ども考古学教室	博物館	7/20	講師 北海道埋蔵文化財センター学芸員 参加者 14名	
		うらほろスタイルゼミナール 「過去の津波痕跡から防災を考えよう！」	博物館	7/26	講師 西村裕一 参加者 19名	
		うらほろスタイルゼミナール 「浦幌周辺で発見された貴重な化石」	博物館	8/13	講師 天野和孝 参加者 17名	
		語り部 子どもたちに伝える 「むかし、戦争がありました」	博物館	8/11	講師 高橋悦子 参加者 22名	
		子どもヒグマの学校	博物館	8/19	講師 石橋悠樹他9名 参加者 40名	
		開拓時代の食べ物試食会	博物館	9/6	参加者 12名	

分類	事業名	事業内容	場所	期日	備考
教育普及	博物館講座等の開設	皆既月食を観察しよう！	博物館	10/3	講師 和歌山満 参加者 48名
		うらほろスタイルゼミナール 「メディカル・アロマ」香りの歴史	博物館	11/23	講師 阿比留昭子 参加者 21名
		うらほろスタイルゼミナール 社会教育施設ボランティア養成連続講座 「博物館って楽しいよ」	中央公民館	12/13	講師 伊藤彩子 参加者 12名
		初心者アイヌ伝承料理教室	中央公民館	12/15	講師 差間正樹 参加者 17名
		うらほろスタイルゼミナール 社会教育施設ボランティア養成連続講座 「十勝に映画館がたくさんあった頃」	博物館	1/9	講師 大和田努 参加者 13名
		化石のレプリカづくり教室	博物館	1/13	講師 澤村 寛 参加者 44名
		エゾリスBOX	博物館	1/16	講師 伊藤彩子 小林真樹 参加者 26名
		博物館ボランティア養成月曜講座 第1講「浦幌の自然」	博物館	2/23	講師 佐藤館長 参加者 7名
		博物館ボランティア養成月曜講座 第2講「恐竜から哺乳類へ」	博物館	3/2	講師 佐藤館長 参加者 3名
		「大地が語る 十勝浦幌の自然史： 十勝浦幌の化石と古環境」	博物館	3/7	講師 木村方一 参加者 23名
		博物館ボランティア養成月曜講座 第3講「石器。土器の文化」	博物館	3/9	講師 佐藤館長 参加者 5名
		うらほろスタイルゼミナール 「夢見てこの地に来てみれば・・・」	中央公民館	3/9	コメンテーター 高橋 徹 参加者 7名
		博物館ボランティア養成月曜講座 第4講「開拓時代」	博物館	3/16	講師 佐藤館長 参加者 7名
		うらほろスタイルゼミナール 「豊北の大地の記録-明らかにになった 5千年間の巨大津波像-」	博物館	3/16	講師 西村裕一 参加者 15名
		博物館ボランティア養成月曜講座 第5講「浦幌市街の今昔物語」	博物館	3/23	講師 佐藤館長 参加者 5名
	うらほろスタイルゼミナール 健康編「ミュージックケア」	中央公民館	3/30	講師 鈴木美嘉 西田祐子 参加者 25名	
	共催支援事業	北海道開拓記念館リニューアル 予告展示会関連講座「北の土偶」	博物館	12/6	講師 右代啓視 参加者 10名
		北海道開拓記念館リニューアル 予告展示会関連講座「土偶を作ろう」	博物館	12/7	講師 鈴木琢也 参加者 11名
		初心者アイヌ文様刺繍講座 (浦幌アイヌ協会)	博物館	1/20～22	講師 廣川和子 参加者 9名
		うらほろスタイルゼミナール 「植物標本を作ろう！」(自然を楽しむ会)	博物館	2/22	講師 持田誠 参加者 11名
うらほろスタイルゼミナール 世代間交流 家族で学ぶ防災 「食べて共に生き抜こう」(和ごころ体験塾)		博物館	3/21	講師 松本英俊 参加者 73名	
移動博物館教室の開設	春の渡り鳥観察会	豊北・ 生剛	4/6	講師 春日基江 参加者 16名 30種	
	春の草花観察会「ウラホロイチゲ」	養老・ 万年	4/26	講師 坂下禮子 参加者 16名	

V. 博物館の事業

分類	事業名	事業内容	場所	期日	備考
教育普及	移動博物館教室の開設	春の野鳥観察会「青い鳥を探そう」	森林公園	5/10	講師 春日基江 参加者 8名
		うらほろスタイルゼミナール 「知つとこ浦幌」	町内全域	5/10	講師 佐藤館長 参加者 12名
		初夏の草花観察会	豊北	6/29	講師 坂下禮子 参加者 9名
		小鳥のさえずりを聞きに行こう！	森林公園 ・豊北	7/6	講師 春日基江 参加者 5名
		新第三紀の浦幌を探る ・夏休み自由研究企画	厚内	7/27	講師 和歌山満 佐藤館長 参加者 40名
		地学編「恐竜・アンモナイト絶滅の なぞを探る」	川流布	8/10	講師 佐藤館長 参加者 3名
		秋の草花たちは元気かな？	豊北海岸	9/4	講師 坂下禮子 参加者 5名 38種
		町内史跡見学会	豊北・生剛・ 十勝太・厚内	9/21・10/4	講師 佐藤館長 参加者 6名
		ヒグマの生態を探る	留真	10/11	講師 ヒグマ調査会 参加者 5名
		ハクガンたちは元気かな？	豊北・ 十勝太	11/8	講師 春日基江 参加者 8名 3種
		しし座流星群観望会	豊北・ 十勝太	11/18	講師 和歌山満 参加者 4名
		移動自然（厳寒）体験講座 「厳寒の豊北氷原を走破！」	豊北海岸	2/1	講師 佐藤道人 郷 栄 荒川和子 武藤満雄 参加者 11名
	渡り鳥観察会	豊北海岸 周 辺	3/29	講師 円子紳一 参加者 7名 26種	
	あなたが企画する 体験ツアー	家族で化石発掘体験	厚内	8/6	講師 佐藤館長 参加者 8名
	ロビーコンサート	収蔵資料レコードコンサート	博物館	4/5・5/3・ 6/21・7/19・ 8/23・9/6・ 10/11・11/1・ 12/13・1/10・ 2/7・3/14	参加者 延べ86名
		クリスマス ロビーコンサート 「ニコルのバイオリン」&「マリンバ」 ミニライブ「歌声サロン」	博物館	12/18	参加者 26名
レファレンス業務		博物館	通年		
「博物館年報」の発行	第15号・A4判・105P・500部	博物館	平成26年11月発行		
「博物館紀要」の発行	第15号・A4判・97P・500部	博物館	平成27年3月発行		
講義・指導等	北海道教育大学釧路校生町内巡検指導	町内	4/25	生徒 26名 引率含む	
	北海道教育大学釧路校生化石採集指導	厚内	4/27	生徒 8名 引率含む	
	帯広しあわせクラブ	博物館	6/5	参加者 20名	
	東十勝ロングトレイル「海のルート」	昆布刈石	6/28	参加者 50名	
	NHKおはようもぎたてラジオ便 「わが街のミュージアム」出演	博物館	7/2	佐藤館長電話出演	

分類	事業名	事業内容	場所	期日	備考
教育普及	講義・指導等	上浦幌PTA連合会町内研修指導	博物館・雪氷倉庫	7/5	参加者 30名
		洋野町関係者町内案内	生 剛	7/12	参加者 10名
		豊頃町生涯学習グループ案内	博物館	7/15	参加者 9名
		浦幌中学校3学年総合学習 「町内魅力発見バスツアー」指導	町内一円	7/16	生徒 42名 引率 6名
		帯広わかば会案内	博物館	8/7	参加者 30名
		めむろ歴史探訪会案内	生剛ほか	8/26	参加者 25名
		上浦幌中学校1・2学年総合学習指導	博物館	8/28	生徒 19名 引率 1名
		豊頃小学校6学年「地層・化石」指導	厚 内	9/4	児童 19名 引率 1名
		幕別小学校6学年理科指導 地層・化石	厚 内	9/11	児童 38名 引率 2名
		浦幌小学校5学年「川の働き」指導	留 真	9/26	児童 20名 引率 2名
		上浦幌中央小学校3・4学年社会科指導	博物館	9/29	児童 21名 引率含む
		浦幌小学校6学年「地層・化石」指導	厚 内	10/6	児童 21名 引率 2名
		東十勝ロングトレイル「森のルート」	留 真	10/18	参加者 40名
		十勝社会科教科書研究会	博物館・生剛	10/19	参加者 11名
		FM JAGA出演	博物館	1/4	佐藤館長電話出演
		浦幌小学校3学年社会指導 昔の道具	博物館	2/10	児童 21名 引率 2名
		NHKおはようもぎたてラジオ便 「わが街のミュージアム」出演		3/18	
会議・研修	博物館協議会の開催	館長の諮問機関・年3回	教育文化センター	5/21・8/29・3/26	
	帯広百年記念館運営連絡協議会総会	帯広百年記念館運営のための連絡協議会	帯広百年記念館	6/5	佐藤館長欠席
	道東3管内博物館施設等連絡協議会総会	道東地区の博物館協議会	釧路市立博物館	5/30	佐藤館長欠席
連携事業	浦幌町商工会地域振興調査事業委員会	浦幌町の着地型観光ルート開発に伴う研究	コスミックホール	5/30・8/2・10/4・10/25・1/1・2/25	町内ツアー等
	広葉樹資源育成等検討委員会	森林室との共同会議	町 内		
	東十勝ロングトレイル事業	浦幌・豊頃の自然や産業・歴史を生かした新たな散策ルート開発	町 内	6/28・10/18・11/15・3/21	町内ツアー等
研究者等受入	職場体験学習	新聞資料カード化・収蔵資料クリーニングほか	博物館	通年	池田高校1名
	日本大学・酪農学園大学	ヒグマ生態研究	博物館	通年	佐藤喜和教授ほか
	上越教育大学	貝化石研究	博物館	通年	天野和孝教授
	個人研究者	貝化石研究	博物館	通年	井上清和
	三笠市立博物館	アンモナイト研究	博物館	通年	栗原賢一
	帯広百年記念館	植物・鉄道史研究	博物館	通年	持田 誠
	東京大学	考古学(縄文早期)	博物館	通年	
	北海道大学	地震津波地層研究	博物館	通年	西村裕一
	秋田大学	微化石研究	博物館	通年	嶋田智恵子ほか
北海道教育大学・明治大学	地域づくり研究	博物館	通年	宮前耕史ほか	

V. 博物館の事業



PL.1 移動博物館教室  
「春の草花観察会：  
ウラホロイチゲ」  
(H6.4.26)

PL.2 うらほろスタイルゼミ  
ナール  
「知っところ浦幌」  
(H26.5.10)



PL.3 博物館移動講座  
「野鳥編」  
(H26.7.6)



PL.4 博物館講座  
「蝶の標本づくりに挑戦しよう」  
(H26.7.19)

PL.5 博物館講座  
「子ども考古学教室」  
(H26.7.20)



PL.6 うらほろスタイルゼミ  
ナール  
「過去の津波痕跡から  
防災を考えよう！」  
(H26.7.26)

V. 博物館の事業



PL.7 移動博物館教室  
「新第三紀の浦幌を探索・夏休み自由研究企画」  
(H26.7.27)

PL.8 博物館講座  
「語り部 子どもたちに戦争を伝える『むかし戦争がありました』」  
(H26.8.11)



PL.9 うらほろスタイルゼミナール  
「浦幌周辺で発見された貴重な化石」  
(H26.8.13)



PL.10 博物館講座  
「子どもヒグマの学校」  
(H26.8.19)

PL.11 移動博物館教室  
「秋の草花たちは元気  
かな？」  
(H26.9.4)



PL.12 博物館講座  
「開拓時代の食べ物試  
食会」  
(H26.9.6)

V. 博物館の事業



PL.13 移動博物館教室  
「町内史跡見学会」  
(H26.9.21)

PL.14 博物館講座  
「皆既月食を観察しよう！」  
(H26.10.3)



PL.15 収蔵資料レコードコンサート  
(H26.11.1)



PL.16 移動博物館教室  
「ハクガンたちは元気  
かな？」  
(H26.11.8)

PL.17 うらほろスタイルゼミ  
ナール  
「メディカル・アロマ」  
香りの歴史  
(H26.11.23)



PL.18 ブックトーク&レコー  
ドコンサート  
(H26.12.13)

V. 博物館の事業



PL.19 北海道開拓記念館リニューアル予告展示会講座  
「北の土偶」  
(H26.12.6)

PL.20 うらほろスタイルゼミナール  
「社会教育施設ボランティア養成連続講座  
『博物館って楽しいよ』」  
(H26.12.13)



PL.21 博物館講座  
「初心者アイヌ伝承料理教室」  
(H26.12.15)



PL.22 クリスマスロビーコンサート  
(H26.12.18)

PL.23 うらほろスタイルゼミナール  
「社会教育施設ボランティア養成連続講座  
『十勝に映画館がたくさんあった頃』」  
(H27.1.9)



PL.24 博物館講座  
「化石レプリカづくり  
教室」  
(H27.1.13)

V. 博物館の事業



PL.25 博物館講座  
「エゾリスBOX」  
(H27.1.16)

PL.26 浦幌アイヌ協会共催  
「初心者アイヌ文様刺  
繍講座」  
(H27.1.20)



PL.27 移動博物館教室  
「移動自然（厳寒）体  
験講座『厳寒の豊北氷  
原を走破！』」  
(H27.2.1)



PL.28 浦幌の自然を楽しむ会  
共催  
「植物標本をつくろう！」  
(H27.2.22)

PL.29 博物館講座  
「大地が語る 十勝浦幌の自然史・十勝浦幌の化石と古環境」  
(H27.3.7)



PL.30 うらほろスタイルゼミナール  
「豊北の大地の記録：明らかになった5千年間の巨大津波像」  
(H27.3.16)

V. 博物館の事業



PL.31 博物館ボランティア養成月曜講座  
「第2講 恐竜から哺乳類へ」  
(H27.3.2)

PL.32 収蔵資料展  
「端午の節句展」  
(H26.4.15～5.5)



PL.33 懐かしの昭和の生活展  
(H26.5.10～6.10)



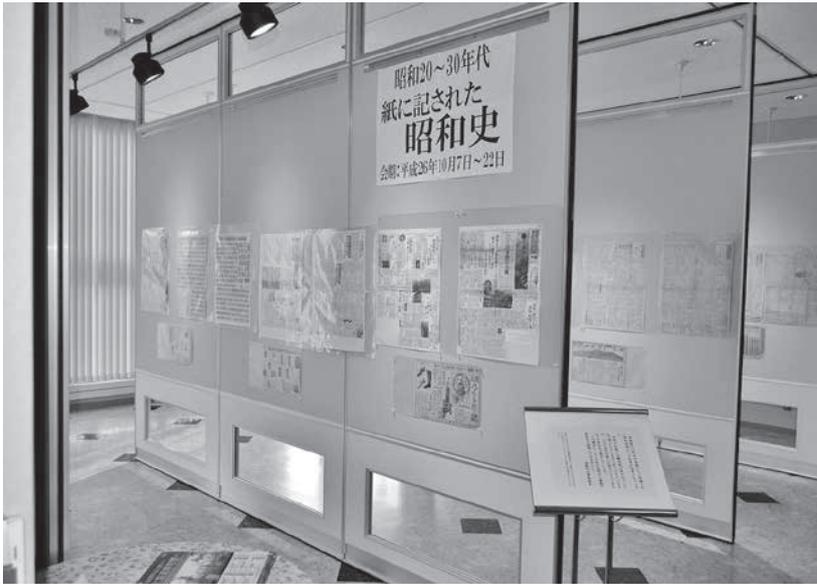
PL.34 浦幌炭礦閉山60年回顧展  
(H26.6.18~8.28)

PL.35 真夏の残像  
…あの夏の暑き想い  
…戦争体験を伝える  
(H26.8.6~28)



PL.36 収蔵資料展  
「みのりの秋：開拓時代の農具展示会」  
(H26.9.2~28)

V. 博物館の事業



PL.37 紙に記された昭和史  
(H26.10.7～22)

PL.38 開拓当時の測量図画展  
(H26.11.7～21)



PL.39 北海道開拓記念館巡回展  
リニューアル予告展示会  
(H26.12.6～19)



PL.40 帯広百年記念館移動展  
「十勝に映画館がたくさんあった頃」  
(H26.12.22~H27.1.13)

PL.41 2015年孔版画年賀状展  
(H27.2.4~12)



PL.42 昭和27年十勝沖大震災  
回顧展&メガ津波標本展  
(H27.3.4~30)

## VI. レファレンス業務

2014年度において、照会などのあった内容は概ね次のようなものである。

- 浦幌町郷土博物館報告について
- 十勝太遺跡について
- 石刃鎌文化について
- 直別渡船について
- 渡り鳥の飛来時期と種類について
- 旧浦幌炭砦について
- 旧中浦幌駅通について
- ヒグマの分布・生態について
- 植物名問い合わせ
- 昆虫名問い合わせ
- 浦幌町周辺で産出される貝化石について
- 浦幌村教育研究会について
- 浦幌町内の映画館・劇場について
- 浦幌町内の和菓子店について
- 和菓子木型の保存状況について
- 町内の地層について
- 植物標本の製作法について
- ウラホロイチゲについて
- K-Pg境界層について
- 浦幌での馬産について
- 豊北海岸のトーチカについて
- 町内のチャシの残存状況について
- 文化財標識について

## VII. 博物館ボランティア

博物館活動の一環として、博物館ボランティアによる活動がある。博物館ボランティアの業務は、①資料整理等の補助業務 ②新聞資料等の整理 ③博物館図書の登録と整理 ④簡易な展示解説 ⑤調査研究活動の補助 ⑥その他館長が適当と認めた業務等が想定されるが、本館では①～③業務を主に行い、他に古文書解説も行われている。現在の登録者は9名であるが、日常的に活動している者は5名である。

なお、古文書解説の成果は、「浦幌町立博物館紀要」第14号に掲載した。

### ●博物館ボランティア活動日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人数	2	3	2	3	2	4	4	3	2	4	4	4	37
延人数	9	12	10	7	6	17	17	9	9	15	19	20	150

### ●博物館ボランティア登録者

北町	春日 基江	住吉町	三浦 直春	栄町	橋本 友子	宝町	佐藤 明美
十勝太	市川 藤子	万年	坂下 禮子	南町	荒川 和子	北栄	円子 紳一
東山町	井上 牧子	東山町	北村 幸子	本町	久我サトエ		

## VIII. 博物館日誌 (抄)

### 平成26年

- 4月1日(火) 町辞令交付式。教育委員会辞令交付式。博物館、図書館、中央公民館長辞令交付式。女性連出口和枝氏、勝毎通信員円子紳一氏、石原英之氏、山北健造氏来館。
- 4月2日(水) 臨時校長会議。臨時教頭会議。女性連出口和枝氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏、勝毎通信員円子紳一氏、厚内小教頭川崎広輝氏、上中央小堂山貴也氏、浦中小室彰人氏、浦小山本瑞聡氏、上中白井将之氏来館。
- 4月3日(木) Chai編集部平田幸嗣氏、円子紳一氏来館。
- 4月4日(金) 円子紳一氏、上浦幌公民館長鈴木信男氏来館。
- 4月5日(土) 収蔵資料ロビーレコードコンサート開催。
- 4月6日(日) 博物館ミニ移動講座「渡り鳥観察会」開催
- 4月7日(月) 研究のため三浦直春氏、猟友会野口昌靖氏来館
- 4月8日(火) 工藤正博氏、森林室室長寺島幸弘氏、次長朝倉憲行氏、主幹井上靖彦氏、土田章氏来館。研究のため宮崎一市氏来館。
- 4月9日(水) 佐藤館長、東十勝ロングトレイル協議会担当者会議出席。上浦幌公民館長鈴木信男氏、宮崎一市氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏来館。
- 4月10日(木) 猟友会野口昌靖氏、時事通信社帯広支局長近木隆夫氏来館。
- 4月11日(金) 佐藤館長、中央寿大学開講式出席。女性連出口和枝氏、浦幌アイヌ協会差間正樹氏、十勝毎日新聞池田支局平野明氏来館。郷雅子氏、円子紳一氏来館。
- 4月14日(月) 佐藤館長、東十勝ロングトレイル協議会担当者会議(帯広市)出席。
- 4月15日(火) 博物館収蔵資料展端午の節句展開催。森田健吾氏来館。
- 4月16日(水) 円子紳一氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏、宮崎一市氏、崎田忠道氏、齊藤利幸氏、松川則子氏、松原賀子氏、酒井清氏、経堂岩夫氏、永澤厚志氏、高室氏、齊藤弘史氏、鳴海孝次氏来館。
- 4月17日(木) 佐藤館長、十勝管内公共図書館協議会役員会(帯広市)出席。円子紳一氏来館。
- 4月18日(金) 北海道新聞社池田支局佐竹政治氏、紀要ヒグマの背こすり取材のため来館。上浦幌中央小学校教諭佐藤陽子氏、社会科学習打合せのため来館。飛田辰章氏、酪農学園大学教授佐藤喜和氏、富安洵平氏ヒグマ調査のため来館。
- 4月21日(月) 北海道大学助教理学博士地震火山研究観測センター西村裕一氏来館。円子紳一氏、ノースプロダクション近江正隆氏、森彩花氏来館。
- 4月22日(火) 浦幌幼稚園、しらかば保育園団体見学。橋本ひろ子氏、柳楽悦子氏、円子紳一氏来館。
- 4月23日(水) 大同出版紙業(株)藤井陸香氏、円子紳一氏来館。
- 4月24日(木) 佐藤館長、図書館振興協議会総会、道公民館協会定期総会(札幌市)出席。
- 4月25日(金) 佐藤館長、北海道教育大学釧路校浦幌巡検講師のため随伴。北海道教育大学釧路校団体見学。定例教育委員会。浦幌中学校関口博愛氏、宮崎一市氏、円子紳一氏、上浦幌公民館長鈴木信男氏来館。
- 4月26日(土) 博物館ミニ移動講座「ウラホロイチゲを見に行こう」開催
- 4月27日(日) 北海道教育大学釧路校化石採集指導のため随伴。
- 4月28日(月) 大山みどり氏、春日基江氏、ビジネスプランニング/プロデュース/コネクト山川真輔氏来館。
- 4月29日(火)
- 4月30日(水) 佐藤館長、図書館担当者会議出席。帯広稲田わかば会大和田雄大氏、研修打合せのため来館。上浦幌公民館長鈴木信男氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏来館。
- 5月1日(木) 大村博氏、飛田辰章氏来館
- 5月2日(金) 春日基江氏来館。
- 5月3日(土) 収蔵資料ロビーレコードコンサート開催。佐藤館長、あなたが企画移動講座(帯広市西川家)講師のため随伴(厚内)。浦幌ヒグマ調査会総会出席。酪農学園大学佐藤喜和氏、円子紳一氏、帯広稲田わかば会大和田雄大氏来館
- 5月5日(月) 「端午の節句展」写真撮影会。
- 5月7日(水) 円子紳一氏、三浦直春氏、上浦幌公民館長鈴木信男氏来館。
- 5月8日(木) 酪農学園大学佐藤喜和氏、米澤望氏、柴田悟氏、鈴木輝氏研究調査のため来館。十勝

VIII. 博物館日誌（抄）

- 5月10日(土) 毎日新聞池田支局長平野明氏取材のため来館。  
博物館収蔵資料展「懐かしき昭和の生活展」開催。博物館ミニ移動講座「野鳥編」青い鳥を探そう開催。うらほろスタイルゼミナール「知つとこ浦幌」開催。
- 5月12日(月) ノースプロダクション近江正隆氏、柳楽悦子氏、近藤達氏来館。勝毎通信員円子紳一氏、猟友会野口昌靖氏。
- 5月13日(火) ノースプロダクション柳楽悦子氏、近藤達氏来館。
- 5月14日(水) 佐藤館長、十勝ロングトレイル協議会担当者会議（豊頃町）出席。
- 5月15日(木) 米司綾逸氏、円子紳一氏来館。
- 5月19日(月) 円子紳一氏来館。
- 5月21日(水) 浦幌町立図書館・博物館協議会。幕別町ふるさと館植松裕二氏、森広幸氏、二ツ山智氏来館。講座打合せのため坂下禮子氏来館。
- 5月22日(木) 定例教育委員会。
- 5月23日(金) 調査研究のため日本大学田中博子氏、小野匠氏、酪農学園大学石橋悠樹氏、柴田悟氏来館。円子紳一氏来館。
- 5月24日(土) 北村剛氏来館。
- 5月27日(火) 北海道大学西村裕一氏、中村有吾氏来館。円子紳一氏来館。
- 5月28日(水) 池田町教育委員会君島利彦氏、池田町給食センター松永祐加子氏来館。地域おこし協力隊泉のどか氏、畠山裕恵氏来館。
- 5月29日(木) 定例校長会、教頭会。田中敏彦氏、大山みどり氏来館。
- 5月30日(金) 東京大学教授佐藤宏之氏、准教授福田正宏氏、ほか学生1名来館。
- 5月31日(土) 円子紳一氏来館。
- 6月2日(月) 高橋悦子氏、杉江博氏、円子紳一氏来館。
- 6月3日(火) 藤川優氏来館。
- 6月4日(水) 上浦幌公民館長鈴木信男氏、円子紳一氏、大同出版藤井陸香氏来館。中央公民館事業打合せのためJTB芦名沢望氏来館。
- 6月5日(木) 帯広しあわせクラブ団体見学。佐藤館長、帯広百年記念館運営連絡協議会総会(帯広市)出席。
- 6月6日(金) 中央寿大学講師九本栄一氏、山口幸代氏来館。高橋徹氏、十勝毎日新聞池田支局長平野明氏、通信員円子紳一氏来館。
- 6月7日(土) 厚真町教育委員会埋蔵文化財調査補助員松井昭氏、服部一雄氏、測量技能作業員山戸大知氏来館。
- 6月8日(日) 博物館ミニ移動講座「古の人々が住んでいた丘」雨天により中止。
- 6月9日(月) 郷雅子氏、円子紳一氏来館。
- 6月10日(火) (株)ポプラ社図書営業高橋智信氏、矢島達也氏、円子紳一氏来館。
- 6月11日(水) 上浦幌公民館長鈴木信男氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏来館。
- 6月13日(金) 酒井清氏、円子紳一氏来館。
- 6月14日(土) 佐藤館長、教職員ふるさと移動研修会講師同行。
- 6月16日(月) 奥野武俊氏ほか4名来館。円子紳一氏、杉江博氏来館。
- 6月17日(火) 浦幌炭礦閉山60年回顧展開催。
- 6月18日(水) 円子紳一氏、柳楽悦子氏来館。
- 6月19日(木) 猟友会野口昌靖氏、鈴木由市氏、飛田辰章氏、池田壽彦氏、山岸憲之氏打合せのため来館。ブックキャラバン(株)図書館流通センター佐藤麻奈美氏来館。しらかば保育園団体見学。白田洋服店、円子紳一氏来館。
- 6月20日(金) 帯広百年記念館持田誠氏、Chai編集部平田幸嗣氏、荒木利幸氏打ち合わせのため来館。澤口君晴氏、柳楽悦子氏来館。
- 6月21日(土) 収蔵資料ロビーレコードコンサート開催。岐阜農場関係者下野哲人氏、伊藤典子氏来館。
- 6月23日(月) 定例校長会、教頭会。円子紳一氏来館。
- 6月24日(火) 井上清和氏、円子紳一氏、野口昌靖氏、前川吉造氏来館。
- 6月25日(水) 仙台藩白老元陣屋資料館学芸員平野敦史氏展示会打合せのため来館。上浦幌公民館長鈴木信男氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏、JTB芦名沢望氏、宮崎一市氏来館。
- 6月26日(木) 円子紳一氏来館。
- 6月27日(金) 鶴亀長寿会団体見学。円子紳一氏、柳楽悦子氏、和歌山満氏来館。
- 6月28日(土) 佐藤館長、東十勝ロングトレイル「海ルート」講師随付。
- 6月29日(日) 博物館ミニ移動講座「植物編」初夏の草花開催。

- 6月30日(月) 定例教育委員会。上浦幌公民館長鈴木信男氏、円子紳一氏来館。
- 7月1日(火) 浦幌アイヌ協会差間正樹氏、浦幌アイヌ協会生活相談員奥田珠美氏来館。円子紳一氏、猟友会池田亮一氏来館。
- 7月2日(水) 佐藤館長、NHKラジオ出演。円子紳一氏、飛田辰章氏、ノースプロダクション柳楽悦子氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏、箱崎正次氏、箱崎佐知子氏、小山妙子氏来館。
- 7月3日(木) 池田高校教諭村中譜佐朗氏職場体験打合せのため来館。宮崎一市氏来館。
- 7月5日(土) 佐藤館長、上浦幌PTA連視察研修講師随行。
- 7月6日(日) 博物館ミニ移動講座「野鳥編」小鳥のさえずりを聞きに行こう開催。
- 7月7日(月) 円子紳一氏来館。
- 7月8日(火) 井下まさの氏ほか1名文芸誌「樹炎」打合せのため来館。帯広百年記念館持田誠氏浦幌町映画館資料調査のため来館。猟友会野口昌靖氏、円子紳一氏、山本和幸氏、森林室和田幸二氏来館。
- 7月9日(水) 佐藤館長、全道博物館大会（旭川市）出席。～11日  
標津町ポー川史跡自然公園学芸員小野哲也氏鉄器調査のため来館。円子紳一氏来館。
- 7月10日(木) 日本旅行村上裕二氏、近江谷真吾氏来館。
- 7月11日(金) ソーゴー印刷スロウ編集齋藤裕人氏、円子紳一氏来館。
- 7月14日(月) 上浦幌中学校教諭浜田英伸氏、豊頃町教育委員会菅原正文氏、円子紳一氏来館。
- 7月15日(火) 佐藤館長、豊頃町生涯学習グループ指導のため随行。
- 7月16日(水) 佐藤館長、浦幌中学校3年魅力発見ツアー指導のため随行。  
北海道新聞池田支局長鈴木圭一氏浦幌炭礦取材のため来館。十勝毎日新聞池田支局長平野明氏打ち合わせのため来館。上浦幌公民館長鈴木信男氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏来館。
- 7月17日(木) 円子紳一氏来館。
- 7月18日(金) 帯広百年記念館持田誠氏、資料返却のため来館。小林壽夫氏、小林さつき氏、円子紳一氏、スロウ編集部齋藤裕人氏来館。
- 7月19日(土) 博物館ミニ移動講座「昆虫編」蝶の標本づくりに挑戦しよう開催。  
収蔵資料ロビーレコードコンサート開催。  
帯広明和小地区生涯学習推進委員会団体来館。北海道埋蔵文化財センター鎌田望氏来館。
- 7月20日(日) 博物館講座「子ども考古学教室」開催。
- 7月22日(火) 北海道大学教授西村裕一氏、中村有吾氏、つくば大学千葉崇氏ら一行豊北地層調査のため来館。森林室和田幸二氏、十勝毎日新聞池田支局長平野明氏、通信員円子紳一氏、浦幌アイヌ協会差間正樹氏、奥田珠美氏来館。橋本美代子氏、(株)杉浦石垣諭臣氏来館。
- 7月23日(水) 定例校長会、教頭会。  
北海道新聞池田支局長鈴木圭一氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏、円子紳一氏、三浦直春氏来館。
- 7月24日(木) 定例教育委員会。川畑透氏、桐原克廣氏寄贈のため来館。森久美子氏、森愛実氏来館。
- 7月25日(金) 酪農学園大学佐藤喜和氏、上浦幌公民館長鈴木信男氏、Chai編集部平田幸嗣氏、阿部優氏、佐藤泰彦氏来館。
- 7月26日(土) 佐藤館長、若葉小地区コミュニティー講座随行。うらほろスタイルゼミナール「津波痕跡から防災を考える」開催。
- 7月27日(日) 博物館ミニ移動講座「地学編」新第三紀の浦幌を探る・夏休み自由研究企画開催。
- 7月28日(月) 円子紳一氏、浜田英伸氏来館。
- 7月29日(火) 円子紳一氏来館。
- 7月30日(水) 円子紳一氏来館。
- 7月31日(木) 佐藤館長、浦幌町少年道外交流事業（富山県）随行。～3日
- 8月5日(火) 北海道新聞池田支局長鈴木圭一氏、十勝毎日新聞池田支局長平野明氏、円子紳一氏、北海道大学西村裕一氏、立林公昭氏、三浦直春氏来館。
- 8月6日(水) 博物館企画展「真夏の残像…「戦争体験を伝える」開催。あなたが企画するミニ移動講座「化石発掘体験」開催。  
博物館講座「蝶の標本づくり」開催。円子紳一氏講師。
- 8月7日(木) 佐藤館長、帯広若葉会団体見学指導。図書館まつり企画「カードケースづくり」。  
円子紳一氏、森啓之介氏、(株)杉浦石垣諭臣氏来館。
- 8月8日(金) 上浦幌公民館長鈴木信男氏、円子紳一氏来館。
- 8月10日(日) 博物館移動講座「恐竜・アンモナイト絶滅のなぞを探る」開催。渡辺昌子氏来館。

VIII. 博物館日誌（抄）

- 8月11日(月) 語り部「むかし、戦争がありました」講師高橋悦子氏。十勝毎日新聞社佐藤いずみ氏戦争関連取材のため来館。十勝毎日新聞通信員円子紳一氏語り部取材のため来館。
- 8月12日(火) 上越教育大学教授天野和孝氏、金沢大学ジェンキンス・ロバート氏、森谷和浩氏化石調査のため来館。円子紳一氏、猟友会野口昌靖氏、鈴木由市氏来館。
- 8月13日(水) うらぼろスタイル教育ゼミナール「浦幌町周辺で発見された新たな化石」開催。
- 8月14日(木) 上越教育大学教授天野和孝氏、金沢大学ジェンキンス・ロバート氏化石調査のため来館。円子紳一氏来館。
- 8月15日(金) 門屋紀郎氏視察研修打合せのため来館。
- 8月16日(土) 杉本年明氏浦幌炭礦模型寄贈のため来館。
- 8月18日(月) 猟友会野口昌靖氏、鈴木由市氏打ち合わせのため来館。北海道新聞社池田支局長鈴木圭一氏取材のため来館。円子紳一氏、福原仁子氏来館。
- 8月19日(火) 博物館講座「こどもヒグマの学校」開催。  
酪農学園大学石橋悠樹氏、米澤望氏、成瀬奉平氏、栗木隼大氏、幡野昂氏、弓田慎氏、水梨賢也氏ヒグマの学校講師のため来館。浦幌アイヌ協会生活相談員奥田珠美氏講座打合せのため来館。
- 8月20日(水) (株)マイルビー高橋徹氏、高橋幸子氏打合せのため来館。円子紳一氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏来館。
- 8月21日(木) 定例校長会。  
十勝毎日新聞池田支局長平野明氏取材のため来館。  
森林認証室長関厚氏来館。
- 8月22日(金) 定例教育委員会。定例教頭会。佐藤館長、中央寿大学施設研修に引率。  
池田高校獅子原寛人氏職場体験学習のため来館。円子紳一氏、宮崎一市氏、北海道大学西村裕一氏研究のため来館。
- 8月23日(土) 収蔵資料ロビーレコードコンサート開催。
- 8月25日(月) 酪農学園大学佐藤喜和氏、石橋悠樹氏来館。三笠市博物館栗原憲一氏、早稲田大学工藤直樹氏研究のため来館。円子紳一氏、荒川和子氏、浦幌アイヌ協会差間正樹氏来館。
- 8月26日(火) 佐藤館長、芽室町歴史探訪会団体見学。円子紳一氏、猟友会淡路大輔氏、北海道新聞池田支局長鈴木圭一氏来館。秋田大学嶋田智恵子氏、山崎誠氏微化石研究のため来館。
- 8月27日(水) 佐藤館長、博物館移動講座「新第三紀の浦幌を探る・夏休み自由研究企画」指導のため随行。  
秋田大学嶋田智恵子氏、山崎誠氏研究のため来館。円子紳一氏、猟友会鈴木由市氏来館。
- 8月28日(木) 佐藤館長、上浦幌中学校3年総合学習指導のため随行。宮崎一市氏、和歌山満氏、福原仁子氏、円子紳一氏打ち合わせのため来館。
- 8月29日(金) 浦幌町立図書館・博物館協議会。早稲田大学工藤直樹氏、酪農学園大学石橋悠樹氏ほか2名ヒグマ研究のため来館。孔版画サークル小山妙子氏打合せのため来館。円子紳一氏、上浦幌公民館長鈴木信男氏来館。
- 9月2日(火) 博物館小企画展「みのりの秋」農具展示会開催。円子紳一氏来館。
- 9月3日(水) 円子紳一氏、猟友会野口昌靖氏、鈴木由市氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏、上浦幌公民館長鈴木信男氏来館。
- 9月4日(木) 佐藤館長、豊頃小学校6年理科学習指導のため随行。仙台藩白老元陣屋資料館学芸員平野敦史氏来館。谷川松芳氏、円子紳一氏、宮崎一市氏、猟友会野口昌靖氏、鈴木由市氏来館。
- 9月5日(金) 猟友会鈴木由市氏、十勝毎日新聞池田支局長平野明氏、通信員円子紳一氏来館。
- 9月6日(土) 農具展示会関連事業「開拓時代の食べ物試食会」開催。収蔵資料レコードコンサート開催。
- 9月10日(水) 佐藤館長、東十勝ロングトレイル協議会出席。上浦幌公民館鈴木信男氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏、浦幌アイヌ協会生活相談員奥田珠美氏、(株)マイルビー高橋徹氏来館。
- 9月11日(木) 佐藤館長、幕別小学校6年理科学習指導のため随行。酪農学園大学佐藤喜和氏、米澤望氏、弓田慎氏、深見峻甫氏、日本大学小野匠氏、円子紳一氏来館。
- 9月12日(金) 総務省行政評価分室（釧路）萩原克己氏、羽田葵氏、村山和義氏、円子紳一氏来館。
- 9月14日(日) 博物館移動講座「植物編」秋の草花たちは元気かな？
- 9月17日(水) 酪農学園大学佐藤喜和氏、円子紳一氏、宮崎一市氏、浦幌町商工会岩田彰氏来館。  
全国美術協会会員、平原社美術協会、行動美術協会会友近藤みどり氏、孔版画サークル講師千葉定是氏来館。
- 9月18日(木) 飛田辰章氏、北海道新聞池田支局長鈴木圭一氏来館。

- 9月19日(金) 円子紳一氏、猟友会野口昌靖氏、飛田辰章氏来館。  
 9月21日(日) 博物館ミニ移動講座「歴史編」町内の史跡見学会開催。  
 9月22日(月) 北海道教育大学松原尚志氏、中山陸氏、円子紳一氏来館。  
 9月24日(水) 北海道教育大学釧路校宮前耕史氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏、浦幌町商工会岩田彰氏来館。  
 9月25日(木) 北海道教育委員会西脇対名夫氏、土器・化石研究のため来館。(有)レアス小笠原信男氏、上浦幌公民館長鈴木信男氏来館。  
 9月26日(金) 定例教育委員会。佐藤館長、浦幌小学校5年理科学習指導ため随伴。円子紳一氏来館。  
 9月29日(月) 定例校長会、教頭会。  
 佐藤館長、上浦幌中央小学校3・4年理科学習指導のため随伴。  
 9月30日(火) 佐藤館長、中央寿大学修学旅行(旭川市)引率のため随伴。～10/1  
 宮崎一市氏、浦幌小学校教諭笹川尚哉氏打合せのため来館。  
 10月1日(水) 大同出版紙業(株)藤井陸香氏、上浦幌公民館長鈴木信男氏来館。  
 10月2日(木) (株)伊豆倉組長谷川俊一氏、浦幌炭礦模型見学のため来館。  
 10月3日(金) 円子紳一氏、HTB辻崎剛広氏(ディレクター)、関司祐介氏(カメラマン)炭礦跡取材のため来館。  
 10月4日(土) 博物館ミニ移動講座「歴史編」町内の史跡見学会開催。  
 10月6日(月) 佐藤館長、浦幌小学校6年理科学習指導のため随伴。浦幌アイヌ協会生活相談員奥田珠美氏打ち合わせのため来館。十勝毎日新聞池田支局平野明氏、井上朋一氏転任挨拶のため来館。  
 10月7日(火) 博物館収蔵資料展「紙に記された昭和史」開催。アイヌ実践上級刺繍講座。十勝毎日新聞社池田支局長井上朋一氏、通信員円子紳一氏、広橋基嗣氏、浦幌アイヌ協会差間正樹氏、アイヌ文様刺繍講師山本みい子氏、春日基江氏来館。  
 10月8日(水) アイヌ実践上級刺繍講座。博物館講座「夜空編」皆既月食を観測しよう開催。大同出版紙業(株)藤井陸香氏、上浦幌公民館長鈴木信男氏来館。  
 10月9日(木) 孔版画サークル森ひろ子氏ほか2名、地域おこし協力隊畠山裕恵氏、泉のどか氏、宮崎一市氏、北村商店兼本俊雄氏来館。  
 10月10日(金) 森林室井上靖彦氏、水間幸弘氏、猪頭友子氏、円子紳一氏、浦幌ヒグマ研究会石橋悠樹氏、水梨賢也氏来館。  
 10月11日(土) 博物館ミニ移動講座「ヒグマの生態を探る」開催。収蔵資料レコードコンサート開催。  
 10月14日(火) アイヌ実践上級刺繍講座。  
 10月15日(水) アイヌ実践上級刺繍講座。荒川和子氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏、上浦幌公民館長鈴木信男氏来館。  
 10月16日(木) 十勝社会科協会所研究会門屋紀郎氏、円子紳一氏来館。  
 10月17日(金) 下坂孝之氏、酪農学園大学教授佐藤喜和氏、教授吉田剛司氏来館。  
 10月18日(土) 佐藤館長、東十勝ロングトレイル「森ルート」講師随伴。  
 10月19日(日) 十勝戦跡・史跡めぐりの会団体見学  
 10月20日(月) 円子紳一氏、浦幌町商工会岩田彰氏来館。  
 10月21日(火) 井上清和氏研究のため来館。浦幌アイヌ協会差間正樹氏来館。  
 10月22日(水) 円子紳一氏、清水弘美氏、日本旅行近江谷真吾氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏、浦幌アイヌ協会生活相談員奥田珠美氏、上浦幌公民館長鈴木信男氏来館。  
 10月23日(木) 佐藤館長、北海道公民館大会(北見市～24日)出席。孔版画サークル小山妙子氏、森ひろ子氏、清水弘美氏企画展示打ち合わせのため来館。酪農学園大学佐藤喜和氏、鈴木りさ氏、円子紳一氏来館。  
 10月24日(金) 孔版画サークル結成20周年記念展開催。定例校長会、教頭会。森林室和田幸一氏、武藤満雄氏、円子紳一氏、三笠市博物館栗原憲一氏来館。  
 10月26日(日) 佐藤館長、博物館ボランティアの集い2014(札幌市～28日)出席。  
 10月27日(月) 井上牧子氏来館。  
 10月28日(火) アイヌ実践上級刺繍講座。清水弘美氏、三浦直春氏来館。  
 10月29日(水) アイヌ実践上級刺繍講座。円子紳一氏、井上牧子氏来館。  
 10月30日(木) 定例教育委員会。Chai編集部平田幸嗣氏、OCTV斉藤道子氏来館。  
 10月31日(金) 円子紳一氏来館。  
 11月1日(土) 収蔵資料ロビーレコードコンサート開催。  
 11月4日(火) アイヌ実践上級刺繍講座。  
 11月5日(水) アイヌ実践上級刺繍講座。教育文化センター避難訓練。郷栄氏寄贈のため来館。円子

VIII. 博物館日誌 (抄)

- 紳一氏、上浦幌公民館長鈴木信男氏来館。
- 11月6日(木) 円子紳一氏、酪農学園大学石橋悠樹氏、鈴木輝氏、栗木隼大氏来館。
- 11月7日(金) 博物館収蔵資料展「開拓当時の測量図画展」開催。  
猟友会野口昌靖氏、円子紳一氏、久我サトエ氏来館
- 11月8日(土) 博物館ミニ移動講座「渡り鳥編」白鳥やハクガンたちは元気かな？開催。
- 11月10日(月) 浦幌アイヌ協会生活相談員奥田珠美氏、円子紳一氏来館。
- 11月11日(火) 鈴木りさ氏講座打合せのため、酒井清氏来館。
- 11月12日(水) 佐藤館長、東十勝ロングトレイル担当者会議(豊頃町)出席。大同出版紙業(株)藤井陸香氏、浦幌ヒグマ研究会石橋悠樹氏来館。
- 11月13日(木) 円子紳一氏来館。
- 11月14日(金) 十勝毎日新聞池田支局長井上朋一氏、通信員円子紳一氏取材のため来館。ノースプロダクション柳楽悦子氏、近藤達氏打合せのため来館。
- 11月15日(土) 標津博物館小野哲也氏資料借用のため来館。
- 11月17日(月) 円子紳一氏、森林室和田幸二氏打ち合せのため、宮崎一市氏調査のため来館。
- 11月18日(火) 博物館ミニ移動講座「しし座流星群観望会」開催。  
アイヌ実践上級刺繍講座。
- 11月19日(水) アイヌ実践上級刺繍講座。
- 11月20日(木) 円子紳一氏、井下まさの氏、帯広百年記念館持田誠氏来館。
- 11月21日(金) 米澤淑恵氏、円子紳一氏、帯広畜産大学河本あゆみ氏論文調査のため来館。
- 11月23日(日) うらほろスタイルゼミナール「メディカル・アロマ」教室開催。
- 11月25日(火) 定例教育委員会。佐藤館長、着地型観光推進委員会出席。アイヌ実践上級刺繍講座。
- 11月26日(水) 定例校長会。アイヌ実践上級刺繍講座。円子紳一氏来館。
- 11月27日(木) 定例教頭会。猟友会野口昌靖氏、円子紳一氏、久我サトエ氏来館
- 11月28日(金) 北海道新聞池田支局鈴木圭一氏来館。
- 12月1日(月) 浦幌アイヌ協会生活相談員奥田珠美氏、円子紳一氏来館。
- 12月2日(火) 酪農学園大学佐藤喜和氏、円子紳一氏来館。
- 12月3日(水) 猟友会野口昌靖氏、円子紳一氏来館。
- 12月4日(木) 地域おこし協力隊泉のどか氏、ノースプロダクション染谷正之氏来館。  
高室倫子氏講座打合せのため来館。
- 12月5日(金) 円子紳一氏来館。
- 12月6日(土) 北海道開拓記念館リニューアル予告展示会開催。一般向け講座「北の土偶」開催。
- 12月7日(日) 子ども体験講座「土偶を作ろう」開催。講師、北海道開拓記念館右代啓視氏、鈴木琢也氏来館。
- 12月8日(月) うらほろ和ごころ体験塾背古宗敬氏、打合せのため来館。
- 12月10日(水) 浦幌アイヌ協会生活相談員奥田珠美氏ほか3名アイヌ文化継承のため来館。猟友会鈴木由市氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏、(株)トーア木村洋一氏来館。
- 12月11日(木) うらほろスタイルゼミナール「夢見てこの地に来てみれば…」開催。酒井清氏来館。
- 12月12日(金) 森林室井上靖彦氏、森林室池田猪頭友子氏、廣富一豊氏、柳楽悦子氏来館。
- 12月13日(土) 収蔵資料ロビーレコードコンサート開催。うらほろスタイルゼミナール社会教育「ボランティア」養成連続講座「博物館って楽しいよ」開催。
- 12月15日(月) 初心者アイヌ伝承料理教室開催。  
(株)杉浦石垣諭臣氏、井上牧子氏、富士通工藤高裕氏、吉野公民館長佐藤美香氏来館。
- 12月16日(火) 大山みどり氏資料寄贈のため来館。浦幌アイヌ協会生活相談員奥田珠美氏来館。
- 12月17日(水) 久我サトエ氏来館。
- 12月18日(木) 博物館・図書館ロビーコンサート 歌声サロン&ニコルのバイオリン演奏会・ナイトミュージアム開催。
- 12月19日(金) 定例教育委員会。
- 12月22日(月) 帯広百年記念館運営連絡協議会移動展「十勝に映画館がたくさんあった頃」開催。  
定例校長会、教頭会。
- 12月24日(水) 円子紳一氏、浦幌アイヌ協会生活相談員奥田珠美氏来館。
- 12月25日(木) 円子紳一氏、丹青社森富広氏来館。
- 12月26日(金) ザ本屋さん高橋智信氏来館。
- 12月29日(月) 円子紳一氏来館。
- 12月30日(火) 町仕事納め式。教育委員会仕事納め式。浦幌アイヌ協会生活相談員奥田珠美氏来館。

## 平成27年

- 1月6日(火) 町仕事始め式。教育委員会仕事始め式。佐藤館長、博物館資料受け取りのため釧路市へ出張。  
円子紳一氏来館。
- 1月7日(水) 高室智全氏、大同出版藤井陸香氏、円子紳一氏来館。
- 1月8日(木) 円子紳一氏、浦幌アイヌ協会差間正樹氏、差間昭子氏来館
- 1月9日(金) うらほろスタイルゼミナール社会教育「ボランティア」養成連続講座「十勝に映画館がたくさんあった頃」開催。円子紳一氏、浦幌商工会岩田彰氏、うらほろスタイルゼミナール講師大和田務氏来館。
- 1月10日(土) 収蔵資料ロビーレコードコンサート開催。
- 1月13日(火) 博物館講座「化石レプリカづくり」教室開催。講師足寄動物化石博物館澤村寛氏、森氏、かちまい通信員円子紳一氏取材のため、三浦直春氏来館。
- 1月14日(水) 佐藤館長、東十勝ロングトレイル担当者会議出席。大同出版紙業(株)藤井陸香氏、浦幌アイヌ協会生活相談員奥田珠美氏、上浦幌公民館長鈴木信男氏来館。
- 1月15日(木) 浦幌町女性団体連絡協議会出口和枝氏来館。
- 1月16日(金) 博物館講座「エゾリスBOX」開催。講師帯広百年記念館伊藤彩子氏、小林真樹氏来館。酒井清氏、円子紳一氏来館。
- 1月17日(土) 佐藤館長、北海道野生動物交流会出席。帯広畜産大学山口翠氏、溝口芽子氏、伊尾朋美氏、森田友理氏、尾崎彩氏、大熊勲氏、中務陽裕氏、東京農業大学村上陽紀氏来館。
- 1月19日(月) 井上清和氏来館。
- 1月20日(火) 博物館講座「初心者アイヌ文様刺繍講座」開催。
- 1月21日(水) 博物館講座「初心者アイヌ文様刺繍講座」開催。大同出版紙業(株)藤井陸香氏、円子紳一氏来館。
- 1月22日(木) 博物館講座「初心者アイヌ文様刺繍講座」開催。かちまい通信員広橋基嗣氏取材のため来館。
- 1月26日(月) 飛田辰章氏、円子紳一氏、室崎木工室崎義信氏、室崎規矩子氏、北海道新聞池田支局鈴木圭一氏来館。
- 1月27日(火) 定例教育委員会。猟友会池田壽彦氏、山岸憲之氏、野口昌靖氏打ち合わせのため来館。円子紳一氏、アイヌ文化伝承のため荒川和子氏、長谷川美津子氏来館。
- 1月28日(水) 佐藤館長、図書館防犯教室出席。木下茂氏、円子紳一氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏来館。
- 1月29日(木) 池田町役場教育委員会君島利彦氏、帯広畜産大学河本あゆみ氏来館。
- 1月30日(金) 浦幌町商工会岩田彰氏、郷栄氏、円子紳一氏来館。
- 1月31日(土)
- 2月1日(日) 博物館移動自然（厳寒）体験教室「厳寒！豊北の雪氷原を走破しませんか」開催。
- 2月2日(月) 円子紳一氏、井上牧子氏、飛田辰章氏、浦幌アイヌ協会生活相談員奥田珠美氏、北海道新聞池田支局鈴木圭一氏来館。
- 2月3日(火) 円子紳一氏、堀川真一氏、北海道新聞池田支局鈴木圭一氏来館。厚内小学校教諭松村健史氏社会科学習打合せのため来館。
- 2月4日(水) 2015全国孔版画賀状展開催。  
大同出版紙業(株)藤井陸香氏、堀川真一氏、浦幌中学校校長平岡弘孝氏来館。
- 2月5日(木) 室崎木工室崎義信氏、室崎規矩子氏、うらほろ自動車工業川原昭良氏、酒井清氏、浦幌小学校教諭星屋幸章氏社会科学習打合せのため来館。
- 2月6日(金) 浦幌小学校教諭三浦智氏来館。
- 2月7日(土) 収蔵資料ロビーレコードコンサート開催。
- 2月9日(月) 浦幌小学校教諭星屋幸章氏、円子紳一氏来館。
- 2月10日(火) 佐藤館長、浦幌小学校3年社会科学習のため、ボランティア森ひろ子氏、川村つや子氏とともに指導。円子紳一氏来館。
- 2月12日(木) 佐藤館長、東十勝ロングトレイル担当者会議（豊頃町）出席。  
円子紳一氏、丹青社常設展示資料設置のため来館。
- 2月13日(金) 酒井清氏、宮本一市氏、左藤優氏来館。
- 2月16日(月) 増子礼子氏来館。
- 2月17日(火) 博物館小企画展「桃の節句 ひな人形展」開催。～3月3日  
円子紳一氏、宮崎一市氏、杉江博氏町史調査のため来館。
- 2月18日(水) 大同出版紙業(株)藤井陸香氏、浦幌アイヌ協会生活相談員奥田珠美氏、円子紳一氏来館。

VIII. 博物館日誌（抄）

- 2月19日(木) 部田岩雄氏収蔵資料調査のため、坂下禮子氏講座打合せのため来館。  
2月20日(金) 飛田辰章氏、円子紳一氏、森林室大谷氏、帯広百年記念館持田誠氏講座打合せのため来館。
- 2月22日(日) うらほろスタイルゼミナール「植物標本を作ろう」開催。  
2月23日(月) 博物館ボランティア養成月曜講座①「浦幌の自然」開催。  
帯広百年記念館持田誠氏、円子紳一氏、猟友会野口昌靖氏、浦幌アイヌ協会生活相談員奥田珠美氏、浦幌小学校教諭高田三十三氏、村中哲太郎氏、佐藤才彦氏来館。
- 2月24日(火) 定例校長会、教頭会。円子紳一氏来館。  
2月25日(水) 定例教育委員会。帯広百年記念館持田誠氏、円子紳一氏、櫻庭弘司氏来館。  
2月26日(木) 円子紳一氏、松本英俊氏講座打合せのため来館。  
2月27日(金) 円子紳一氏、鈴木りさ氏、(株)プリズム野嶽次郎氏、北海道新聞池田支局鈴木圭一氏取材のため来館。
- 3月1日(日) ひな人形撮影会  
3月2日(月) 博物館ボランティア養成月曜講座②「恐竜から哺乳類へ」開催。室崎木工室崎義信氏、室崎規矩子氏、森林室和田幸二氏、浦幌町女性団体連合会出口和枝氏来館。
- 3月3日(火) 円子紳一氏、北海道大学中村有吾氏博物館資料提供のため来館。  
3月4日(水) 大同出版紙業(株)藤井陸香氏、円子紳一氏来館。  
3月5日(木) 円子紳一氏、帯広百年記念館持田誠氏、松田泰全氏、酒井清氏来館。  
3月6日(金) 円子紳一氏、猟友会野口昌靖氏、十勝毎日新聞池田支局井上朋一氏来館。  
3月7日(土) うらほろスタイルゼミナール「十勝浦幌の化石と古環境」開催。北海道教育大学名誉教授木村方一氏講師のため来館
- 3月9日(月) 博物館ボランティア養成月曜講座③「石器・土器の文化」開催。  
うらほろスタイルゼミナール「夢見てこの地に来てみれば…」開催。  
円子紳一氏来館。
- 3月10日(火) 円子紳一氏来館。  
3月11日(水) 円子紳一氏、河内一男氏来館。  
3月12日(木) 円子紳一氏来館。  
3月14日(土) 収蔵資料レコードコンサート開催。  
3月16日(月) 博物館ボランティア養成月曜講座④「開拓時代」開催。うらほろスタイルゼミナール「巨大津波の来襲痕跡地層を知る」開催。講師北海道大学理学博士西村裕一氏来館。猟友会野口昌靖氏、山田幸雄氏来館。
- 3月17日(火) 岸田陸氏、酪農学園大学佐藤喜和氏、水梨賢氏、日本大学山中岳史郎氏来館。  
3月19日(木) 定例校長会、教頭会。円子紳一氏来館。  
3月20日(金) 円子紳一氏来館。  
3月21日(土) 佐藤館長、東十勝ロングトレイル「天然記念物野鳥観察」講師随行。  
うらほろスタイルゼミナール博物館世代間交流事業“家族で学ぶ防災”食べて共に生き抜こう開催。
- 3月23日(月) 博物館ボランティア養成月曜講座⑤「浦幌市街の今昔物語」開催。  
円子紳一氏、浦幌アイヌ協会生活相談員奥田珠美氏、猟友会野口昌靖氏来館。
- 3月24日(火) 円子紳一氏、持田誠氏夫妻来館。  
3月25日(水) 定例教育委員会。浦幌アイヌ協会生活相談員奥田珠美氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏来館。  
3月26日(木) 浦幌町立図書館・博物館協議会。円子紳一氏、井上牧子氏、浦幌アイヌ協会生活相談員奥田珠美氏来館。
- 3月29日(日) 博物館ミニ移動講座「渡り鳥観察会」開催。  
3月30日(月) 浦幌アイヌ協会生活相談員奥田珠美氏来館。  
3月31日(火) アイヌ文様刺繍展開催。村瀬政昭氏、浦幌アイヌ協会生活相談員奥田珠美氏、長谷川美津子氏、北海道新聞池田支局鈴木圭一氏来館。

## IX. 博物館の利用状況

### (1) 博物館入館者の推移

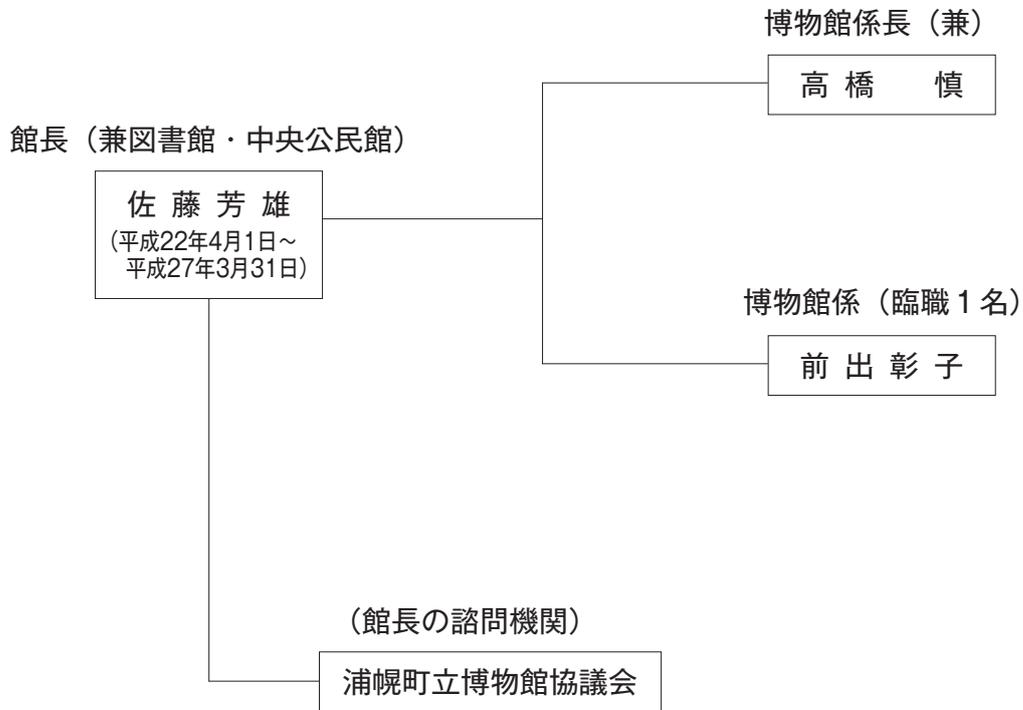
(平成27年 3月31日現在)

月	平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数
4	25	573	25	582	26	664	26	611	25	779	25	682
5	25	647	25	545	26	997	27	969	27	853	27	856
6	25	739	26	654	26	753	26	812	26	847	25	582
7	27	616	27	862	27	1,185	26	1,322	27	1,162	27	892
8	26	1,058	26	1,111	26	1,077	27	984	28	1,516	27	1,187
9	24	707	25	848	25	866	26	769	25	1,027	24	585
10	27	967	27	729	26	784	26	1,028	27	1,040	27	741
11	24	599	23	859	26	830	26	780	26	982	26	783
12	25	613	25	482	26	793	26	376	25	558	24	990
1	23	558	22	501	22	680	22	451	20	443	23	631
2	23	423	24	472	25	527	24	596	23	571	23	1,012
3	25	490	27	826	26	856	27	950	26	625	26	1,104
小計	299	7,990	302	8,471	307	10,012	309	9,648	305	10,403	304	10,045
累計	3,076	95,893	3,378	104,364	3,685	114,376	3,994	124,024	4,299	134,427	4,603	144,472

### (2) 団体入館者（事前に連絡のあったもの）

4月 22日 浦幌幼稚園	23名	7月 25日 豊頃町文化財保護審議会委員	10名
4月 22日 しらかば保育園 にじぐみ	19名	7月 26日 若葉小地区コミュニティ講座	27名
4月 25日 北海道教育大学釧路校町内巡検	26名	8月 7日 帯広若葉会老人クラブ	30名
4月 27日 北海道教育大学釧路校学生事前研修	8名	8月 26日 芽室歴史探訪会	34名
6月 5日 帯広しあわせ会	22名	8月 28日 上浦幌中学校1・2年総合学習	19名
6月 16日 奥野家	5名	9月 4日 豊頃小学校6年理科学習	20名
6月 19日 しらかば保育園	15名	「流れる水のはたらき」	
6月 27日 おびひろ鶴亀長寿会	14名	9月 29日 上浦幌中央小学校3・4年理科学習	10名
6月 28日 東十勝ロングトレイル「海ルート」	50名	10月 19日 社会科研究会「十勝戦跡巡り」	15名
7月 5日 上浦幌PTA連合会	30名	2月 10日 浦幌小学校3年社会科学習	29名
「町内研修視察PART3」		「むかしの道具」	
7月 12日 岩手県洋野町	10名	2月 24日 厚内小学校3年社会科学習	2名
7月 15日 豊頃町生涯学習視察研修	17名	3月 21日 東十勝ロングトレイル「川ルート」	30名
7月 16日 浦幌中学校3年	42名	天然記念物野鳥観察	
「魅力発見バスツアー」		3月 21日 うらほろ和ごころ体験塾	70名
7月 19日 帯広明和小地区生涯学習研究会	40名		

## X. 博物館の組織



平成26年4月1日現在

職名	氏名	住所	備考
会長	橋本友子	栄町2区	
副会長	円子紳一	北栄町2区	
委員	平岡弘孝	住吉町1区	
〃	水野豊昭	緑町	
〃	坂下禮子	光南	
〃	春日基江	北町2区	
〃	西森七枝	新町	
〃	大塚弥生	美園	

(任期 平成27年12月18日まで)

# XI. 博物館活動のマスコミ報道

## 春の種まき こつを学ぶ

ガーデニング講座

【浦幌】町中央公民館講座「春から始めるガーデニング」が同公民館で開かれた。参加した15人が、春の種まき準備などのノウハウを学んだ。

初めて企画され、3月22日に開かれた。講師は浦幌出身で釧路シーズンフォーを主宰するフラワーコーディネーターの野原隆子さん（釧路市在住）が務めた。野原さんは「種まきのこつは、適温を保つことと乾燥させないこと」「芽が出

種まきのこつなどを紹介する野原さん（左）



たら乾き気味にして、十分に当てること」と話し、種をまく容器は牛乳パックやペットボトルなどを利用している。（田子紳一通信員）

したエコ育苗を紹介。花壇のデザインには「庭の花のリストと簡単な配置図をつくること」を勧めた。

次回は19日午後1時から同公民館で植え付けのデザイン、宿根草、育てみたいハーブをテーマに開かれる。なお、町立

「十勝毎日新聞」 2014年4月5日

## 光と色不思議な変化 浦幌でこども実験教室

北村さん（右）が手作りした装置で光の変化を観察する子供たち



【浦幌】町中央公民館講座「こどもおもしろ実験教室」が同公民館で開かれた。38人の子供が参加し、光と色の不思議な変化を観察

し、興味を深めた。初めての開催。3月26日に行われ、「さつぽろ物理塾」を開いている元浦幌高校教諭で元本別高校校長の北村剛さん（札幌市在住）

を講師に招いた。北村さんは、虹を例にして光が赤、緑、青の3原色で構成されていると説明。このあと、子供たちは光のスペクトル（可視光がさまざまな色の光に分かれる現象）を観察できる「グレイディングレプリカ」でろうそく、赤外線電球など6種類の光源を観察した。光の変化に驚いたと言う村上天介くん（浦幌小4年）は「光（光源）によってクリーム色に見えて不思議」と実験に興味津々だった。子供たちは「まだ見つかっていない色があるか」「空はどうして青いの」などと質問、北村さんは丁寧に分かりやすく答えた。北村さんは「身の回りのもので、たくさんの実験や観察ができる」と話し、浦幌は空気が澄んでいるから星がきれいに見えるので、東山の裏などで観察することも勧めた。

（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2014年4月8日

### 渡り鳥の北帰行 17人が様子観察

ミニ移動講座

【浦幌】町立博物館のミニ移動講座「渡り鳥観察会」が、浦幌十勝川と十勝川下流域の湖沼群付近で開かれた。地元や帯広、本別、足寄などから17人が参加し、6日に実施。ガンやカモ類などの渡り鳥が北帰行の途中に多数立ち寄っている様子を観察した。  
ハクガンは3月16日に先



ハクガンなどを観察する参加者

「多くの鳥を見られた」と喜んでいました。  
(田子紳一通信員)

発隊と思われる3羽が確認され、同20日には104羽となった。昨秋にも同数が観察されていて、全羽数が無事に北へ帰れそう。  
シジュウカラガンは62

を狙っているハシブトガラスの姿もあった。  
この他、タンチョウ、オシロウシ、マガン、ヒシクイの4種類の天然記念物や、ミコアイサ、オナガガモ、ヒドリガモなどの種類野鳥を観察した。

新築リフォーム跡に65年  
(有)河瀬建設工業所  
帯広市西10条南28丁目4番3号  
TEL 483-3402

0羽余りが確認され、ハクガン同様に日本に飛来しているのは全羽数に相当する。この日は、300羽ほどの群れが観察できた。  
「浦幌町の鳥」に指定されているアオサギは、コロニーで抱卵中。樹上には卵

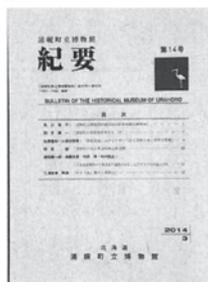
「十勝毎日新聞」 2014年4月15日

## ヒグマの背擦り研究

浦幌 町立博物館が紀要14号

【浦幌】町立博物館(佐藤英雄館長)は、2013年度の調査研究の紀要第14号を発行した。浦幌地域でのヒグマの背擦り行動について、長年の成果をまとめている。  
浦幌ヒグマ調査会の小泉

沙奈恵さん(長野県諏訪市)と、酪農学園大の佐藤喜和教授は「浦幌地域におけるヒグマによる背擦り木の利点と特徴」と題して報告。  
十勝総合振興局森林室の道有林(浦幌、釧路市首別町、釧路管内白糠町)で199



図書館などに配布した。問い合わせは同館 ☎015・576・2009へ。  
(佐竹政治)  
発行された浦幌町立博物館の紀要第14号

8〜2011年、クマが木の幹を爪で引っかいたり、身体をこすりつける「背擦り」を行った257本を調査した。  
樹種はトドマツが81%を占めた。木に残った体毛のDNA解析、自動撮影カメラ映像などから、複数のオスの行動範囲が重なることも判明。互いのおいなどで「背擦り木を介して、オス同士がコミュニケーション」をとっている可能性がある「と指摘した。  
帯広百年記念館の持田誠学芸調査員は「浦幌町に残る鉄道用煉瓦構造物」として、1903年(明治36年)に十勝で最初に鉄道が開通した浦幌駅の危険品庫、乙部トンネルなどの概要を記録。「鉄道遺産も、文化財としての視点で保存と活用を期待したい」と記した。  
500部発行。研究機関、図書館などに配布した。問い合わせは同館 ☎015・576・2009へ。  
(佐竹政治)  
発行された浦幌町立博物館の紀要第14号

「北海道新聞」 2014年4月19日

## ウラホロイチゲを観察 博物館でミニ講座



【浦幌】町立博物館（佐藤 藤芳雄館長）主催のミニ講座「ウラホロイチゲを観察しよう！」が4月26日、

ウラホロイチゲとアズマイチゲの違いを説明する坂下さん（右端）

町内で開かれた。16人が参加し、氷河期の生き残りとも言われ浦幌など道東で見られない貴重な植物を観察した。

「ウラホロイチゲ」はキンポウゲ科のアネモネの仲間、白くて小さな花びら（がく片）を5〜8枚ほど付ける。今年は例年より1カ月ほど早い3月下旬に開花が始まり、今が最盛期。周りには紫のエゾエンゴサクと黄色のキバナノアマナも群落を形成し、春の花々の競演が美しい。

案内した坂下禮子さんは「ウラホロイチゲは花びらが丸く、アズマイチゲは細長く数も多い」「エゾトリカブトは根が三角形」と見分け方を説明。参加者は興味深げに聞き入って「一生懸命に咲いている」と愛らしい花をカメラに収めた。初めてウラホロイチゲを見たという嶋田文作さん（66）は「たくさんの花が見られた」と喜んでいった。

（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2014年5月2日

## こいのぼりや 武者人形ずらり

端午の節句展

【浦幌】「こどもの日」5



展示中の五段飾りを見詰める来場者

日」に合わせた「端午の節句展」が、町立博物館（佐藤 藤芳雄館長）の展示場で開かれている。同館主催。町民からの寄贈品や同館収蔵の武者人形の五段飾り、こいのぼり、昭和の遊び道具を展示している。

町民寄贈のよろいとかぶとは、室町時代から桃山時代のものと推定される。よろいは騎馬戦や地上戦で、馬上から矢を放つたり、刀を振り回したりするために軽く動きやすく工夫されている。かぶとは縦に筋の入った「筋かぶと」。町内の園児らが訪れ、興味深そうに見入っている。

息子の遙（はる）ちゃん（4）と見学していた町内在住の横山理恵さんは「家にも小さな武者人形がある。大きくなって見応えがある」と感心していた。

5日午後1時〜同3時には、よろいや武者人形をバックに記念撮影会を行い、写真1枚をその場でプレゼントする。

（広橋基嗣通信員）

「十勝毎日新聞」 2014年5月3日

# オオルリ見つけた 浦幌で「青い鳥さがそう」講座



【浦幌】町立博物館のミニ移動講座「青い鳥さがそう」が10日、うらほろ森林公園で行われた。町内の野鳥愛好家、春日基江さんの案内で「ブルーリー、ジジツ」などの美しいさえずりを手掛かりに、満開の桜を背にその姿を探した。

オオルリが夏鳥として飛来する5月上旬に毎年開催しており、町内外から10人が参加。午前7時に同公園

さからウグイス、コマドリと共に「日本三鳴鳥」のひとつに、羽色からコルリ、ルリビタキと共に「青い鳥」御三家のひとつに数えられている。

この日の暖かさに誘われるように、カワラヒワ、カルガモ、ハシブトガラ、ヒガラなど10種類の野鳥を目標で確認。

初めて参加した大山恵麻さん(町内在住)は「オオルリのさえずりがすてきだった」と感動。案内役の春日さんは「みんなが見られて良かった」と笑顔をみせていた。

〔十勝毎日新聞〕 2014年5月16日

浦幌駅で佐藤館長(右)から「危険庫」の説明を聞く参加者



## 建造物や旧跡 魅力を再発見

知っとこ浦幌

【浦幌】浦幌の歴史、産業、自然を学び、町の魅力を再発見するうらほろスタイルゼミナール「知っとこ浦幌」(町立博物館・中央公民館主催)が町内で開かれた。歴史的建造物や旧跡などを車で回った。

10日に行われ、町民10人が参加。同博物館の佐藤芳雄館長の案内で浦幌駅にある1907年築造の危険庫(油などを保管)を見学した後、町北端の川上地区へ移動。川上駅通所跡から南下して上浦幌駅通所跡(活平)、中浦幌駅通所跡(留真)などを見学した。

浦幌発祥の地(生剛)、岐阜農場跡地(養老)、豊北原生花園、戦争遺産のトーチカ(豊北浜)も訪れ、十勝太遺跡展望台、昆布刈石展望台から雄大な十勝平野と太平洋を一望。町厚内では、1903年建設の洋館「斉藤兵一郎邸」を同駅跨(こ)線橋から眺めた。

車中では、郷土史家の高橋悦子さん(町内在住)が上厚内の「へび塚」や過去に聞き取りした開拓当時の苦勞話などを紹介した。

坂下哲哉さん(69)は「駅通所が多く、川上の奥にまであるとは知らなかった」と浦幌の魅力を再発見していた。(田子紳一通信員)

〔十勝毎日新聞〕 2014年5月22日

# 昭和の生活を展示

浦幌町博物館 洗濯板や遊び道具150点



【浦幌】町立博物館（佐藤芳雄館長）の収蔵資料展「懐かしき昭和の生活展」が、同館特別展示ホールで開かれている。昭和20年代から60年代の収蔵資料を中心に、家庭で使われていたお膳（円いテーブル）や蛇の目傘、洗濯板などの生活用品、おはじ

昭和の生活に思いをはせる来場者

き、ビー玉、竹スキーといった遊び道具、カメラ、足踏み式ミシン、映画のボスターなど約150点を展示。同コーナーでは昭和の時代へタイム・スリップした感覚に包まれる。

当時の街並みや厚内海岸に打ち寄せた流水（1966年3月）、浦幌炭鉱の文化拠点だった協和会館など珍しい写真も展示している。

佐藤館長は「自分にとって大切なあの日を思い出し、脳を活性化させてほしい」と来場を呼び掛けている。6月10日まで（日曜日）は休館。午前10時～午後5時。入場無料。

（巴子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2014年5月31日

# 札幌でクマ出没 人ごとでない

## 浦幌の団体 生態調査へ

# 自動撮影カメラ12台設置

浦幌町でクマの生態調査などを行っている市民団体「浦幌ヒクマ調査会」（会長・佐藤芳雄町立博物館館長）が、クマの目撃件数が増加している札幌でも生態調査や、市民向けにクマの生態を解説する活動に乗り出した。クマの生態を理解した上で、住宅街に出没するクマ対策を考えてほしいという。（川上遼平）

## 市民向け講座も

同会は町内でクマによる農作物の被害の深刻化などを受け、1998年に結成された。町民に加え、札幌圏の研究者やクマに関心がある会社員ら約100人で構成。生態調査や、小中学校生向けにクマの生態を解説する講座を開いてきた。

同会の佐藤喜和事務局長



「浦幌ヒクマ調査会」の会員らが盤溪の市民の森に設置した自動撮影カメラ

が昨年、酪農学園大（江別）の准教授に就任するなど、札幌圏のメンバーが増えたことから、長年培ったノウハウを生かして札幌でも活動することにした。

8月中旬には、クマの通り道と指摘される南区の豊平川河畔の草刈りを地元住民と一緒に、クマが住宅街付近に出没する問題の背景などを解説する。佐藤事務局長は「クマの目撃を想像して市民と一緒に出没を防ぐ手だてを考えていきたい」と話している。

「北海道新聞」 2014年6月20日

自然や史跡巡り  
教師が地域学ぶ

ふるさと  
移動研修会

【浦幌】町教職員ふるさと  
移動研修会が、町内の下浦



高橋さん（中央）の説明を聞きながら  
トーチカの入り口をのぞき込む参加者

幌地区を一巡して開かれ、町の自然・史跡などの魅力に触れた。うらほろスタイル教育を進める一環で、教師に地域をより知ってもらおうと町教委が企画した。14日に行われた。町内の

5小・中学校から、この1〜2年に着任した教職員10人が参加。郷土史家の高橋悦子さん（町内在住）から昆布刈石の竜神岩や国指定史跡のオタフンベチャシ跡にまつわる逸話などを聞いた。

北原生花園、十勝太遺跡群などを巡り、町の大きさを実感した。昆布刈石展望台では雄大な太平洋を眼下に望み、ロケーションの素晴らしさに感嘆の声があがった。

1953（昭和28）年に改築され十勝最古の木造駅舎として当時の姿を残す上厚内駅では「こんなレトロな駅があつたなんて」と驚き、数軒の空き家が現存する街並みを見て「昭和の歴史として学習に生かせる」との感想も出た。  
町博物館ではアオサギのコロニーのジオラマ、遺跡発掘調査の再現コーナー、十勝初発見のアンモナイトなどに興味深げだった。  
同行した山本輝男教育次長は「浦幌は自然・史跡やイベントが盛りだくさん。いろいろと体験してほしい」と話し、学校現場での活用に期待していた。  
（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2014年6月28日

初夏の原生花園  
彩る植物を観察

町立博物館

【浦幌】町立博物館（佐藤芳雄館長）のミニ移動講座「初夏の草花観察会」が豊北原生花園で開かれた。6月20日に行われ、町内外の8人が参加した。同原生花園は高山植物が



坂下さん（右手前）の説明を聞く参加者

分布していることでも知られ、この日はハクサンチドリやコケモモ、ガンコウランなどを身近に観察。稲田文江さん（町内在住）は「ハマナスの丈が低く、赤色も鮮やかでかわいい」と感激していた。案内した坂下禮子さんはアヤマとヒオウギアヤマの違いなどを説明した。

ネジバナの採掘跡があり、参加者からは憤りの声も上がった。同原生花園にはオオアワダチソウやヒトフサニワゼキショウなどの外来種の侵入も見られ、在来種への悪影響が心配される。  
佐藤館長は「これからも美しい自然が守られるように」と保護意識の高まりに期待していた。  
（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2014年7月16日

東十勝ロングトレイル協議会

# 太平洋望み自然散策

## 豊北原生花園ツアー

【浦幌・豊頃】東十勝ロングトレイル協議会（大谷友則会長）の「海のルート・豊北原生花園ツアー2014」が浦幌、豊頃の両町で行われた。帯広などから37人が参加し、太平洋を望む雄大な自然を楽しんだ。

6月28日に行われた。参加者は、昆布刈石から8・7時と13・24時の2コースに分かれて豊北原生花園を目指した。途中、昆布刈石展望台、黄金の滝を通って、パラグライダー発着場に到着。高低差100mの切り立った岩壁上から太平洋を見おろし一息ついた。

原生花園にはハマナス、センダイハギなど色とりどりの花が咲き、沿道ではウグイスやカッコウのさえずりが響いた。植物研究家の佐藤敏郎さん（帯広市）、浦幌町立博物館長の佐藤芳雄さんがガイドを務め、原生花園に咲く花やルート沿いの名勝などを説明した。

一番先に到着地点のトーチカ（豊北）に着いた豊頃町の佐藤通さん（80）は「13日はさすがに遠い。へとへとなつたが、面白かった」と笑顔で話した。

トーチカ前での昼食には、ギョウジャニンニクドリンクが参加者に提供された。帯広からの一行はその後、豊頃町の菓子店3店舗で「スイーツ巡り」も楽しんだ。（田子紳一通信員）



道端のハマナスを横目にウォーキングする参加者

「十勝毎日新聞」 2014年7月17日

トーチカ前での昼食には、ギョウジャニンニクドリンクが参加者に提供された。帯広からの一行はその後、豊頃町の菓子店3店舗で「スイーツ巡り」も楽しんだ。（田子紳一通信員）

# 海辺にぱつりエトピリカ

【豊頃】豊頃町の豊北海岸で、国のレッドデータブックで絶滅危惧1A類の希少な海鳥「エトピリカ」が、波打ち際にじつじつとしているのを浦幌野鳥倶楽部の久保清司さん（浦幌町内在住）が16日発見し、保護した。

久保さんによると、エトピリカは歩行や飛ぶことができずけがはないよさだったが、衰弱していたという。連絡を受けて現地を訪れた

豊北海岸で保護されたエトピリカ



## 絶滅危惧の海鳥 豊頃で保護

成鳥にみられる顔の白い部分がなく、2〜3歳の若鳥という。「この海岸には過去に3体のエトピリカが死んで打ち上がった。（生体は、厚内沖でも観察されるが、海岸で見ることほとんどない）」としている。

エトピリカはこの日、釧路市内の猛禽（もうぎん）類医学研究所（齊藤慶輔代表）に引き渡された。エトピリカの名称はアイヌ語で「くちばし・美しい」の意味。だいたい色の大きなくちばしの特徴。国内では根室市のユルリ島、モユルリ島が唯一の繁殖地で、30羽ほどしか生息していない。（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2014年7月18日

# 巨大津波の痕跡確認

## 研究者が「砂の層」26日に見学会 地層調査

浦 幌

【浦幌】浦幌町沿岸部の「炭層のため地層が安定的し泥炭層に溝を掘り、地層から巨大津波の痕跡を明らかにする調査が22、23の両日行われ、約5000年前から積み上がった地層の中に、巨大津波が運んだ砂の層が確認された。巨大津波は新しいもので約4000年前の発生と推測される。泥

炭層のため地層が安定的し泥炭層に溝を掘り、研究者の間では「これほどきれいな地層は世界的に数少ない」とされ海外からも調査に来てい

村裕一氏が中心になって実施した。「アジアオセアニア地球科学連合」の学会札幌・28日～8月1日）の巡検として企画、これに先だつて調査を実施した。

調査地点は豊北地区の海岸から約500mに入った町が所有する湿地。深さ1・8mの溝を南北10m、東西

17世紀にできたとみられる津波堆積層を調べる西村氏



5mのL字型に掘った。地層の底には周辺が海だった

ことを示す粘土層が横たわり、泥炭、火山灰、どろ、砂の各層が積み重なり、約2500年前に噴火した樽前山、10世紀噴火の白頭山の火山灰などが確認された。

17世紀の砂層は厚みが20cm。砂層の厚さは津波の規模と必ずしも連動しないが、掘削地点で高さ5m、海岸で15mほどの津波が押し寄せた可能性がある。東日本大震災でいえば仙台平野を襲った津波に匹敵する」としている。

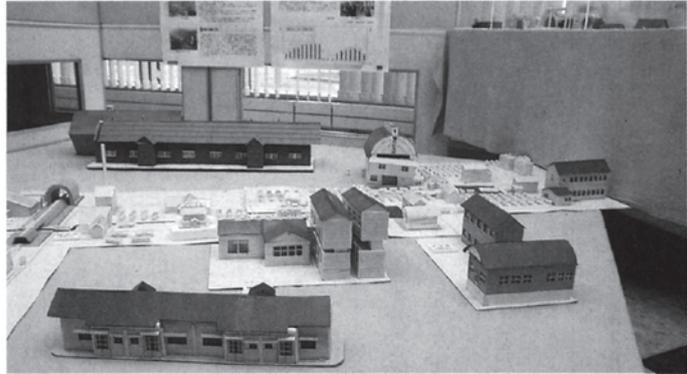
地層から津波の発生状況を調べる研究は、東日本大震災や原発の再稼働問題で関心が高まっており、22日

いる西村氏は「砂層の広がりから高潮などは考えにくく、津波に起因する堆積層とみられる」と説明する。

西村氏は、津波堆積層の「証拠」として砂層の砂の粒の大きさを挙げた。同時に堆積した砂層の上部は細かい粒、下部は粗い粒が多く、「津波で運ばれた砂が粗い粒から沈殿した」とした。

# 浦幌炭礦のにぎわい伝え

## 閉山60年 模型やパネル展示



炭鉱住宅を再現した展示会

【浦幌】町内福山地区にあった「浦幌炭礦」の閉山60年を記念した展示会が、町立博物館特別展示ホールで開かれている。

浦幌炭礦は1933年（昭和8年）に出炭を開始。最盛期の40年には年間18万6千トンの石炭を出荷したが、エネルギー転換の国策のため54年に閉山した。紙で作った模型と写真、パネル50点を展示。模型は炭礦の元従業員杉本明さん（79）＝札幌在住＝が当時の記憶を基に製作した。炭鉱住宅や映画館、坑口などを約500分の1のサイズで再現した。笑顔で人々が街を歩き交うモノクロ写真も往時を伝えている。入場無料で、午前10時～午後5時。8月17日まで（無休）。（鈴木圭一）

〔北海道新聞〕 2014年7月24日

# 炭鉱ジオラマで再現

## 浦幌町立博物館 閉山60年の回顧



精密に復元されたジオラマに見入る来館者

【浦幌】町立博物館（佐藤芳雄館長）の収蔵資料展「浦幌炭鉱閉山60年回顧展」が、同館展示ホールで開かれている。当時の街並みを再現したジオラマや写真で往時を振り返っている。8月17日まで。

浦幌炭鉱は1918（大正7）年に大和鉱業によって開発され、戦時中、休止。戦後の48年に採炭を再開したが、54年に閉山した。最盛期には3600人が暮らし、52年4月には定時制の池田高校炭鉱分校（のちに浦幌高校炭鉱分校）も開校され、一大集落を形成した。同展のジオラマは、かつ

て同炭鉱で青春時代を過ごした杉本明さん（78）＝札幌市在住＝が、発泡トレイなどを利用して製作し、同博物館に寄贈した。学校や炭鉱関連施設などの建物を、記憶を頼りに細部にわたり再現している。

写真は、町内在住の三浦直春さん（79）らや同博物館が所蔵するものなど34点を展示。特に、出坑する炭鉱マンの列や街並みなど人々の生活を映し出している。また、ガリ版刷りの「尺別礦業所 浦幌坑山史」（54年発行）や、浦幌地区毛無（ケナシ）坑採炭についての会社提案と略図が記載されている尺別労働組合教宣部の「入坑前5分間」（56年発行）など貴重な資料も展示されている。展示会場を訪れた江ノ上秀行さん（48）＝活平＝は、「山奥に3600人もの生活があったとは信じられない」と写真などに見入っていた。（田子紳一通信員）

〔十勝毎日新聞〕 2014年7月31日

## ■浦幌 勾玉作りを体験

「こども考古学教室」(町立博物館・道埋蔵文化財センター主催)が7月20日、同館学芸員室で開かれ、勾玉(まがたま)作りを体験した=写真。

児童9人と大人5人が参加。同センター第1調査部普及活用課長の鎌田望さんが、縄文時代から擦文時代までを分かりやすく説明した。

勾玉作りでは、角張った滑石(かっせき)を根気よく削り、1時間余りで自分だけの飾りを完成させた。この日が誕生日だった中村咲那(さきな)さん(浦幌小2年)は「つるつるにできた」と記念の勾玉を喜んでいた。



鎌田望さんが、縄文時代から擦文時代までを分かりやすく説明した。

## たうん TOWN

「十勝毎日新聞」 2014年8月1日

# 津波痕跡 間近に

うらほろスタイルゼミ

## 地層見学、剥ぎ取りも

【浦幌】地層の痕跡から過去の巨大津波を読み解くうらほろスタイルゼミ「過去の津波痕跡から防災を考えよう」(町立博物館など主催)が7月26日行われた。参加者は豊北の津波堆積層を見学し、きれいに残った巨大津波の痕跡に驚いていた。

北大理学研究院地震火山研究観測センターの西村裕一助教が講師を務め、同館で「地震と津波を知り、そして備える」と題して講義した。

西村助教は「一番近い津波は約400年前。(周期からすると)近々に来てもおかしくない」と話し、津波への意識を強く持つことの大切さや津波警報の意味、地層を見るポイントについて語った。浦幌で観察する地層は「世界で一番見事」と評価した。

観察地は「アジアオセアニア地球科学連合」の学会(7月28日～8月1日、札幌市)の巡検に合わせて町又タベット(豊北)の泥炭

層に掘られたもので、約5000年前以降の津波堆積層とみられる11の砂層が確認された。現地では、同センター学術研究員の中村有吾氏が、砂層、火山灰層の年代や特徴を解説。道開拓記念館学芸員の添田雄二氏が接着剤で寒冷紗(しゃ)に固着させた地層の「剥ぎ取り」を実演した。地層は、ヤチボウスも一緒に剥ぎ取られ、添田学芸員によると「世界初と思われる」。町立博物館に収められる予定だ。参加した鳴海孝次さん(69)「町内に住むは、貴重な地層が自然のまま身近にあるとは驚き」と話し、「巨大津波が起きないことを祈る」と防災の意識を新たにしていた。(田子紳一通信員)



中村研究員(左下)の説明を聞く参加者たち。右奥は西村助教

「十勝毎日新聞」 2014年8月1日

### 第1弾で化石発掘 子ども夢中で作業

【浦幌】ノースプロダク ションの観光調査事業第1



弾「うらほろ化石発掘体験」が町厚内を流れる川などで開かれた。

7月27日に行われた。帯広市などから参加した小学

4～6年生28人はバスで現地に到着し、町内の元中学校教諭和歌山満さん(66)らの案内で化石の露出地点に向かった。道教育大剣

路校の地域文化研究室(宮前耕史准教授)の学生10人が児童のサポート役として協力。狙いを付けた場所できごと金づちを使って化石を探した。タマキガイやオウナガイなどの二枚貝、巻き貝ではタマガイの仲間などの化石が多数発掘された。採取した化石は、和歌山さんの指導で分類し、スケッチしたり、大きさを計測し、特徴を確認した。きれいなハマグリの中間の化石を見つけた泉田晴希君(帯広明和小4年)は「化石発掘は初めて。うれしかった」と喜んだ。

(田子紳一通信員)

「十勝毎日新聞」 2014年8月7日

### 見て食べて 町の魅力学ぶ

浦幌中が バスツアー

【浦幌】浦幌中学校(平岡弘孝校長、生徒107人)3年生の総合学習「町内魅力発見バスツアー」が行われ、生徒42人が、浦幌発祥の地や豊北原生花園などを訪れた。

考える取り組み。ツアーは7月16日に行われ、発祥の地では町立博物館の佐藤芳雄館長から、町の誕生の由来や十勝太の幻の鉄路について説明を受け、中央公民館では同校の先輩が考案した「浦弁」で昼食。うらほろスタイル推進地域協議会の近江正隆さんから新たに取り組んでいる「ま



ちなか農園」について話を聞いた。(田子紳一通信員)

「十勝毎日新聞」 2014年8月8日

## 日章旗や新聞 戦争の資料並ぶ 博物館で企画展

【浦幌】町立博物館の企画展「真夏の残像 戦争体験を伝える」が19日まで、同博物館（教育文化センター内）展示ホールで開かれている。

15日の終戦記念日に合わせた恒例の展示で、町民から寄付された戦時中の資料



が並ぶ。町内の空襲の記録をはじめ、寄せ書きの入った日章旗や、当時の浦幌村民が献納した飛行機「浦幌号」の写真、

戦時下の様子を伝える新聞なども展示している。

同展を訪れた町内在住の野口常幸さん(65)は「戦争は体験して……」

戦時中の資料に見入る  
来場者

ないが、いつまでも平和であってほしい」と話していた。

11日午前10時半からは「語り部の会」として、戦中・戦後の激動期の体験者を招いた語り部企画と、戦時中の代用食だった「すいとん」の試食がある。参加無料。

問い合わせは同博物館  
(015・576・2009)へ。

〔十勝毎日新聞〕 2014年8月10日

# 悲惨な戦争 忘れないで

【新得・浦幌】終戦記念日を前に両町で、悲惨な戦争体験を語り継ぐ催しがそれぞれ開かれた。

## 元衛生兵 齋木さん 「考えるとき」

○…新得では6日に町公民館で「戦争体験者の話を観る集い」（話を聞く新得会主催）。

約60人が参加した。共同代表の平良則さんのあいさ



衛生兵としての体験を語った齋木さん（新得）

つ後、映画「沖縄で戦った北海道の若者たち」と「沖縄戦の少女たち」が上映され、藤本幸久監督自身が同作品について説明した。

同町在住の元陸軍衛生兵、齋木信道さんは、戦争体験を切々と語り、「命のやりとりをする戦争の悲惨さを二度と起こしてはならない。記憶が薄れる中、いま一度、戦争とは何かを考えるとき」と強調した。

同公民館ロビーでは15日まで「原爆ハネル展」が開かれている。  
（大井基寛通信員）

## 高橋さん語り部 激動期を伝える

○…浦幌は11日に町立博物館で「語り部の会」。

町内の学童保育に通う児童ら22人が、戦中・戦後の



激動期に少女時代を過ごした高橋悦子さん（83）町内在住の話を聞いた。高橋さんは「遠足で今のみんなは好きなおやつを持って行くけど、当時は学校が配るアンパンだけ」などと分かりやすい言葉で伝えた。

同館「企画展」で展示している防空頭巾をかぶったり、一升瓶を使った米挽（びき）を突いたりし、今食べている米との色の違いも学んだ。代用食の「すいとん」も試食した。

防空頭巾を体験する児童。右側が高橋さん（浦幌）

高橋さんは「何かひとつでも記憶に残れば」と話した。  
（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2014年8月14日

# クイズでヒグマ理解

## 浦幌生態を学ぶ「学校」

【浦幌】ヒグマの生態や人間との関係を考える「ヒグマの学校」(町立博物館主催、浦幌ヒグマ調査会共催)が19日、同博物館ロビーで開かれ、町内の児童ら30人がクイズなどを通して理解を深めた。

同調査会(佐藤芳雄会長)のメンバーで、浦幌で調査をする日大、酪農学園大の学生10人を講師に、クマのすみ場所や食べ物に関する

クイズを楽しんだ。

クマが畑に出てくるのを防ぐにはとの質問に、「超音波を出す」「壁を作る」などの珍解答も。畑に侵入するクマを撃退する電牧線の張り方を考えるワークシヨップや、「ばったり合うのを避ける」「刺激しない」などクマに襲われないための対策を学んだ。

会場には、クマの毛皮や骨、シカの頭骨などが展示



され、直接触れて大きさや硬さを実感した。参加した子供たちは「くま博士認定書」を受け取った。

移住体験で来町している立林公昭さん(64)は、「京都府長岡京市IIの所へ遊びに来た孫の海翔(かいと)君(6)は、「クマの話や折り紙が楽しかった」と笑顔を見せた。」

(田子紳一通信員)

電牧線の効果を確認する児童

「十勝毎日新聞」 2014年8月23日

# 世界最古の新種貝化石

## 浦幌・活平層で発見

### 赤貝・巻き貝2種 6000万年前

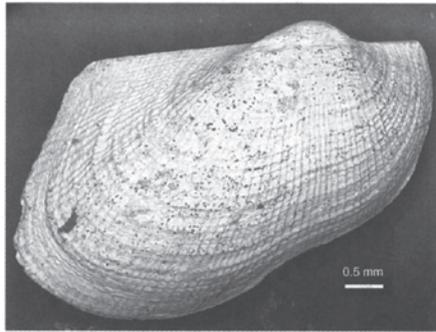
【浦幌】上越教育大（新潟県上越市）の天野和孝副学長らの研究グループが、町内の活平周辺の地層から約6000万年前（晩新世）に生息した赤貝の一種「ワタツミフネカイ」類の新種の化石を発見した。同属の化石では世界最古で、古代の貝類の変遷や生態を解明する上で貴重な発見となる。同じく活平周辺の同年代の地層から、エゾバイ科に入るとみられる国内では近縁種のない巻き貝の新種も発見した。

#### 上越教育大研究グループ

ワタツミフネカイの研究グループは天野副学長、金沢大のロバート・ジェキンス助教、産業技術総合研究所の西田梢氏。発見した新種を「ウラホロワタツミフネカイ」と命名し、6月

28日に福岡市で開かれた日本古生物学会で発表した。同学会の学会誌に論文を投稿中。

現生するワタツミフネカイ類は、世界各地に分布する最大体長15mmの小型の二枚貝。今回の発見は、地層から採取した石灰岩の塊を調べた中で昨年夏、最大で体長7・5mmの新種の化石を見つけた。確認作業を続けてき



浦幌・活平層から発見された「ウラホロワタツミフネカイ」（写真上）と「ウラホロミガキボラ」（写真下）いずれも天野上越教育大副学長提供

（23面に関連記事）

恐竜が絶滅した中生代白亜紀末期に続く、新生代最初の晩新世（6500万～5400万年前）の地層。晩新世の地層は他の年代の地層に比べ世界的にも少なく、国内でまとまった化石が出るのは活平層が唯一とされる。天野副学長らが昨年8月に新種の化石として発表した「ウラホロミシソデボラ」も、活平層から採取した。

た。これまでは、ニュージーランドで発見された2000万～2300万年前に生息した種の化石が最も古いとされ、一気に3倍近い

太古の年代にさかのぼることになった。

5700万年前には地球規模の温暖化が起き、深海の酸素が減少し、深海性微生物（有孔虫）の多くが絶滅したことが知られている。天野副学長は「5700万年前の温暖化で、深海性の貝類がどんな影響を受けたのか全く分かっていないが、少なくともワタツミフネカイ類はこの温暖化事件を生き延びたことが分かった」と話している。

一方、巻き貝はハイカイやツブガイなどを含むエゾバイ科の新属・新種とみられる。体長43mm、最後の1巻きが大きく、貝の表面に光沢を持つ。属・種名を「ウラホロミガキボラ」と命名した。北米西岸からカムチャツカ、南極に生息した巻き貝と似ており、天野副学長は米国の研究者と論文を共同執筆し、米国の学会誌へ投稿している。（平野明）

「十勝毎日新聞」 2014年8月23日

## 浦幌活平層で最古新種貝化石

【浦幌】上越教育大の天野和孝副学長らが発見した世界最古となる「ウラホロワタツミフネガイ」など貝化石2新種が採取された「活平（かつひら）層」上部は、国内では数少ない暁新世（ぎょうしんせい、約6500万年前～約5400万年前）の地層。化石の保存状態も良く、今後、調査が進めば、さらに多くの新種の発見をはじめ、約6600万年前に起きた巨大隕石（いんせき）が地球へ衝突した影響の解明にもつながるとみられる。

活平地区を流れる浦幌川。新種の化石は同川に注ぐ沢沿いで採取された



# 発見相次ぐ希少地層

活平層は、白亜紀から古第三紀にかけて根室層群に含まれ、旧北海道開発庁が昭和30年代に発行した地質図では白亜紀に区分されていた。

活平層上部が白亜紀より新しい暁新世の地層と分かっていたのは、浮遊性有孔虫

## 古代解明へ研究期待

の調査だった。有孔虫は単細胞の微生物で、数が多く、種や属によって生存期間が異なり、種の進化速度も比較的速いため地質時代を決める化石として用いられている。

1973年に山形大の吉田三郎氏が有孔虫の調査で根室層群の一部を暁新世と

地質時代	年代	新種の貝化石が生息した時代
新生代	漸新世	2500万年前
	始新世	3600万年前
	暁新世	5400万年前 6000万年前
	白亜紀	6500万年前 K-Pg境界層
中生代	ジュラ紀	1億4400万年前
		2億1200万年前

突き止め、84年には、東北「細部まで形の残った化石のウミユリ」類、二枚貝の斎藤常正氏（当時山形大）ら有孔虫の調査からかなり良い話している。活平層中に白亜紀末に巨大隕石が衝突した際に形成された黒色粘土層「K-Pg境界層」を発見し、活平層上部が暁新世であることが確定的となった。

また、化石の保存状態が良いのは化石が石灰質団塊の中に含まれているため。活平層で長年、化石収集している化石研究家の井上清和さん（55）帯広市在住は「ウニ、ウニ・ヒトデの仲間

「細部まで形の残った化石のウミユリ」類、二枚貝に似た姿の腕足類などが見つかっている。

天野副学長と共に活平層上部を調べている金沢大のロバート・ジェンキンス助教は「これまで活平層に手を付けてこなかったのが不思議なぐらいだ」と活平層の価値の高さを強調。井上さんは「日本では数少ない地層だけに今後、海外の研究者との共同研究が必要になるのではないかと」の見方を話す。

また、足寄動物化石博物館の澤村寛館長は「暁新世を含む古第三紀の海底の地層は世界的にも少なく、活平層の調査研究は意義深い」と述べている。

天野副学長は「古生物の研究者には中生代と新生代の貝化石の専門家がいます。暁新世は新生代だが中生代ともつながる中間領域にあるため、活平層の貝化石は放置されてきたのでは」と話している。（平野明）



新たに寄贈した模型を説明する杉本さん(右)

ようになり、ジオラマを作ることにした。材料は食品容器の発泡トレーと工作用紙を利用して

いる。今回は、双運坑の第一坑の工

浦幌炭鉱新たなジオラマを寄贈  
札幌の杉本さん  
町立博物館に

【浦幌】2012年に浦幌炭鉱市街地の手作りジオラマを町立博物館に寄贈した杉本年明さん(78)札幌市在住が16日、同館を訪れ、第一坑のエンドレス(石炭搬出装置)など新たな模型を寄贈した。杉本さんは小学生から青年時代まで同鉱で過ごし、配管などの仕事で主要な建物に立ち入り、構造を覚えていた。各地の炭鉱跡が産業遺産として注目を集める

ンドレスや選炭場、電気自動車、近隣の尺別炭鉱の各坑道と巻上機(石炭を積んだトロッコを坑内から引き上げる機械)を作製。

第一坑のエンドレスは石炭を効率よく搬出するもので、模型では山の上部を取り外して、ひと目で理解できるように工夫されている。

杉本さんは毎年、お盆に町内の墓に家族で訪れていて、この日は同館の「浦幌炭鉱閉山60年回顧展」にも足を運んだ。ジオラマや写真を見て「やっぱり懐かしい」と感慨深げだった。(田子紳一通信員)

「十勝毎日新聞」 2014年8月24日

世界最古 6000万年前「ウラホロ」貝化石発見

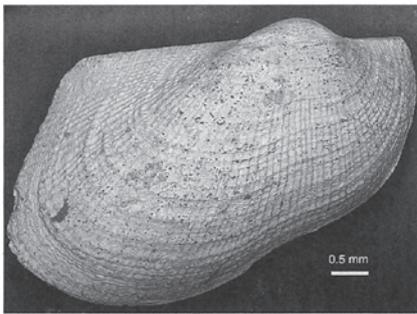
上越教育大グループ

【浦幌】上越教育大(新潟県上越市)の天野和孝副学長らの研究グループは、十勝管内浦幌町活平地区で約6千万年前の地層からワタツミフネガイ属の化石を発見したと発表した。

同属は、これまでニュージールランドで2300万年ほど前に生息していた化石が最古とされていた。研究グループは天野氏と金沢大のロバート・ジェンキンス助教、独立行政法人産業技術総合研究所(茨城県つくば市)の西田梢研究員、昨年8月上旬、同地区の暁新世(6600万年~5600万年前)の地層から発掘した。長さは7.5ミリで、発見された地名にちなみ「ウラホロワタツミフネガイ」と命名した。

研究グループは、6月下旬に福岡市で開催された日本古生物学会で発表。天野氏は「暁新世は深海を含む地球全体で温暖化が進行していた時期で、ワタツミフネガイはそれを乗り切ったことが明らかになった」と話している。

浦幌で発見された世界最古のワタツミフネガイ属の化石(天野氏らの研究グループ提供)



「北海道新聞」 2014年8月26日

# 貝化石を手に歓声

豊頃小6年 浦幌で理科学習



【浦幌】豊頃小学校（家田輝校長 6年生 20人）による理科学習が4日、浦幌町厚内、昆布刈石で行われた。19人が現地を見学し、化石採集を通して地層をより理解し自然の成り立ちを学んだ。浦幌町立博物館の佐藤芳雄館長が案内と指導を行った。

訪れた川の地層は、約1500万年前の第三紀中新世の厚内層群。ホタテやタマキガイなどの化石が多数ある。

子供たちはゴーグルを着用し、ウニ化石を見つけた児童

け、金つちとくきを手に化石探し。「あつた」「きれい」などの採ったと歓声を上げ、全員がタマキガイなど数個の化石を手にした。最初に直徑2・5センチのウニ化石を見つけた大橋亮介君は「化石採取は初めて。やった」と喜んだ。

昆布刈石の厚内トンネル近くでは、幾重にもきれいに重なる地層を見学。覆いかぶさるような急斜面をよじ登り、太平洋の海原に歓声を上げた。

（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2014年9月8日

## ■浦幌 留真川で校外学習

浦幌小学校（水野豊昭校長）5年生の理科の校外学習が留真川上流などで行われ、児童35人が川を流れる水の働きを学んだ＝写真。



9月26日に実施され、町立博物館の佐藤芳雄館長と笹川尚哉教諭、高田三十三教諭が指導した。留真川の上、下流での川幅の測定や石の大きさと形を比較した。

常室川では、常室橋下流のえん堤から浦幌川との合流地点の間で川遊びを体験。初めて川に飛び込んだと言う谷川諒君と桑原瑞生（みずき）君は「気持ち良い」と大喜びだった。



「十勝毎日新聞」 2014年10月4日



## ■浦幌 懐かしい農機具ずらり

町立博物館の小企画展「明治・大正・昭和の農機具展示会」が、同館展示ホールで開かれている。明治の開拓初期から昭和40年代にかけての農機具が並び、来場者の関心を集めている。28日まで＝写真。



同館所蔵の50点余りを展示。亜麻播（は）種機などの農具の他、馬での畑起こしや収穫作業の写真、せんべい焼き器などの生活用品もある。来場した宮崎一市さん（66）＝町共栄＝は「（展示品は）懐かしいものばかり。よしず（ヨシの茎で編んだすだれ）は家でも作っていた」と話していた。

「十勝毎日新聞」 2014年9月20日

# 昭和史語る紙面並ぶ

## 浦幌町民寄贈の新聞展示

【浦幌】町立博物館の収蔵資料展「紙に記された昭和史」が、同館展示ホールで開かれている。町民から寄贈された戦前から戦後までの新聞紙面が展示され、「新聞週間」（15～21日）



とも重なって訪れる人の目を引いている。22日まで。

新聞を通じて戦前から戦後までの世相を感じてもらおうと企画。十勝毎日新聞や東京朝日新聞、読売新聞などの複写も含めた紙面56ページが展示されている。

1936（昭和11）年3月22日付朝日新聞は、号外で二・二六事件の詳細を掲載。41（同16）年の「米英に対して宣戦布告」、45（同20）年の終戦を伝える記事など昭和20～30年代の新聞が中心となっている。

戦前から戦後にかけての新聞に見入る来場者

79（同54）年8月10日付十勝毎日新聞には「大会記録が続出」の見出しで浦幌の「太平洋スปีドマラソン」の結果が掲載され、地域の生活に関する紙面も展示された。

併せて「ハイ（エ）トリ紙」や長靴、靴下、ハーモニカ、浮き輪など当時の生活物資の通販用チラシ16点も展示。

戦争を伝える紙面に見入っていた町内の男性（62）は「現在進もうとしている危うい方向と似たものを感じる」と話していた。

時間は午前10時～午後5時。入場無料。問い合わせは同館（015・576・2009）へ。

（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2014年10月16日

### ■浦幌 レッドムーンに感激

たっしん  
1037

町立博物館（佐藤芳雄館長）主催「皆既月食を観察しよう！」が8日、同博物館前で開かれた。写真。



「月のダイヤモンドリングみたい」などと大喜び。赤松慎也君（浦幌小6年）は「初めてレッドムーンを見た。すごい」と感激していた。

元中学校教諭の和歌山満さん（町厚内）が月食の仕組みを解説し、月面スケッチ（地図）も使った。観察のポイントを指導した。47人の参加者は神秘的な天体ショーに「き

「十勝毎日新聞」 2014年10月18日

### 古代の遺跡や地層学ぶ 浦幌小6年生が校外学習



昆布刈石の崖で化石採取をする児童

【浦幌】浦幌小学校の6年生25人が理科の校外学習で、町内の十勝太、昆布刈石、オコッペ川などを訪れ、古代の遺跡や地層ができる過程などを学んだ。6日に行い、町博物館の佐藤芳雄館長が同行し、解説をした。十勝太遺跡は1972年頃から発掘され、数力所に600以上の住居跡が確認されている。児童は、高台で擦文時代の珍しい四角い住居跡を数多く見学した。地層がはつきりと見える昆布刈石の崖では、地層の学習をし、れき岩、砂岩、泥岩ごとの岩を採取した。中央公民館に戻ってからハンマーなどの道具を使い、岩の中から慎重に化石を取り出した。1100万年前のタマキ貝、タマ貝の他に、ウニの化石もあり、児童は興味深げに見入っていた。（広橋基嗣通信員）

「十勝毎日新聞」 2014年10月21日

# ヒグマにどきどき

## カメラ映像や仕掛け見学

浦幌博物館講座  
浦幌移動

【浦幌】町立博物館のミニ移動講座「ヒグマの生態を探る」が11日、町留真の山中で行われた。

浦幌ヒグマ調査会（佐藤芳雄会長）の石橋悠樹さん（酪農学園大学酪農学研究科酪農学専攻・修士1年）と水梨賢也さん（同大環境共生学類野生動物学コース3年）が案内。林道脇に設

置されたセンサー付きカメラに4日午後10時35分ごろに通り過ぎるヒグマが撮影されており、映像を見た6人の参加者たちは若干興奮気味だった。

自然木や加工したくいに体毛を採取する鉄線を巻きつけた仕掛けも見学。ヒグマがオニグルミを採取する姿や、子グマがくいによじ



体毛を採取する鉄線の仕掛けを見る参加者と、説明する石橋さん（左）

登る様子の画像も見た参加者たちは「ヒグマは斜面を下るのは苦手か」「フツキ

ソウの実を食べるか」などと質問し、生態を学んだ。（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2014年10月22日

岩壁に咲くソラチコザクラ(浦幌町内、5月19日撮影)



# 浦幌で

ソラチコザクラ

【浦幌】北海道固有種で環境省レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種)に分類され、日高山脈と夕張山地一帯に繁殖が限られている「ソラチコザクラ」が浦幌町内の山地に繁殖していることが分かった。帯広百年記念館の持田誠学芸調査員が現地調査などで確認した。



## 帯広百年記念館 現地で学芸調査員

夕張山地の絶滅危惧種

# 分布確認

ソラチコザクラは、20年ノキリンソウがある周辺斜ほど前に町内の山歩きの際、面の植生とは明らかに違い好家が発見。盗掘を防ぐため一部の人にしか知られていなかった。情報を得た町民有志が種の特定や分布など学術調査が重要と考え、発見者の同意のもとに

持田学芸調査員は、ソラチコザクラと確認した根拠として①葉の形態がへら形②葉の裏面が白色③成熟した段階での鋸(のこ)状の

## 「分類研究に意義深い」

持田学芸調査員に調査を依頼した。見つかった場所はヒゲマ

が出没する山奥。巨大な岩壁に張り付くように生えているものや、少し湿り気のある岩の隙間に連なるように生えているものがあった。同じ岩壁にはアスマスゲ、ツルデンダなども生え、エゾオオサクラソウやエゾ

ソラチコザクラ サクラソウ科ユキワリソウ類の多年草。石狩川支流の空知川流域で発見されたのが名の由来。現在は夕張山地東側の空知川流域、日高地方の沙流川、新冠川流域の岩壁に生える。開花時期は5月から6月。花の色は紅紫色。草丈は3~10センチ。葉はへら形で上部が広くて縁に細かい鋸の歯のようなざざざざがある。



葉の形態を挙げ、北大総合博物館や苫小牧市博物館などに保存されている標本や、釧路、根室地方に生えるユキワリコザクラとの形態・生育環境の比較調査などを踏まえて判断した。来春にも再調査を行う。ソラチコザクラなどユキワリソウ類は変異が多く、分類学的に難しさを抱えている。(田子紳一通信員)

「十勝毎日新聞」 2014年10月25日

## 20周年記念し作品展

孔版画 会員力作並ぶ 浦

【浦幌】「うらほろ孔版画サークル」(小山妙子会長、9人)の結成20周年を記念した作品展が、町博物館の展示ホールで開かれている。小山会長は「仲間が協力することで続けられた」と話している。展示は11月3日まで。



同会は町主催の「孔版画教室」に参加した仲間が1995年4月に発足。当初から千葉定是さん(十勝版

画の会代表) 喜別在住の指導を受けている。97年からは、会員らが手作りした孔版画カレンダーを毎年、町内の公共施設や福祉施設に寄贈。2006年1月からは同サークルが主催し、千葉さんが全国の孔版画愛好グループに呼び掛けて寄せられた年賀状を展示している。

町文化祭、女性あいフェスティルにも毎年出展し、町教委の子ども居場所づくり事業「オーラポロひろば」の指導に当たるなど地域の文化振興にも寄与。06年度に町文化奨励賞を受けた。

うらほろ孔版画サークルのメンバー。前列中央が千葉さん。後列左から2人目が小山会長

「十勝毎日新聞」 2014年10月27日

今回の記念作品展では、藤井栄子さんの花びらが渦巻く「秋桜の会話」など、小作品約100点、97年からの孔版画カレンダー18点を展示。小山会長の海中を漂うアンモナイトを描いた「太古のロマンII」、

(巴子紳一通信員)

## 冬眠穴の居心地は？

浦 酪農学園 大 学生 クマの生態学

【浦幌】酪農学園大学環境共生学類野生動物生態学研究室(佐藤喜和教授)の学生たちが野生動物保全技術実習で来町し、浦幌の豊かな自然を学んだ。野生動物の保全と人との共生に理解を深める狙い。17、19日に学生と佐藤教授



ら14人が訪れ、町内の森林を踏査。浦幌ヒグマ調査会(佐藤芳雄会長)が協力した。直別地区の道有林では、北村林業(北村昌俊社長)の造材作業を見学。留真地区での森林踏査では、ヒグマの足跡やふんなどの調査、有刺鉄線を巻きつけた木でできた体毛回収トラップの設置も学んだ。炭山地区では、同調査会

「十勝毎日新聞」 2014年10月31日

## 懐メロや映画音楽レコードで鑑賞

来月1日に 町立博物館

【浦幌】町立博物館は11月1日午後1時から、同館収蔵の懐メロや映画音楽、クラシックなどのレコードを鑑賞する「レコードコンサート」を同館ロビーで開く。入場無料。持ち込みレコードの鑑賞も可能。問い合わせは同館(015・576・2009)へ。

「十勝毎日新聞」 2014年10月29日

## ■浦幌 測量図画を展示

町立博物館の収蔵資料展「開拓当時の測量図画展」が、同館展示ホールで開かれている＝写真。

展示資料は、浦幌停車場予定地が示されている「浦幌市街設計図」



や、十間橋（養老）から十勝川の渡船場（愛牛）までの「浦幌長節間道路（大正元年度に竣功＝しゅんこう＝）」の図など40点余り。

展示は午前10時～午後5時。21日まで。問い合わせは同館（015・576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」 2014年11月17日

アロマの魅力  
香り味わい学ぶ  
浦幌スタイルゼミ  
【浦幌】アロマの歴史などを学ぶ浦幌スタイルゼミナール博物館講座「初めてのメディカルアロマ」が町教育文化センターで開か

れ、町内外から参加した20人が香りを体験しながらアロマの魅力を学んだ。  
福岡在住のアロマセラピスト阿比留昭子さん（49）を講師に招き、11月23日に実施。阿比留さんは「植物から抽出された不純物のないエッセンシャルオイルは、フランスでは医師が処方し、中国でも漢方薬として医師が処方する」と解説した上で、「正しく使えば肌に良く、リラククス効果などを高める」と話した。参加した町内在住の鈴木竜一さん（47）は「勉強になった」と話していた。  
（広橋基嗣通信員）



アロマ講座で資料を使って解説する講師の阿比留さん

「十勝毎日新聞」 2014年12月5日

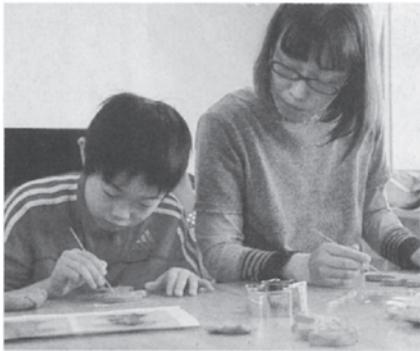
### 土偶作りに挑戦

町立博物館

【浦幌】子ども体験講座

「土偶を作ってみよう！」  
 が7日、町立博物館学芸員  
 室で開かれた。親子連れら  
 8人が縄文時代の土偶作り  
 に挑戦した。

北海道開拓記念館と道立  
 アイヌ民族文化研究センタ  
 ーが統合し、北海道博物館  
 が来春オープン予定のため、  
 町立博物館で「リニューアル予  
 告展示会」を実施。講座はこ  
 の一環で、同記念



館の主任学芸員の石代啓視  
 (うしろ・ひろし)主任学  
 芸員と、鈴木琢也学芸員が  
 講師を務めた。

参加者は、土偶に込めら  
 れた祈りや、多くが女性を  
 モデルにしていることなど  
 を学習。数少ない男性をモ  
 デルにした土偶を  
 手本にして粘土を  
 成形し、竹串で顔  
 の輪郭を掘り縄  
 文様をつけて完成  
 させた。

帯広市から参加  
 した竹内温人(は  
 真剣な表情で土偶  
 作りに挑戦する親  
 子の参加者

帯広市から参加  
 した竹内温人(は  
 真剣な表情で土偶  
 作りに挑戦する親  
 子の参加者

(田子紳一通信員)

「十勝毎日新聞」 2014年12月9日

### ■浦幌 昆虫の話に興味津々

社会教育施設のボランティア養成を  
 目的にした連続講座「博物館って楽し  
 いよ！」(町教委主催)  
 が13日、町中央公民館で  
 開かれた。



うらほろスタイルゼミ  
 ナールの一環で、来年3  
 月まで開催する。初回の  
 この日は12人が参加。帯広百年記念館  
 の伊藤彩子学芸員が「昆虫のお話」と  
 題して講演＝写真。センチコガネなど  
 の「ふん虫」について、動物のふんを  
 土の中に埋める習性が自然界で重要な  
 役割を果たしていると説明した。町内  
 在住の吉原敬司さん(63)は「ふん虫  
 の話題が面白かった」と話していた。

「十勝毎日新聞」 2014年12月16日

【浦幌】初心者アイヌ伝統料理教室が15日夜、町中央公民館で開かれた。参加者は町内で採取されたドングリの粉を材料にしたクッキー作りなどを行った。

## ドングリ粉、サケ… 伝統食材を活用 アイヌ料理学ぶ



アイヌ民族の伝統の食材を使った料理。(手前左から時計回りに) チェブオハウ、チサスイエブ、ドングリのクッキー、コンプシト

キー作りなどを学んだ。町立博物館が主催し、町内や帯広などから17人が参加した。浦幌アイヌ協会の差間正樹会長が講師を務めた。

「北海道新聞」 2014年12月17日

## 地域の個性楽しんで

た汁物のチェブオハウ、ジャガイモ団子にコンプのたれを付けたコンプシト。出来上がった料理を食べながら、差間会長は「サケ

はアイヌ民族にとって神からの贈り物。貴重品だった米は客人をもてなす食材だった」と説明した。  
(鈴木圭一)

## 文化も一緒にドングリクッキー



ドングリクッキー作りで講師の差間会長(左)から説明を受ける参加者

### 浦幌でアイヌ料理教室

【浦幌】町博物館講座アイヌ文化伝承教室が15日、町中央公民館(佐藤芳雄館長)で行われた。町内外から訪れた16人の参加者がドングリを使った料理などを学んだ。

豊かな自然と共に生きてきたアイヌの生きる知恵を学ぼうと毎年開催。幕別在住の郷土史研究家アイヌ文化伝承保存会の小助川勝義会長ら4人も協力した。

浦幌アイヌ協会の差間正樹会長が講師となり、チサスイエブ(いなきびごはんとチェブオハウ(石狩鍋)、コンプシト(昆布団子)、ニセウ(ドングリ)クッキーの4品を調理。差間講師は「拾い集めたドングリを1カ月水につけてさらした後、半分に分けてまた水につけてさらしてえぐみを取る。乾燥させたらミキサーにかけて粉にした」とドングリ料理作りを説明。クッキーはドングリパウダーに調味料や小麦粉を加え、最後にネシコ(クルミ)を加えてオーブンで焼き上げた。

また、いなきびご飯については「アイヌ民族に米を食べる習慣はなく、来客用に使った」と説明した。

昨年も参加した浦幌在住の村井征治さんは「ヒシの実が硬くて大変だったが、出来上がった料理はどれもおいしかった」と話していた。(広橋基嗣通信員)

「十勝毎日新聞」 2014年12月20日

バイオリンで  
ALTがライブ  
音楽サロン

【浦幌】町立博物館と図書館などが主催する「音楽サロン」（喫茶）が18日、町内の教育文化センター（らぼろ21）のロビーに設置され、訪れた約20人の町民がバイオリン演奏や歌声などを楽しんだ。

町の英語指導助手（ALT）ニコル・L・ワグナーさんはバイオリンのミニライブを披露。浦幌町在住のマリンバ奏者、左藤優さんも特別出演した。

その後は、歌声サロンでクリスマスソングなどを歌

カレンダー  
すきうら  
24-2323

い、子供2人と訪れた安田奈都子さん（36）は「バイオリンは上手だったけど、長男雄絆（ごうき）君は「マリンバの大きさに驚いた」と話していた。

（広橋基通通信員）



音楽サロンの会場  
でワグナーさんの  
バイオリン演奏に  
聞き入る来場者

「十勝毎日新聞」 2014年12月25日

### 古き良き時代の 映画資料ずらり 博物館で移動展

【浦幌】帯広百年記念館（北沢実館長）移動展「十勝に映画館がたくさんあった頃」が、町立博物館・特別展示ホールで開かれている。写真。入場無料。

映画看板絵師として活躍した帯広市の飯田和幸さん（北海道バスレル画協会代表）が描いた「ひまわり」と大作スペクトル「ベン・ハー」の映画看板2点や、十勝管内の映画館などの写真17点などを展示。十勝でも早期の1904（明治37）



年8月に高室広助氏が開業して68（昭和43）年頃まで営業した浦幌「丸大座」の写真もあり、訪れた町民が懐かしんでいる。

町立博物館の収蔵資料で

は16台の映写機他、日活の「ザ・スパイダースのゴー・向こう見ず作戦」の映画ポスターや、11月に死去した高倉健さんと鶴田浩二さんが写っている70年の東映カレンダーの表紙など7点も展示されている。

期間は来年1月13日まで、時間は午前10時～午後5時。31日～1月5日は休館。また、1月9日午後7時から、「十勝に映画館がたくさんあった頃」と題し帯広百年記念館の大和田努学芸員が講演する。講演後は、浦幌開町70年記念映画「伸びゆく浦幌」を上映する。（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2014年12月27日

# 十勝の映画館の歴史学ぶ

## 浦幌スタイルゼミ講演会

【浦幌】浦幌スタイルゼミ高室広助氏らについて人物ミナール講演会「十勝に映画館がたくさんあった頃」

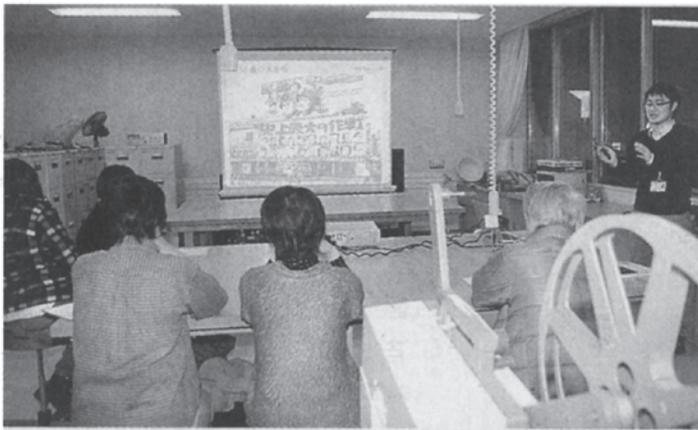
が9日、町立博物館で開かれた。帯広百年記念館学芸員の大和田努さんが、十勝の映画館の歴史などについて解説した。

12人が参加。大和田さんは、1904（明治37）年に帯広で初の映画館「朝倉座」を開いた朝倉繁七氏や浦幌で「丸大座」を開いた

昭和30年代の全盛期には帯広に10館あり十勝の全市町村にも映画館があったことや、浦幌炭鉱にも

「協和会館」があったことを紹介した。講演後は、浦幌町開町70年記念映画「伸びゆく浦幌」が上映され、参加者は町の昔の映像を懐かしんだ。

（田子紳  
一通信員）



十勝にあった映画館について、映像を交えて解説する大和田学芸員（右）

「十勝毎日新聞」 2015年1月14日

歯や木の葉化石  
レプリカ作り  
子ども体験教室

【浦幌】町立博物館（佐藤芳雄館長）の冬休み子ども体験教室「化石レプリカづくり」が13日、同館学芸員室で開かれた。定員（20人）を大きく上回る41人の児童が参加。足寄動物化石博物館の澤村寛

館長を講師に招いた。子どもたちは、浦幌でも発見されたアンモナイトやデスマスチルスの臼歯、木の葉など17種類の中から一つを選び、水に溶いた石膏を型に流し込んで製作。恐竜の頭を模した型も用意された。



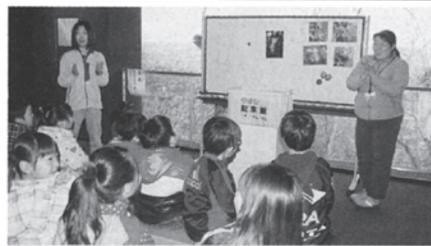
見されているアンモナイトやデスマスチルスの臼歯、木の葉など17種類の中から一つを選び、水に溶いた石膏を型に流し込んで製作。恐竜の頭を模した型も用意された。

勝で初めて発見されたアンモナイト、ウラボロシンカイヒバリガイなどの化石について澤村館長が説明。サメやモササウルスの歯などを掘り出す「ミニ発掘」も体験した。恐竜の頭を作り上げた橋本恭典（きょうすけ）君（浦幌小5年）は「うまくできた」と喜んでいました。

「十勝毎日新聞」 2015年1月17日

（田子紳一通信員）

エゾリスの生態  
クイズで学ぶ  
児童20人  
【浦幌】町立博物館主催の講座「エゾリスBOX」が16日、同館で開かれた。町内の児童20人がエゾリスの生態を学んだ。帯広百年記念館の伊藤彩子学芸員と小林真樹学芸員が講師を務め、クイズを交えながらエゾリスの食べ物や習性などを説明した。食べ物やすみかを問うク



エゾリスの食べ物の説明をする小林学芸員（右奥）と伊藤学芸員（左奥）

「十勝毎日新聞」 2015年1月20日

イズでは、児童から「森にあるフルーツ」「土の中」などの「迷解答」も。エゾリスの毛皮に触る場面では

「フワフワだった」「モコモコで気持ち良い」と感嘆する声が上がリ、冬毛と夏毛の違いも実感した。  
安田煌絆（こうき）君（浦幌小2年）は「エゾリスのこたが大体分かった」と話していた。（田子紳一通信員）

### 森林と野生動物 テーマに交流会

北大生ら  
エコバ散策も

【浦幌】北海道大学獣医学部の野生動物学生サークル「ボンコタン」(仲尾朋美代表)が17、18の両日、人の生活と、森林や野生動物の関係を学ぼうと浦幌町内などで野生動物交

流会を開催した。

同交流会は3回目の開催で、北大の他、帯広畜産大や東京農大からも含めて学生15人が参加した。



ヒグマの出没対策の話に真剣に聞き入る学生たち

17日は十勝総合振興局森林室(浦幌町)で、井上靖彦主幹(森林総合管理)から「防風林におけるヒグマ出没対策」、同室の伊藤一磨(森林整備課)から「森林の現状と森林施業」と題して講義を受けた。

ヒグマの出没対策では、農地と農作物を守る防風林を利用してヒグマが農地に出没する事例が示され、侵入防止柵などの対策について学んだ。

また、18日は道立十勝エコロジープーク(音更町十勝川温泉)をスノーシューで散策。野生動物が河畔林を利用している様子を確認し、仲尾代表は「十勝の農業地帯と野生動物との関係を理解できた」と話していた。(田子紳一通信員)

「十勝毎日新聞」 2015年1月22日

### 日本各地の風物 孔版画で多彩に

【浦幌】日本各地の風物をモチーフにした全国孔版画質展が4日、町立博物館特別展示ホールで始まった。



美しい孔版画の作品が並ぶ質展

十勝孔版画の会(千葉定是代表)主催。同会メンバーと全国の12孔版画サークルから寄せられた年賀状約130点を展示している。孔版画の技法は原紙に細かい穴をあける謄写版(ガリ版)や、コロジオンという原紙を専用の液体を漬けた筆でなぞる手法などがある。えとの未(よ)や富士山を背景にツルが舞う風景画、細かいタッチで和服姿の女性を描いた作品が並ぶ。12日まで。入場無料で、午前10時～午後5時(最終日は4時)。(鈴木圭一)

「北海道新聞」 2015年2月5日

# 幌 厳寒の中、海岸走破

浦 歩くスキーで体験講座

【浦幌】町博物館主催の「移動自然(厳寒)体験講座」となり、西風も吹いたため「厳寒! 豊北の雪氷原を走破しませんか!」が1日、浦幌、豊頃の両町に広がる豊北海岸で行われ、参加した11人が歩くスキーで十勝川の河口を目指した。



雪氷原の風景を楽しみながら歩くスキーでゴールを目指す参加者たち

1989年に始まり、今年一行は、豊北のトーチカ跡から十勝川河口までの往復約4キロを、雪に輝く日高山脈やトイトッキ沼の氷上で雪に埋もれた「御神(おみ)渡り」などの景色も楽しみながら歩いた。十勝川河口では野鳥カワラヒワ50羽ほどの群れや、雪の上に落ちた鮮やかな黄色の尾羽を観察できた。

スタート地点に戻ると、ポランディアが用意した豚汁などが振る舞われ、参加者は厳寒の中のおもてなしに喜んでい

た。前日に降雪もあり、同博物館の佐藤芳雄館長は「過去2年は積雪が少なく砂浜ウォーキングとなったが、今回は久々に歩くスキーでの走破」と話し、町内在住の内海恭子さん(64)は「高山脈を見ながら海の横を歩き進み、自然の雄大さを実感できた」と感激していた。(田子紳一通信員)

「十勝毎日新聞」 2015年2月5日



爽やかな作品目録しませる

全国孔版画賞展

【浦幌】「2015全国孔版画賞展」(うらほろ孔版画サークル主催)が、町立博物館特別展示ホールで開かれている。今年のはと未(ひつじ)や花などの繊細で爽やかな作品が並び、訪れる人の目を惹きつけている。12日まで。

十勝孔版画の会で代表を務める千葉定是さん(幕別在住)が、全国の孔版画愛好グループに呼び掛けて毎年実施しており10回目。十勝や道内の他、茨城や福岡など全国12グループ80人から計120点が寄せられた。町内からは4人の8点が出品され、全国から千葉さんに届いた約220枚の年賀状も飾られている。うらほろ孔版画サークル

年賀状展の会場であらほろ孔版画サークルのメンバーと賞状を手にする小山会長(前列中央)。前列右が千葉さん

なお、第13回なんと版画年賀状公募展(富山県南砺市立福光美術館主催)で小山会長の作品が一般の部で「画材たんぼ賞」に入賞し、同会場で3日、千葉さんから賞状と記念品が伝達された。(田子紳一通信員)

「十勝毎日新聞」 2015年2月6日

町民自慢の品展示  
ぶちミュージアム  
出展者募集

【浦幌】町教育文化センターでは、町民自ら企画・展示する「ぶちミュージアム」を随時開いている。写真。町民が作製したり、長年かけて収集したりした自慢の品々を展示する試み。現在は3人が、ウルグアイやアラブ首長国連邦などで発行されている動物の切手、えとにちなんだヒツジのグッズ、キャラクターのストラップを展示してい



る。ヒツジのグッズを展示した女性(29)は「ほんわかと和んで楽しんでもらえれば」とし、佐藤館長は「自

「十勝毎日新聞」  
2015年2月12日

由な発想で展示し、博物館を身近に感じてほしい」と話している。窓口の町立博物館(佐藤芳雄館長)では出展者を募集している。展示はアクリルケース1個分で、高価なものや生き物は不可。期間は約2週間。詳細については協議が必要。問い合わせなどは、同博物館(015・576・2009)へ。(田子紳一通信員)



アイヌ文様の刺しゅう学ぶ  
博物館講座

【浦幌】アイヌ文様の刺しゅうを学ぶ講座(町立博物館主催)が同博物館と町保健福祉センターで開かれた。1月20日から25日までの計5日間にわたり開催、

完成したアイヌ文様の刺しゅうを披露する参加者たちと、指導に当たった廣川さん(前列右から2人目)

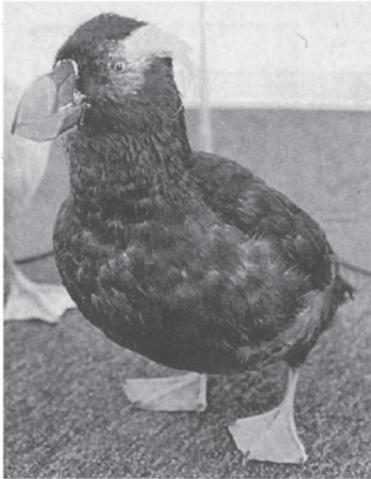
8人が参加した。浦幌出身で帯広市在住の廣川和子さんを講師に招いた。アイヌ文様の刺しゅうは、イラクサの糸や木綿糸で「モレウ(渦巻き状の模様)」や「アイウシ(とげのある模様)」を組み合わせ、悪いカマイを追いかけて作られる。講座では糸の色選びから始まり、針目をそろえてテールセンターを作製。小川房子さんは「本当に面白い」とし、称津澄恵さんも「時間が足りず、予習が必要」と話していた。(広橋基嗣通信員)

「十勝毎日新聞」 2015年2月13日

# 「エトピリカ」剥製に

## 「非常に稀少」常設展示

浦幌町立博物館



浦幌町立博物館の展示室に設置された海鳥「エトピリカ」の剥製。だいたい色の大きなくちばしが特徴的

【浦幌】昨年7月に豊頃町の豊北海岸で保護され、その後釧路市の専門機関で死亡した絶滅危惧種「エトピリカ」が剥製に加工され、12日、浦幌町立博物館（佐藤芳雄館長）に展示された。国内で数十羽しか生息が確認されておらず、十勝でも数羽が見られるかどうかという非常に稀少性の高い海鳥。同博物館は常設展示することから来場を呼び掛けている。

エトピリカは昨年7月16日、同海岸で弱って波打ち際にじっとしているのを浦幌野鳥倶楽部の久保清司さん（浦幌町在住）が発見して保護。同日中に釧路市の猛禽（もうぎん）類医学研究所に移送された。

しかし、衰弱が激しかったため死亡。同博物館は、エトピリカの保護に携わったNPO法人日本野鳥の会十勝支部の千嶋淳副支部長

エトピリカ アイヌ語で「くちばし・美しい」の意味で、名前の通りだいたい色の大きなくちばしが特徴。国内では根室市のユルリ島、モユルリ島が唯一の繁殖地で、30

を通じて環境省釧路自然環境事務所から譲り受け、剥製を作ることにした。

展示された剥製は、成鳥にみられる顔の白い部分がなく、2〜3歳の若鳥。剥製を手掛けた丹青社（本社、東京）札幌支店によると、エトピリカの依頼はほとんどないという。

佐藤館長は「剥製としても、非常に希少なもの。ぜひ見学して、自然の魅力を感じてほしい」と話している。

同博物館は入館無料。午前10時〜午後5時。休館日は月曜と祝日の翌日。問い合わせは同博物館（015・576・2009）へ。  
(田子紳一通信員)

羽ほどしか生息していない。十勝沖では例年、見られる場合でも1〜2羽程度だが、昨年の浦幌・厚内沖では10羽前後の若鳥が観察されていた。

「十勝毎日新聞」 2015年2月14日

雪をかき分け、坂を上ったり下ったりして進んだ深い森の中に、十勝の近代化を支えた産業遺産がひっそりとたたずんでいた。十勝毎日新聞探検隊が大自然の懐に隠れた歴史と先人の足跡を再発見する「裏十勝めぐり」第3弾は、浦幌町のJR樽室線旧厚内トンネルを訪れた。現場には真冬の寒さが織り成す神秘的な景色が広がっていた。

(写真・樽屋真 文・井上明二)

探検隊が行く  
**裏十勝めぐり**

**旧厚内トンネル＝浦幌**

雪深い森を抜けた場所にある旧厚内トンネルの入り口。高さ3～4mの巨大なつららが幾重にも重なり合い神秘的な雰囲気を醸し出す



旧厚内トンネル(延長325m)を訪れたのは10月14日午後。帯広市元町に学芸調査員の特田誠さん(42)に案内役を委ねてもらい、カメラマンと記者の3人で現場に向かった。

見ると旧厚内トンネルは、十勝で最初に鉄道が開業した浦幌と釧路市高野との間にあり、白樺林を貫いている。1903(明治36)年に開通して1990年までの約90年にわたり使われた。現在は、旧トンネルの南側数100mのところを道庁線が走り、十勝と釧路を結ぶ「動脈」となっている。

今回の取材は、JR北海道釧路支社から特別に許可を得た。特田さんはこれまで何度か現場調査を行ったが、真冬の調査時は初めてという。冬山登山に使われるスノーシューを用意した。

浦幌町内の国道38号から雪道に入り、足跡にはさまる雪面も。森の中では、雪を踏み固めながらエゾシカなどの足跡を横目にして前へ進んだ。旧トンネル釧路側に着くと3人で

雪をかき分け、自分の景色を見つめた。入り口には高さ3～4mの巨大なつららがいくつも重なり合い、神秘的な雰囲気を醸し出していた。まぶさ青白く重厚なカーテンが幾重にもかかっているようにも感じた。

特田さんによると、入り口の氷がの隙間から少しずつ水が溢れ出るところの風景をつくり出したとのこと。「白樺林は貴重、難所だった。鉄道を通し



歴史封じめる“氷のカーテン”

旧厚内トンネルに向かう途中ではJR樽室線を走る列車が間近に見え、旧態と現用線の近さがよく分かる



た先人たちが山や沢を自ら歩いて建設の負担が少ない場所への路線を通したことがよく分かる」と確認した。

このトンネルを通じ、十勝の豊饒期に小豆など農産物や木材などが買外へ運ばれ、釧路から米などを運び込むためにも役立てられた。十勝が近代的な発展を遂げた時期に使われた産業遺産だ。

特田さんは「近代建築の跡を集めて造られたトンネル。老朽化で内部は崩落している場所もあるが、十勝近代化の証として残すことできれば」と願う。

産業遺産として残すだけでなく、観光資源としても活用できれば、十勝の人たちにとっても地域の誇りになるのではないかと。そう感じながら現場を後にした。



旧厚内トンネルの普平側入り口にある案内板

「十勝毎日新聞」 2015年2月24日



☆歩くスキーで厳冬楽しむ  
 歩くスキーで浦幌町豊  
 北から豊頃町十勝川河口ま  
 でを踏破する厳寒体験講座  
 が開かれ、帯広などから参  
 加した11人が真冬の自然を  
 満喫した。

■浦幌

浦幌町立博物館が主催  
 し、1日に実施した。一行  
 は豊北まで車で行き、戦時  
 中に建設されたトーチカ跡  
 そばでスキーに履き替え、  
 1・5キロ先の十勝川河口を  
 目指した。この日は晴天な  
 がら風が強く、雪面には風  
 でできた美しい雪紋が見ら  
 れた。遠く日高山脈を  
 望みながら進み、両町  
 の境界のトイトツキ沼  
 では全面結氷した水面  
 をスキーで歩いた。

約1時間半かけて十  
 勝川河口に到着。写真  
 Ⅱ。十勝川からの流れ  
 と太平洋の波がぶつか  
 り合い、しぶきが霧の  
 ように舞う様子に見入  
 っていた。(鈴木圭一)

「北海道新聞」 2015年2月21日

## 植物標本作り真剣に

浦幌町立博物館で教室

【浦幌】植物標本作りを学ぶ教室が町立博物館で  
 あり、町民10人が学んだ。同博物館と「浦幌の自然  
 を楽しむ会」の共催で、帯広百年記念館の持田誠学  
 芸調査員が講師を務めた。

22日に開かれた。持田さんは、美しさを求めて種  
 類の違う複数の花をまとめて作る観賞用押し花と違  
 い、「植物標本は記録が重要なので、1個体だけで  
 作ります」と指摘。採集のポイントとして「草の場  
 合は根が種の特定につながるので、1本まるごと採  
 って年月日を記録します」と話した。

参加者は町内の生花店から提供を受けた花を用  
 い、標本作りに挑戦。新聞紙とティッシュを使い、植  
 物の水分を吸収する方法などを学んだ。(鈴木圭一)



新聞紙を使った乾燥法を学ぶ参加者たち

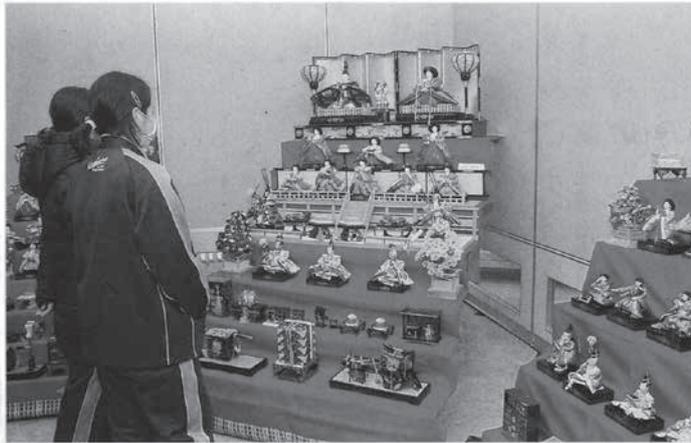
「北海道新聞」 2015年2月25日

### ひな人形が120体 無料記念写真も

町立博物館で展示

【浦幌】3月3日の桃の節句にちなんだ「ひな人形展」が同日まで、町立博物館特別展示ホールで開かれている。

博物館が所蔵しているものと、町民から借りた人形120体を展示。最も古いのは昭和初期に作られた御殿ひな。内裏ひな2体が高さ50センチ、横幅30センチの木製の御殿の中に納められている。昭和60年代末に作られたひな人形は、当時の好景



きらびやかな「ひな人形展」

「北海道新聞」 2015年2月28日

気を反映してかサイズも大型。内裏ひな1体で高さ25センチ、横幅30センチもある。

1日午後1時から午後4時まで、ひな人形をバックに無料で記念写真を撮り、直接会場へ。

展示は午前10時～午後5時、最終日は同4時まで。(鈴木圭一)

その場でプレゼントする催しもある。希望者は当日、

### 浦幌の自然学ぶ 町博物館で講座

【浦幌】町立博物館(佐藤芳雄館長)のボランティア養成講座「博物館っておもしろい!」が2月23日、同館で開かれた。

同館常設展示資料の説明ボランティアを養成するとともに、町民の生涯学習の場とする目的。町民7人が参加して佐藤館長のレクチャーを受けた。

この日は、同館の展示室



佐藤館長(左)の説明を聞く参加者たち

で「浦幌の自然」をテーマに、昆虫や魚、エトピリカなど野鳥を含む浦幌の豊かな自然を学んだ。参加者は修了証書が渡された。初めて同館に入った町内の男性は「クマタカなどの展示が素晴らしい」と話した。

同講座は9日に「石器・土器の文化」、16日に「開拓時代」、23日に「浦幌市街今昔物語」と題して開かれる。時間は、各日程とも午前11時から30分。参加は無料。申し込みや問い合わせなどは同博物館(015・576・2009)へ。

(田子紳一通信員)

「十勝毎日新聞」 2015年3月4日



### 植物標本作り学ぶ うらほろセミ

【浦幌】うらほろスタイルセミナー「植物標本作ろう!」が町立博物館で開かれた。野の花の愛好家ら11人が参加し、標本作りの基本を学んだ。

持田さん(右)の指導で植物標本作りを体験する参加者

同館(佐藤芳雄館長)ときた頃が採集の適期となる浦幌の自然を楽しむ会(吉原敬司会長)の共催で2月22日に開かれた。帯広百年記念館の持田誠学芸員が、手軽にできる標本作りを指導した。野の花がないため、同会が町内のフラワーショップ清香から花の提供を受けた。

持田さんは採集情報(ワベル)の有無など標本と押し花の違いや花の盛りを過ぎた頃が採集の適期となることなどを分かりやすく解説。乾燥では、標本作成用紙などを使ってさまざまな手法も指導した。

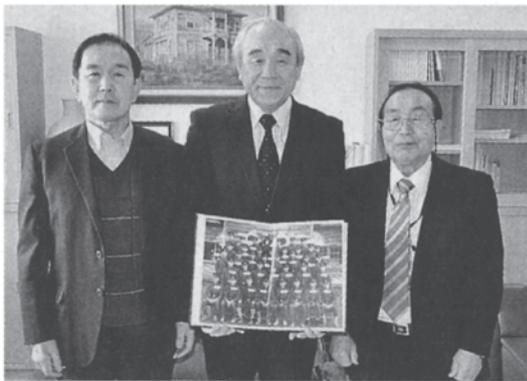
押し花作りが好きという町内在住の大本真里子さん(66)は「これからの押し花作りの参考になる」と話していた。

(田子紳一通信員)

「十勝毎日新聞」 2015年3月3日

# 古里の記録、博物館に

## 浦幌帯広の村中さん写真集寄贈



【浦幌】2011年まで帯広市内でカメラ店を経営していた村中哲太郎さん(80、同市在住)が、古里・浦幌の歴史を記録した「浦幌・栄穂・川上の77年の記録写真集」を町博物館に寄贈した。写真集には大正時代の貴重な写真が収められている。

「絆」と題したこの写真集は村中さんを中心に、19

86年に閉校した旧川上小学校同窓生で構成する「川上会」の協力を得て製作。10年ほど前から昔の写真を募り、2013年に完成させていた。同会役員の一了解を得られたため寄贈した。写真集には1924(大正13)年に建てられた旧川上小旧校舎(52年に村中さん撮影)や、1918(同7)年春に撮影された「開拓成功記念」の他、同校の児童、青年団、敬老会の集合写真、開校50周年式典、閉校式の様子など220点余りが収められている。

久門教育長(中央)に浦幌の歴史を記録した写真集を寄贈した村中さん(右)と同席した佐藤さん(左)

「十勝毎日新聞」 2015年3月5日

る。  
また、昭和初期の土壁とわらぶき屋根の家屋、地域の農業、林業など人々の暮らしを伝える思い出の写真も掲載され、地域の歴史を伝えている。

2月23日に同郷の佐藤才彦さん(77、浦幌在住)と共に町教委を訪れて久門好行教育長に写真集を手渡した村中さんは「大正、昭和の各時代にこの土地で生きた人たちの記録を、孫やひ

孫たちに伝えたい。博物館でいつまでも残してもらえれば」と思いを語った。  
久門教育長は「大変貴重なアルバムで、大切に保存したい」と感謝していた。  
(田子紳一通信員)

# 津波の痕跡 一目で

## 52年十勝沖地震 回顧展に地層標本

浦幌博物館

【浦幌】1952（昭和27）年に起きた十勝沖地震の回顧展が町立博物館特別展示ホールで開かれている。会場には、昨年7月に町豊北で採取された津波の痕跡が残る地層標本があり、過去数千年の間、数百年に1度の頻度で巨大津波が十勝沿岸にも押し寄せたことが分かるという。同博物館は同展終了後の4月以降も標本を常設展示する予定だ。



展示された津波の痕跡が残る地層標本を前に「防災意識を新たにしてみられれば」と語る佐藤館長

標本は縦180センチ、横90センチ起きたとされる海面上昇の大きさで、縄文時代に「縄文海進」以降の約50

00年分の地層がある。北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センターの西村裕一助教らのグループが採取し、製作した。地層からは、およそ500年間隔で来襲したとみられる巨大津波で、9つの砂の層を確認。一番上の砂層は17世紀（約400年前）に、2番目の砂層は12、13世紀（約800～900年前）に起きた津波の堆積物だと考えられるという。

同博物館の佐藤英雄館長は「考古学資料としても貴重

52（昭和27）年十勝沖地震 52年3月4日午前10時23分ごろ、十勝沖約70キロ深さ約50キロを震源とするマグニチュード8.2の地震が発生。浦幌は震度6。浦幌中学校で生徒を避難させた教諭が亡くなり、重軽傷者は139人、全焼4戸、被災家は1667戸、被災者1万3666人に上った。町内厚内地区（当時は大津村）では、津波が3回押し寄せ、引き波でさらわれた厚内川の氷が、海岸線から500メートル以上上流にまで達し、流域では数軒の家屋が浸水した。

地震災害の悲惨さを伝える写真に見入る来場者ら



重なタイムカプセル。この地層標本から、防災への意識と備えを新たにしてみられれば」と話している。同博物館は16日午後7時から、「巨大津波の襲来痕跡地層を知る」を同館で開く。北大の西村助教が講演する。参加無料。問い合わせは同館（0155・576

「十勝毎日新聞」 2015年3月7日

・2009）へ。  
回顧展には倒壊した浦幌中学校や家屋、延焼する市街地など当時の写真約50枚を展示している。29日まで。  
（田子紳一通信員、井上朋一）



## 化石が語る太古の自然

### うらほろスタイルゼミ

【浦幌】うらほろスタイルゼミナール「大地が語る十勝浦幌の自然史」（町立博物館主催）が7日、教育文化センターで開かれた。参加者たちは、浦幌で発見された動物の化石などを通じて、太古の自然環境などを学んだ。

町内外から23人が参加。北海道教育大学名誉教授の木村方一さんが「十勝浦幌の化石と古環境」と題して



講師を務めた。木村さんは、町上厚内な

どで発見された太古の大型哺乳類（東柱ⅡそくちゅうⅡ類）「デスモスチルス」と同じ東柱類「パレオパラドキシア」の歯の違いを説明。参加者は見比べて浦幌の化石がデスモスチルスであることを確認した。

参加者の「浦幌で恐竜発見の可能性は」との質問に対して、木村さんは「アンモナイトの地層を探すと可能性はある」と話した。また、参加者持参の化石も鑑定した。

（田子紳一通信員）

古代の生物や環境について講演する木村さん（手前）

「十勝毎日新聞」 2015年3月16日

## 地層に津波の痕跡

### 北大・西村助教が講演

浦幌

【浦幌】うらほろスタイルゼミの一環で津波や防災をテーマにした講演会（町立博物館主催）が16日、町教育文化センターで開かれた。津波・地震などを研究する北大の西村裕一助教が講師を務め、浦幌で採取した地層を示すなどして津波への理解を深めた。

町民ら約20人が参加。西村助教は北大学院理学研



究院付属地震火山研究観測センターに所属、世界各地で地層から津波の痕跡を探る研究などを進めている。昨年7月に町豊北でも津波の痕跡が残る地層標本を採取し、この標本は同博物館に展示されている。

西村助教は北海道で起きた地震や津波について「1000年に1度起きるような地震・津波は、ここ30

0年ほどの間で記録はないが、地層を調べれば津波で運ばれた砂で分かる」とした上で、地層標本を解説しながら過去350

0年ほどで十勝でも巨大津波の痕跡があったことを示した。  
また、防災について「津波から身を守るためには、①正しい知識と意識を身に付けること②素早い避難のため準備と行動をすること」と指摘。特に冬は海水が低温で積雪などで避難しにくくなるため「冬の津波は脅威が増す。どうやって津波から逃げられるか、個人や家庭、地域でしっかり考え、訓練してほしい」と呼び掛けた。（井上朋二）

「十勝毎日新聞」 2015年3月20日

## 地震の惨状 写真と映像で

▶▶ 浦幌で「昭和27年十勝沖」回顧展



十勝沖地震で被災した浦幌の様子を紹介する回顧展

【浦幌】「昭和27年十勝沖地震回顧展」が、町立博物館特別展示ホールで開かれている。  
 1952年3月4日午前10時23分、十勝沖を震源とするマグニチュード(M)8.2の大地震が発生。町内の家屋1600戸以上が全半壊、4戸で火災が起き死者1人、負傷者約140

人を出した。  
 会場には倒壊家屋や、火災が起きた家屋に向かって消防団が放水する様子など、パネル55枚を展示。鉄道の線路が寸断されたり、陥没した様子を伝えるニュース映像もビデオで上映している。入場無料で29日まで。午前10時～午後5時(最終日は4時)。(鈴木圭一)

「北海道新聞」 2015年3月23日

## 地震や津波から身を守るには

浦幌 親子連れら70人、心得学ぶ



豚汁作りを体験する子供ら

【浦幌】地震や津波など災害時の心得を学ぶ「家族き抜こう！」が21日、町立

博物館で開かれた。博物館と防災に取り組む町民団体「うらほろ和こころ体験塾」(二瓶隆代表)が主催。親子連れら約70人が参加した。  
 元浦幌消防署員で、道地域防災マスターの松本英俊さん(65)が講演。東日本大

震災時の動画を上映しながら「地震、津波の知識を学び、食料備蓄などの備えが大切」と説明した。  
 町所有の非常用ガスコンロや調理器具を使って豚汁作りも体験し、全員で味わった。  
 (鈴木圭一)

「北海道新聞」 2015年3月24日

# カイギュウ化石を発見

## 上浦幌中央小5年の笹島さん

【浦幌】上浦幌中央小学校5年生の笹島涼華（すずか）さん（11）が昨年夏、町貴老路にある自宅近くを流れる浦幌川で、動物の骨の一部とみられる化石を発見し、その後の専門家による鑑定で、化石は数百万年前の海生哺乳動物「カイギュウ」の一種とみられることが分かった。町内で同化石の発見は初で、十勝では幕別、豊頃、本別に続いて4例目となる。



発見した「カイギュウ」の肋骨の一部とみられる化石を手に喜びを語る笹島さん

笹島さんは、7日に町教育文化センターで開かれたうらほろスタイルゼミナール「大地が語る十勝浦幌の自然史」に両親と参加。この際、化石を持参して講師の木村方一さん（北海道教育大学名誉教授）に見せていた。木村さんは「骨の組織が緻密で重たいことと、発見場所などから考え合わせると、『タキカワカイギュウ』の肋骨（ろっこつ）の一部だと思われる」と話している。

タキカワカイギュウ 約500万年前に生息したジュゴンの仲間の海生哺乳動物。1980年に滝川市の空知川で最初に化石が発見され、新種と分かった。歯を持たず軟らかな海藻を食べていたとされる。



### 浦幌川で 数百万年前の骨「驚いた」

この化石の発見場所付近には本別層（500万～300万年前）鮮新世前期）があり、約500万年前に絶滅したとされる「タカハシホタテ」の化石なども見つかっている。今回発見された化石は最大径、長さとも約7センチの大きさ。

発見した笹島さんは小学3年生から化石に興味を持ち、父親の秀昭さん（57）によると、「川に遊びに行くたびに石を拾って来る」という。笹島さんは「ただの石かと思っていたが、カイギュウと聞いてすごく驚いた」と話していた。木村さんは「カイギュウの化石を見るとは思わなかった。子供の探究心は素晴らしい」とし、雪解け後にも現地調査をする予定という。（田子紳一通信員）

〔十勝毎日新聞〕 2015年3月27日

# 防災意識 食べて高める 浦幌 親子で炊き出し体験



炊き出し体験で鍋に豚汁の材料を入れる子供たち

【浦幌】地震や津波に備える防災セミナー「家族で学ぶ防災『食べて共に生き残ろう！』」(町立博物館、

うらほろ和ごころの会共催)が21日、同博物館ロビーで開かれた。町内の親子連れなど約70人が参加し、

災害時の対応を学んだ。「防災・減災『大地震から身を守るためには?』」と題し、北海道地域防災マスターの松本英俊さん(町内在住)が講師を務めた。

松本さんは東日本大震災や阪神・淡路大震災の映像を映し、大地震が発生した際には「第一に自分が生き残るために最善を尽くして」と伝えた。

参加者は町が用意した鍋や飯ごうで避難時の炊き出しを体験し、保存食と一緒に試食した。佐藤菜緒さん(浦幌中2年)は「自分の身に起こったら大変だと思った」と話し、和ごころの会の二瓶隆会長は「これを機に防災意識が高まれば」と期待していた。

(田子紳一通信員)

【十勝毎日新聞】 2015年3月27日

## 野鳥に感動 浦幌で観察会

【浦幌】町立博物館ミニ移動講座「渡り鳥観察会」が3月29日、町内の浦幌川や浦幌十勝川、十勝川流域の湖沼群付近で開かれた。町民7人が参加し、北方へ帰る途中で羽を休めている野鳥を観察した。



野鳥を観察する参加者

この日はハクガンやカモ類などが見られ、このうち昨年秋季に127羽が確認されていたハクガンは24羽を確認した。また、町のキャラクター「うらはは・ほろま

のモデルで町の鳥のアオサギは、70ほどのコロニー(集団営巣地)を形成して抱卵。婚色が一番美しい時期で、舞い上がる優雅な姿に歓声が上がった。

この他、マガン、ヒシクイ、オオハクチョウ、オナガガモなども観察。牧草畑で餌をついばむ3羽のタゲリも観察し、鮮やかなメタリックの羽と後頭から伸びる黒く長い冠羽が特徴の鳥に見入っていた。

町内在住の井上靖彦さん(50)は「初めてハクガンを見たが、きれいで良かった」と感動し、町内の男性(63)も「めったに見られないタゲリは感激」と話した。

(田子紳一通信員)

【十勝毎日新聞】 2015年4月2日

刺繍細やかに  
アイヌ文様作品  
14日まで展示

【浦幌】アイヌ文様刺繍（ししゅう）展示会（道アイヌ協会浦幌支部、町立博物館主催）が町博物館ホールで開かれている。14日まで。



アイヌ文様をあしらった刺繍作品に見入る来場者たちど合わせて35点が展示されている。

今年初めての挑戦で、のれんやタペストリー、バッグを制作した町内在住の広富小百合さんは「細かい作業が好きなので、時間がかかって大変だったけど楽しかった」と話していた。家族3人で見学した町内在住の石田美咲さん（34）、正龍君（7）、健心ちゃん（5）は「すごく細かい作業で驚いた」と感心していた。

会場には、アイヌ文化振興・研究推進機構（札幌）でアドバイザーを務める山本みい子さんと、廣川和子さんの作品も展示されている。（広橋基嗣通信員）

「十勝毎日新聞」 2015年4月4日

## XII. 条例、教育委員会規則、教育委員会規程

### ○浦幌町教育文化センターの設置及び管理等に関する条例

(平成11年9月20日条例第20号)

(目的)

第1条 この条例は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2の規定に基づき、浦幌町教育文化センター（以下「センター」という。）の設置及び管理等に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(設置)

第2条 センターは、町民の教育文化の振興発展と学術の向上を図るため設置する。

(名称及び位置)

第3条 センターの名称及び位置は、次のとおりとする。

名称 浦幌町教育文化センター

位置 浦幌町字桜町16番地の1

(教育機関)

第4条 センター内に次の教育機関を置く。

(1) 浦幌町立図書館（以下「図書館」という。）

(2) 浦幌町立博物館（以下「博物館」という。）

(図書館奉仕)

第5条 図書館は、おおむね次の各号に掲げる奉仕を行う。

(1) 図書、記録及びその他必要な資料（以下「図書館資料」という。）を収集し、町民の利用に供すること。

(2) 図書館資料の目録を整備すること。

(3) 図書館資料について、その利用のための相談に応ずること。

(4) 読書会及び研修会等を開催するとともに、その奨励を行うこと。

(5) 時事等に関する情報及び参考資料を紹介し及び提供すること。

(6) 学校、博物館、公民館等と緊密に連絡し、協力すること。

(図書館の職員)

第6条 図書館に館長及び司書、その他必要な職員を置く。

(図書館協議会)

第7条 図書館に浦幌町立図書館協議会（以下「図書館協議会」という。）を置く。

2 図書館協議会は、図書館の管理運営に関し必要な事項について調査審議するものとする。

3 図書館協議会の委員（以下「委員」という。）は、10名以内とし、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから教育委員会が委嘱する。

4 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

5 補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(博物館の事業)

第8条 博物館は、おおむね次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 実物、標本及びその他必要な資料（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、展示すること。
- (2) 博物館資料を博物館外で展示すること。
- (3) 博物館資料の利用に関し必要な説明及び指導等を行い、又は研究室等を利用させること。
- (4) 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究及び保管、展示等の技術的研究を行うこと。
- (5) 博物館資料に関する案内書及び解説書等を作成し、頒布を行うこと。
- (6) 博物館資料に関する講演会及び研究会等を開催するとともに、その奨励を行うこと。
- (7) 浦幌町にある文化財保護法（昭和25年法律第214号）の適用を受ける文化財について、解説書及び目録を作成し、町民の文化財の利用の便を図ること。
- (8) 学校、図書館、公民館等と緊密に連絡し、協力すること。

(博物館の職員)

第9条 博物館に館長及び学芸員、その他必要な職員を置く。

(博物館協議会)

第10条 博物館に浦幌町立博物館協議会（以下「博物館協議会」という。）を置く。

- 2 博物館協議会は、博物館の管理運営に関し必要な事項について調査審議するものとする。
- 3 博物館協議会の委員の定数及び任期等については、第7条第3項から第5項の規定を準用する。

(報酬及び費用弁償)

第11条 委員が会議等に出席したとき又は公務により旅行したときは、非常勤特別職の職員の報酬等に関する条例（昭和31年浦幌町条例第19号）に定めるその他の委員会、協議会に相当する報酬及び費用弁償を支給する。

(利用の制限)

第12条 館長は、次の各号の一に該当する場合は、利用を禁止し、制限し、又は退館させることができる。

- (1) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれがあると認められるとき。
- (2) 建物又はその設備を滅失し、損傷するおそれがあると認められるとき。
- (3) 集団的に又は常習的に暴力的不法行為を行うおそれがある組織及びその構成員の利益になると認められるとき。
- (4) その他管理運営上支障があると認めたとき。

(損害賠償の義務)

第13条 利用者が建物及び設備又は図書館資料若しくは博物館資料をき損、汚損又は滅失したときは、教育委員会が定める損害額を賠償しなければならない。

(規則への委任)

第14条 この条例に定めるもののほか、必要な事項は教育委員会規則で定める。

附 則

- 1 この条例は、平成11年12月1日から施行する。
- 2 浦幌町郷土博物館設置条例（昭和44年浦幌町条例第21号）は、廃止する。

## ○浦幌町立博物館の管理、運営等に関する教育委員会規則

(平成11年12月1日教育委員会規則第4号)

(目的)

第1条 この教育委員会規則は、浦幌町教育文化センターの設置及び管理等に関する条例（平成11年浦幌町条例第20号。以下「条例」という。）第4条第2号に規定する浦幌町立博物館（以下「博物館」という。）の管理、運営等について必要な事項を定めることを目的とする。

(博物館協議会)

第2条 浦幌町立博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織等については、浦幌町立図書館の管理、運営等に関する教育委員会規則（平成11年浦幌町教育委員会規則第3号）第2条の規定を準用する。

(開館時間)

第3条 常設展示室の開館時間は、午前10時から午後5時までとする。

2 前項の規定にかかわらず、館長が必要と認めたときはその時間を臨時に変更することができる。

(休館日)

第4条 常設展示室の休館日は次のとおりとする。

- (1) 月曜日（月曜日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「国民の休日」という。）の場合は、その翌日）
- (2) 国民の休日の翌日。ただし、土曜日、日曜日及び国民の休日に当たるときを除く
- (3) 年末年始
- (4) その他館長が必要と認めた日

2 前項の規定にかかわらず、館長が必要と認めたときは休館日を臨時に変更することができる。

(常設展示室利用者の遵守事項)

第5条 利用者は、この教育委員会規則及び館長の指示に従うほか、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 許可なく博物館資料を撮影し、又は複製しないこと。
- (2) 許可なく展示資料に手を触れないこと（特に指定した展示品を除く。）。)
- (3) 音読、高談その他騒がしい行為をしないこと。
- (4) 飲食又は喫煙をしないこと。
- (5) 展示品の近くでインク、墨汁等を使用しないこと。

(博物館資料の寄贈等)

第6条 博物館は、博物館資料の寄贈又は寄託を受けることができる。

2 博物館に博物館資料を寄贈又は寄託しようとする者は、浦幌町財務規則（昭和60年浦幌町規則第12号）第158条の規定にかかわらず館長に博物館資料寄贈（寄託）申込書（別記様式第1号）を提出し、承認を受けなければならない。

3 館長は、前項の提出があったときは遅滞なくその取扱いについて決定し、寄贈を受ける場合はその資料と引換えに博物館資料受領証（別記様式第2号）を寄贈者に交付しなければならない。また、寄託した者に対しては博物館資料受託証（別記様式第3号）を交付するものとする。

4 寄贈された博物館資料は理由のいかんを問わず返還しない。

(寄託博物館資料の返還)

第7条 寄託博物館資料は、博物館資料受託証と引換えに返還しなければならない。

(寄託博物館資料の損失責任)

第8条 博物館は、寄託された博物館資料が滅失若しくは紛失又は破損してもその責は負わないものとする。

(館外利用)

第9条 館長は、教育長の承認を得て、博物館の所蔵する博物館資料を他の博物館その他館長が適当と認められた者に館外貸出しをすることができる。ただし、寄託を受けた博物館資料については、原則として貸し出さないものとする。

(貸し出し期間)

第10条 前条に規定した博物館資料の貸し出し期間は、90日以内とする。

2 前項の規定にかかわらず、特に必要と認めるときは、博物館資料の貸し出し期間を延長することができる。

3 館長は、必要があるときは、貸し出し期間中であっても、博物館資料の返還を求めることができる。

(館外貸出しを受けた博物館資料の遵守義務)

第11条 博物館資料の貸出しを受けた者は、当該博物館資料を、承認を受けた利用の目的又は場所以外の目的又は場所以外で利用してはならない。

2 貸出しの許可を受けた者は、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 当該博物館資料が滅失し、又はき損したときは、当該博物館資料を原状に回復し、及びそれによって生じた損害を賠償すること。
- (2) 当該博物館資料等の運搬及び維持管理に要する経費を負担すること。
- (3) 承認を受けた利用目的又は利用の場所を変更しないこと。
- (4) 貸出し満了期間までに指定された場所に返納すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか館長が指示する事項。

(博物館資料の特別利用)

第12条 博物館資料を学術上の研究その他の目的のため撮影、複写、模写又は模造（以下「特別利用」という。）を行おうとする者は、あらかじめ、特別利用申請書（別記様式第4号）又はそれに類する書類を館長に提出し、承認を求めなければならない。

2 前項の規定により特別利用を承認したときは、特別利用承認書（別記様式第5号）を交付するものとする。

3 前項の場合において、当該博物館資料が寄託を受けたものであるときは、文書により寄託者の承諾を得なければならない。

4 特別利用は、館長の指示に従って行わなければならない。

(模写品等の刊行等の承認)

第13条 博物館資料を模写し、模造し、撮影し、又は複写したもの（以下「模写品等」という。）を刊行し、若しくは複製し、又は研究発表等に使用しようとする者は、あらかじめ、模写品等使用申請書（別記様式第6号）又はそれに類する書類を館長に提出し、承認を受けなければならない。

2 館長は、模写品等の使用を承認したときは、模写品等使用承認書（別記様式第7号）を交付するものとする。

(委任)

第14条 この教育委員会規則に定めるもののほか必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この教育委員会規則は、平成11年12月1日から施行する。
- 2 浦幌町郷土博物館設置条例施行規則（昭和44年浦幌町教育委員会規則第1号）は、廃止する。
- 3 旧教育委員会規則により現に、収集、保管及び館外貸出し等されている博物館資料は、この教育委員会規則に基づき収集、保管及び貸出し等されているものとみなす。



別記様式第5号

特 別 利 用 承 認 書		
年 月 日		
(申請者) 様		
浦幌町立博物館長 印		
年 月 日申請の浦幌町立博物館資料の特別利用を、次のように承認します。		
記		
利用目的		
利用期間	年 月 日 ~ 年 月 日 ( 日間)	
利用方法	閲覧・模写・模造・撮影・複写・その他 ( )	
利 用 資 料 名	点 数	備 考
注意 1 利用時間は、午前10時から午後5時までとする。 2 利用に当たっては、係員の指示に従うこと。 3 前項に違反したときは、承認を取り消すことがある。		

別記様式第6号

受付番号		第 号
模 写 品 等 使 用 申 請 書		
年 月 日		
浦幌町立博物館長 様		
申請者 住所 (法人又は団体にあつては主たる事務所所在地)		
氏名 (法人又は団体にあつては名称及び代表者氏名) 印		
電話		
次のように浦幌町立博物館資料の模写等をしたので、申請します。		
記		
使用目的		
模写等区分	模写・模造・撮影・複写	
製作等区分	刊行・複製・研究発表等	
作品名		
製作数		
予定価格	有料 ( 円 ) ・ 無料	
製作予定年月日	年 月 日	
模写等資料名		
注) 刊行企画書、複製仕様書、研究発表会の開催要項等の参考資料があれば添付して下さい。		

別記様式第7号

承認番号		第 号
模 写 品 等 使 用 承 認 書		
年 月 日		
(申請者) 様		
浦幌町立博物館長 印		
年 月 日申請の浦幌町立博物館資料模写等を、次のように承認します。		
記		
使用目的		
模写等区分	模写・模造・撮影・複写	
製作等区分	刊行・複製・研究発表等	
作品名		
製作数		
予定価格	有料 ( 円 ) ・ 無料	
製作予定年月日	年 月 日	
模写等資料名		
注) 1 上記使用目的以外に使用しないこと。 2 使用に際しては、浦幌町立博物館所蔵の旨を明記すること。		

## ○浦幌町立博物館処務規程

(平成11年12月1日教育委員会規程第2号)

改正 平成13年6月29日教委訓令第5号

平成15年6月30日教委訓令第3号

(目的)

第1条 この教育委員会規程は、浦幌町立博物館（以下「博物館」という。）の機構と事務処理上必要な事項を定めることを目的とする。

(職員の職)

第2条 博物館に館長及び学芸員を置き、必要に応じて係長、主任、主査、主事その他の職員及び学芸員補を置くことができる。

(任免)

第3条 前条に規定された博物館の職員の任免は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第34条の規定に基づき、教育長の推薦により、教育委員会が行う。

(服務)

第4条 博物館の職員の服務は、別に定めるものを除き、浦幌町教育委員会事務局職員の例による。

(職務の分掌)

第5条 館長は、上司の命を受けて、館務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

2 学芸員は、上司の命を受け、博物館法（昭和26年法律第285号。以下「法」という。）第4条第4項に規定する職務を行う。

3 係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。

4 主任は、上司の命を受け、館長が定める特定の事務を処理する。

5 主査は、上司の命を受け、担当事務を処理する。

6 主事及びその他の職員は、上司の命を受け、事務をつかさどる。

7 学芸員補は、法第4条第6項に規定する職務を行う。

(係の設置)

第6条 博物館に博物館係を置く。

(事務の分掌)

第7条 博物館係は、次の事務をつかさどる。

- (1) 公印の管守に関すること。
- (2) 人事、経理、文書その他庶務に関すること。
- (3) 浦幌町立博物館協議会に関すること。
- (4) 予算及び決算に関すること。
- (5) 物品の出納及び管理に関すること。
- (6) 施設設備の管理に関すること。
- (7) 博物館資料の収集、保管及び展示に関すること。
- (8) 博物館資料の説明及び助言等に関すること。
- (9) 博物館資料の調査研究に関すること。

- (10) 博物館資料の案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等の作成及び配布に関すること。
- (11) 博物館事業の広報に関すること。
- (12) 博物館事業の企画運営に関すること。
- (13) その他博物館運営及び博物館資料に関する専門的事項に関すること。

第8条 削除

第9条 削除

(専決)

第10条 館長は、他に定めのあるものを除き、次の各号に掲げる事務について専決することができる。

- (1) 施設設備の使用及び管守に関すること。
- (2) 専用公印の管守に関すること。
- (3) 関係団体の育成及び指導等に関すること。
- (4) 博物館の行う恒例又は軽易な事業の企画運営に関すること。
- (5) 前各号に準ずる軽易な事務処理に関すること。

第11条 前条各号に掲げる事項であっても、特に重要な事項又は取扱上異例に属する事項若しくは疑義のある事項の処理については、教育長の承認を受けて処理しなければならない。

(事業計画及び事業実績報告等)

第12条 館長は、当該年度に実施すべき年間の事業計画を教育長が別に定める日までに届け出るものとする。

第13条 館長は、当該年度に実施された年間の事業実績報告等を教育長が別に定める日までに報告しなければならない。

(帳簿)

第14条 博物館には、次の各号に掲げる簿冊を備え付け、常に適正に記帳、整備しなければならない。

- (1) 博物館日誌（別記様式第1号）
- (2) 備品台帳（収蔵されている博物館資料を除く。）
- (3) 図書台帳
- (4) 旅行命令簿
- (5) 経理簿
- (6) 会議日誌
- (7) 出勤簿
- (8) 公文書綴り
- (9) 沿革史
- (10) 博物館資料寄贈申込台帳
- (11) 博物館資料寄託申込台帳
- (12) 博物館資料受入台帳（別記様式第2号）
- (13) その他館長が必要と認めた簿冊

(合議)

第15条 館長は、事務執行上異例又は重要と認められるものは、教育委員会事務局の関係課長等と合議しなければならない。

(公印)

第16条 博物館の文書に用いる印章（以下「公印」という。）は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 浦幌町立博物館協議会長の印
  - (2) 浦幌町立博物館の印
  - (3) 浦幌町立博物館長の印
- 2 前項の公印は、館長が保管する。
- 3 公印の規格、定位置及び定数は、別表のとおりとする。
- 4 公印の刻字面の様式は、別記様式第3号のとおりとする。

(文書の記号)

第16条の2 文書の記号は、教育委員会名及び博物館名をもって構成する。

2 前項の記号は、次のとおりとする。

浦博物

(博物館資料の受入れ)

第17条 博物館で受け入れた資料は、博物館資料受入台帳に所定の事項を記入し、その資料の由来等を調査後、速やかに博物館資料記録票を作成しなければならない。

第18条 前条の博物館資料には、その由来等を明らかにするために博物館資料整理カード（別記様式第4号）を貼付しなければならない。ただし、それによりがたい場合は、その他適当な方法でその由来等を明らかにしなければならない。

(準用規定)

第19条 この教育委員会規程に定めるもののほか、必要な事項は浦幌町教育委員会事務局処務規程（平成13年浦幌町教育委員会訓令第2号）を準用する。

(読替え規定)

第20条 浦幌町教育委員会事務局処務規程を準用する場合、「課長」とあるのを「館長」と読み替えるものとする。

附 則

- 1 この教育委員会規程は、平成11年12月1日から施行する。
- 2 この教育委員会規程施行の際に現に使用中の別記様式は、当分の間、従前のものを使用することを妨げない。

附 則（平成13年6月29日教委訓令第5号）

この教育委員会訓令は、公布の日から施行する。

附 則（平成15年6月30日教委訓令第3号）

この教育委員会規程は、平成15年7月1日から施行する。

## 別表（第16条第3項関係）

種 別	規 格	定数	定 位 置	個数	摘 要
浦幌町立博物館協議会長の印	18ミリメートル四方	1	博物館管理係	1	古天（横書き）
浦幌町立博物館の印	30ミリメートル四方	1	博物館管理係	1	古天（横書き）
浦幌町立博物館長の印	18ミリメートル四方	1	博物館管理係	1	古天（横書き）

XII. 条例、教育委員会規則、教育委員会規程

別記様式第1号

決 裁	館長	回	議	係	合	議
年 月 日 ( ) 天 候						
寄 贈 等	博物館資料の寄贈	寄贈者	住所	品名数量等		
	博物館資料の寄託	寄託者	住所	品名数量等		
	博物館資料の返還	受領者	住所	品名数量等		
事 業 等	事業名		～	特記事項		
	事業名		～	特記事項		
来 館 者	所属氏名		所属氏名			
	所属氏名		所属氏名			
団 体 入 館 者	団体名		人数	特記事項		
	団体名		人数	特記事項		
	団体名		人数	特記事項		
職 員 動 静	氏 名	旅行先	目的			
備 考						

浦 幌 町 立 博 物 館

別記様式第2号

要 摘	受入番号	受入年月日	品名	受入方法	寄贈者等住所・氏名	分類番号	収蔵番号
		月 日		託入の 寄贈 製作 購入 発掘 複製 その他	住所 氏名		
		月 日		託入の 寄贈 製作 購入 発掘 複製 その他	住所 氏名		
		月 日		託入の 寄贈 製作 購入 発掘 複製 その他	住所 氏名		
		月 日		託入の 寄贈 製作 購入 発掘 複製 その他	住所 氏名		
		月 日		託入の 寄贈 製作 購入 発掘 複製 その他	住所 氏名		
		月 日		託入の 寄贈 製作 購入 発掘 複製 その他	住所 氏名		
		月 日		託入の 寄贈 製作 購入 発掘 複製 その他	住所 氏名		
		月 日		託入の 寄贈 製作 購入 発掘 複製 その他	住所 氏名		

浦 幌 町 立 博 物 館

別記様式第3号

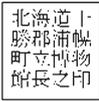
- 1 浦幌町立博物館協議会長の印



- 2 浦幌町立博物館の印



- 3 浦幌町立博物館長の印



別記様式第4号

浦幌町立博物館	
受入番号	○
収蔵番号	—
分類番号	
受入年月日	年 月 日
資料名	
寄贈者等名	
寄贈者等住所	
受入方法	寄贈・採集・発掘・寄託 製作・購入・複製・その他
摘要	

注) 1 年号は西暦で記載すること。  
2 「受入方法」は、適当なものを○で囲むこと。

## XIII. 平成26年度予算

### 10款 教育費 5項 社会教育費 3目 博物館費

(単位:千円)

当 初 予算額	補正額	計	節		説 明
			区 分	金 額	
2,068	0	1,725	1 報 酬	25	委員報酬 25
			8 報償費	185	報償金 185
			9 旅 費	157	費用弁償 2
					普通旅費 155
			11 需用費	1,428	消耗品費 487
					印刷製本費 573
					光熱水費 18
					修繕料 350
					賄材料費 10
			12 役務費	110	通信運搬費 72
					手数料 38
			13 委託料		パネル制作委託業務 119
14 使用料及び賃借料	0	その他借上料 0			
15 工事請負費	0	工事請負費 0			
16 原材料費	10	原材料費 10			
18 備品購入費	30	備品購入費 30			
19 負担金、補 助及び交付 金	23	北海道博物館協会負担金 15			
		帯広百年記念館運営連絡協議会負担金 3			
		道東3管内博物館施設等連絡協議会負担金 5			
		研修会参加負担金 0			

## 浦幌町立博物館年報 第16号

発行日 2015年11月30日

編集・発行 浦幌町立博物館  
〒089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町16番地1  
電話 015-576-2009 FAX. 015-576-2452

印刷所 大同出版紙業株式会社  
〒080-0017 北海道帯広市西7条南6丁目2番地  
電話 0155-23-5107 FAX. 0155-23-9032